

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 第29集

竹松遺跡

都市計画道路池田沖田線街路改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 VI

2019

長崎県教育委員会



写真1 平成28年度調査区遠景（南東から）



写真2 基本層序（B区西壁0787グリッド）



写真3 掘立柱建物跡 SB01・02・03 完掘状況 (南から)



写真4 集石遺構 SS01 検出状況



写真5 平成29年度調査区遠景（北西から）



写真6 炉跡 SL01 半截断面（北西から）



写真7 ピット列 SA01 完掘状況（東から）



写真8 SA01 構造物完掘状況（北から）

刊行にあたって

本書は、都市計画道路池田沖田線街路改築工事に伴い、平成 28・29 年度に実施した竹松遺跡の発掘調査報告書です。

竹松遺跡は、古くより古代の須恵器や初期貿易陶磁器が出土する寿古遺跡と並び、近傍を流れる郡川の名称も相まって、古代の「彼杵郡」郡家の推定地の一つと考えられている遺跡です。

近年では、九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設に伴う大規模な発掘調査が行われ多くの成果が上がっています。新幹線の車両整備基地として 10 万㎡を超える面積が調査対象地となり、弥生時代の居住域や墓域をはじめ、これまで知られていなかった古墳の存在など新たな発見が相次ぎました。特に古代から中世前半にかけての調査成果は目ざましく、石帯や土馬、墨書・刻書土器などの官衙的性格を有する遺物や多量の初期貿易陶磁器が出土しています。また、鹿児島県徳之島で生産されたカムイヤキ焼の出土や掘立柱建物跡からなる倉庫群の検出等も、東シナ海を通じた対外交流の中で大村湾が果たした役割を解明する上で重要なものとなりました。

古代末の倉庫群が確認された平成 27 年度調査区に隣接する平成 28 年度調査区では、中世の掘立柱建物跡や集石遺構等が検出されました。また平成 29 年度調査区では近世を中心とした遺構、遺物が見つかっています。広大な竹松遺跡や周辺の川端遺跡等の時代ごとの特徴について考える際の資料を得ることができました。

この発掘調査にあたってご協力いただいた多くの関係者の皆様方に深く感謝を申し上げますとともに、この調査成果が学術的に広く活用され、さらには地域の方々の郷土を理解する資料として役立てていただければ幸いです。

平成 31 年 3 月

長崎県教育委員会教育長

池松 誠二

例 言

1. 本書は、都市計画道路池田沖田線街路改築工事に伴い、平成 28・29 年度に実施した竹松遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書は平成 28・29 年度都市計画道路池田沖田線街路改築工事に伴う竹松遺跡発掘調査報告書作成費にもとづいて発行した。
3. 本事業は長崎県県央振興局建設部都市計画課が事業主体となり、発掘調査主体は長崎県教育委員会が、発掘調査は長崎県教育庁長崎県埋蔵文化財センターが担当した。発掘調査の長崎県遺跡調査番号は平成 28 年度調査が TAK201609、平成 29 年度調査が TAK201705 である。
4. 発掘調査及び報告書作成において下記の業務委託を行なった。
 - <平成 28 年度調査>
発掘調査支援：株式会社プロレリック 放射性炭素年代測定：株式会社古環境研究所
 - <平成 29 年度調査>
発掘調査支援：大成エンジニアリング株式会社・株式会社創建 JV
火山灰分析：株式会社火山灰考古学研究所
5. 平面直角座標は世界測地系を、方位は座標北を用いている。
6. 発掘調査に係る現地指導、情報・資料提供など以下の方々に御指導・御協力いただいた（敬称略、所属順）。
河合恭典（壱岐市立一支国博物館）大野安生・安樂哲史・柴田亮（大村市教育委員会）、
佐藤浩司（北九州市芸術文化振興財団）、古門雅高・川道寛・川畑敏則・堀内和宏（長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所）
7. 金属製品の透過エックス線撮影及び保存処理は、長崎県埋蔵文化財センター調査課・片多雅樹係長、鮫島葵文化財調査員が行った。
8. 本書に収録した遺物の実測および製図は、長崎県埋蔵文化財センターが行った。
9. 本書収録の遺物・図面・写真類は長崎県埋蔵文化財センターに保管している。
10. 本書収録の遺物番号は各調査の収蔵登録 ID「TAK201609- 〇〇〇」及び「TAK201715- 〇〇〇」の枝番号部分と一致する。また、収蔵登録 ID は遺物へ注記し収蔵台帳に記載している。
11. 本書に掲載した地質図は、地質図幅「北部（縮尺 1:200,000）」『九州地方土木地質図』（九州地方土木地質図編纂委員会 1985）を使用し作成したものである。
12. 本書に掲載した周辺遺跡分布図は、長崎県教育庁学芸文化課のウェブコンテンツ「長崎県遺跡地図」を使用し加工して作成したものである。
引用元 URL：長崎県教育庁ウェブサイト <http://news.ed.jp/iseki/controller/iseki.php>
13. 本書の執筆・編集は第 1 部を松元・山梨が、第 2 部（平成 28 年度調査）を松元が、第 3 部（平成 29 年度調査）を山梨が行った。

第1部. 遺跡の環境と調査の経緯

I. 遺跡の環境	1
1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	2
II. 調査に至る経緯	5
1. 調査に至る経緯	5
(1) 都市計画道路池田沖田線建設	
(2) 協議	
2. 試掘・範囲確認調査	5
(1) 調査期間と面積	
(2) 調査体制	
(3) 試掘・範囲確認調査の概要	

第2部. 平成28年度調査区

本文目次

I. 調査の概要	7
1. 調査期間と面積	7
2. 調査体制	7
3. 発掘調査の流れ	7
(1) 協議	
(2) 発掘調査の流れ	
4. 層序と地形	8
(1) 基本層序	
(2) 旧地形の推定	
5. 調査の概要	11
(1) 遺構	
(2) 遺物	
6. 整理作業・報告書作成	13
II. 縄文時代～古墳時代の遺物	16
1. 遺物	16
(1) 石器	
(2) 土器	
III. 中世の遺構と遺物	18
1. 遺構	18
(1) 掘立柱建物跡	
(2) ビット	
(3) 集石遺構	
(4) 土坑	
2. 遺物	23
(1) 貿易陶磁器	
(2) 土師質土器	
(3) 石鍋・陶器・瓦質土器	
IV. その他の遺構と遺物	27
1. 遺構	27
(1) 土坑	

- (2) 溝状遺構
- (3) ビット
- (4) その他

ビット一覧	28
遺物一覧	33

V. 自然科学分析(放射性炭素年代測定)	36
----------------------	----

VI. 総括	41
【引用・参考文献】	42

図目次

図1 表層地質図(S=1/100,000)	1
図2 周辺遺跡分布図	3
図3 平成28・29年度調査区位置図	6
図4 土層断面図1(S=1/80)	9
図5 土層断面図2(S=1/80)	10
図6 旧河道と自然堤防跡	11
図7 調査区全体図(S=1/400)	12
図8 A区遺構分布図(S=1/200)	13
図9 B区遺構分布図(S=1/200)	14
図10 C・D区遺構分布図(S=1/200)	15
図11 遺物実測図[縄文～古墳時代](S=1/3)	17
図12 SB01・02・03 実測図(S=1/60)	19
図13 ビット実測図(S=1/20)	20
図14 SS01・02 実測図(S=1/20)	21
図15 SS03・SK01 実測図(S=1/20)	22
図16 SK07 実測図(S=1/20)	23
図17 遺物実測図[貿易陶磁器・土師質土器](S=1/3)	25
図18 遺物実測図[石鍋・陶器・瓦質土器](S=1/3)	26

表目次

表1 周辺遺跡一覧	2
表2 ビット一覧1	28
表3 ビット一覧2	29
表4 ビット一覧3	30
表5 ビット一覧4	31
表6 ビット一覧5	32
表7 遺物一覧1(土器・陶磁器)	33
表8 遺物一覧2(土器・陶磁器)	34
表9 遺物一覧3(土器・陶磁器)	35
表10 遺物一覧4(石器)	35

写真目次

【巻頭図版】	
巻頭図版1	
写真1 写真1 平成28年度調査区遠景(南東から)	
写真2 基本層序(B区西壁0787グリッド)	
巻頭図版2	

写真3 掘立柱建物跡 SB01・02・03 完掘状況(南から)

写真4 集石遺構 SS01 検出状況

【写真図版】

写真図版 1

写真1 B区北下層確認トレンチ土層断面状況(南東から)

写真2 B区南下層確認トレンチ土層断面状況(南から)

写真3 A・B区遺構検出状況(右が北)

写真図版 2

写真4 C・D区遺構検出状況(右が北)

写真5 A区遺構検出状況(北西から)

写真6 B・C区境遺構検出状況(北西から)

写真図版 3

写真7 A区遺構完掘状況(上が北)

写真8 B区遺構完掘状況(右が北)

写真9 C区遺構完掘状況(右が北)

写真図版 4

写真10 SP01(SB01) 半裁状況(西から)

写真11 SP01(SB01) 遺物出土状況(西から)

写真12 SP82(SB01) 根巻石検出状況(東から)

写真13 SP438(SB01) 半裁状況(西から)

写真14 SP93(SB01) 半裁状況(西から)

写真15 SP93(SB01) 完掘状況(南から)

写真16 SP75(SB02) 根巻石検出状況(西から)

写真17 SP397(SB03) 根巻石検出状況(南から)

写真図版 5

写真18 SP384(SB03) 根巻石検出状況(南から)

写真19 SP76(SB03) 半裁状況(西から)

写真20 SP411 半裁状況(東から)

写真21 SP506 半裁状況(北西から)

写真22 SP490 半裁状況(南から)

写真23 SP687 遺物出土状況(西から)

写真24 SP656 遺物出土状況(東から)

写真25 SP610 遺物出土状況(南から)

写真図版 6

写真26 SP451 遺物出土状況(南から)

写真27 SP87 半裁状況(西から)

写真28 SP125 根巻石検出状況(西から)

写真29 SS01 半裁状況(南から)

写真30 SS01 焼土・炭化物検出状況(北から)

写真31 SS01 焼土・炭化物検出状況(東から)

写真32 SS02 半裁状況(西から)

写真33 SS02 完掘状況(西から)

写真図版 7

写真34 SS03 検出状況(南西から)

写真35 SS03 完掘及び古銭出土状況(北東から)

写真36 SK01 検出及び古銭出土状況(南から)

写真37 SK01 半裁状況(南から)

写真38 SK07 底石出土状況(南から)

写真39 SD01 完掘状況(北東から)

写真40 SX01 土層断面状況(南から)

写真41 SX01 土層断面状況(西から)

写真図版 8

写真42 出土石器(縄文時代～中世)

写真43 出土土器(縄文時代～古墳時代)

写真図版 9

写真44 出土貿易陶磁器・土師質土器(中世)

写真図版 10

写真45 出土石鍋・瓦質土器・陶磁器(中世以降)

写真46 出土金属製品(中世以降)

第3部. 平成29年度調査区

本文目次

I. 調査の概要	53
1. 調査期間と面積	
2. 調査体制	
3. 調査の流れ	
4. 層序と地形	
(1) 基本層序	
(2) 旧地形の推定	
5. 調査の概要	
6. 整理作業・報告書作成	
II. 縄文時代～中世の遺物	61
1. 遺物	
(1) 縄文時代の遺物	
(2) 古墳時代から中世の遺物	
III. 近世～近代の遺構と遺物	64
1. 遺構	
(1) 炬跡	
(2) 土坑	
(3) 不明遺構	
2. 遺物	
(1) 近世陶磁器	
(2) その他	
IV. その他の遺構と遺物	69
1. 遺構	
(1) 掘立柱建物跡	
(2) ピット列(門跡)	
(3) 溝状遺構	
(4) 土坑	
2. 遺物	
(1) 須恵器	
(2) 貿易陶磁器	
(3) 近世の遺物	
V. 自然科学分析(火山灰分析)	81
VI. 総括	89
【引用・参考文献】	90

図目次

図 19	A区土層断面図 (S=1/80)	56
図 20	B区土層断面図 (S=1/80)	57
図 21	調査区全体図 (S=1/600)	58
図 22	A区遺構分布図 (S=1/250)	59
図 23	B区遺構分布図 (S=1/250)	60
図 24	遺物実測図 [縄文土器・石器] (S=1/3・2/3)	61
図 25	遺物実測図 [古墳時代～中世の遺物 (須恵器・土師器・瓦質土器)] (S=1/3)	62
図 26	遺物実測図 [古墳時代～中世の遺物 (陶磁器・石鍋)] (S=1/3)	63
図 27	SL01 実測図 (S=1/20)	64
図 28	SK04 実測図 (S=1/20)	65
図 29	遺物実測図 [近世～近代の遺物] (S=1/3・1/4)	67
図 30	遺物実測図 [近世～近代の遺物] (S=1/4)	68
図 31	SB01 実測図 (S=1/80)	69
図 32	SA01 実測図 (S=1/100)	71
図 33	SD01・SD02 実測図 (S=1/120)	72
図 34	遺物実測図 [その他の遺物] (S=1/3・1/4)	73

表目次

表 11	遺構一覧 1	74
表 12	遺構一覧 2	75
表 13	遺構一覧 3	76
表 14	遺構一覧 4	77
表 15	遺構一覧 5	78
表 16	遺物一覧 1 (土器・陶磁器)	79
表 17	遺物一覧 2 (土器・陶磁器)	80
表 18	遺物一覧 3 (石器)	80

写真目次

【巻頭図版】

巻頭図版 3

写真 5 平成 29 年度調査区遠景 (北西から)

写真 6 炉跡 SL01 半截断面 (北西から)

巻頭図版 4

写真 7 ビット列 SA01 完掘状況 (東から)

写真 8 SA01 構造物完掘状況 (北から)

【写真図版】

写真図版 1

写真 47 A区全景写真

写真 48 B区全景写真

写真図版 2

写真 49 A区西壁土層断面北側 (北東から)

写真 50 A区西壁土層断面南側 (南東から)

写真 51 B区東壁土層断面 (南西から)

写真図版 3

写真 52 SL01 検出状況 (南から)

写真 53 SL01 焼土下甕検出状況 (北西から)

写真 54 SD01・SD02 検出状況 (東から)

写真図版 4

写真 55 SD02 土層断面 (東から)

写真 56 SD01 土層断面 (北東から)

写真 57 B区全景写真 SB01 部分拡大

写真図版 5

写真 58 SK04 完掘状況 (北東から)

写真 59 SK07 検出状況 (北東から)

写真 60 SX01 土層断面 (西から)

写真図版 6

写真 61 出土土器 (縄文時代)

写真 62 出土土器 [土師器・須恵器・瓦質土器]
(古墳時代～中世)

写真図版 7

写真 63 出土陶磁器・石鍋 (古墳時代～中世)

写真 64 出土陶磁器・瓦質土器 (近世～近代)

写真図版 8

写真 65 出土瓦 (近世～近代)

写真 66 出土土器・陶磁器・石鍋 (その他の遺構)

写真 67 SB01 出土陶磁器

写真 68 出土石器

かに広がっており、火山南部の諫早市から大村市南部にかけて大きく3つの火山麓扇状地が形成されている。

また多良岳火山西側は、郡川水系及び大上戸川水系により開析され、その土石流堆積物等により火山裾部に扇状地が形成されている。この大村扇状地の形成時期は旧期（更新世）と新期（完新世）に分けられ、その他の谷底低地や氾濫原、河海性沖積地（三角州）等とともに大村平野をなしている。

扇状地の大部分を占める旧期扇状地は厚さ60m以上の砂礫層からなる。地点によっては始良丹沢火山灰（AT）に覆われ、さらにその上位には鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）をのせていることから、砂礫層上部は最終氷期最盛期（2～3万年前）に形成されたと推定されている。この砂礫層は大村湾海底の沖積層の基底砂礫層に連続する。扇端の両角部には新期扇状地または三角州が形成され、扇端北側角部では現在の矢次橋付近から郡川河口に向けて広がっている。これらは厚さ10m以上の砂礫とシルト・粘土の互層及び貝殻片からなっている。郡川下流の条里遺構はこうした砂礫層の上に構築されていたとみられ、新期扇状地面と沖積面の形成は1,300年前までにはほとんど完了していたと考えられる。扇状地の表面には土石流堆積物や自然堤防などからなる多数の微高地が傾斜方向に放射状に伸びており、その間に旧河道が認められる。

2. 歴史的環境

竹松遺跡周辺では旧石器時代から近代までの各時代の遺跡が確認されており、継続的に生活の場として利用されてきたことが分かる。

旧石器時代の遺跡は郡川右岸の多良山系西麓丘陵上に分布しており、ナイフ形石器や台形石器を出土した葛城遺跡、野田A遺跡、野田の久保遺跡がある。遺跡が丘陵上に分布する状況は縄文時代早期

表1 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	種別	立地	時代	備考
1	竹松遺跡	遺物包含地	平野	縄文時代～近世	
2	黒丸遺跡	遺物包含地	平野	縄文時代～近世	集落遺跡
3	神田黒丸条里跡	条里跡	平野	古代～中世	
4	藤木遺跡	墳墓	平野	弥生時代～古墳時代	
5	富の原遺跡	遺物包含地	平野	弥生時代	甕棺・鉄支
6	好武城跡	城館跡	丘陵	中世	大村氏の居城
7	寿古遺跡	遺物包含地	丘陵	旧石器時代～近世	
8	今富城跡	城館跡	台地	中世	大村氏の居城
9	冷泉遺跡	遺物包含地	台地	古墳時代	
10	禰田遺跡	遺物包含地	丘陵	弥生時代～古墳時代	集落遺跡
11	野田の久保遺跡	遺物包含地	丘陵	縄文時代・弥生時代・近世	
12	黄金山古墳	古墳	台地	古墳時代	石棺系横口式石室
13	地堂古墳	古墳	台地	古墳時代	横穴式石室
14	岩名遺跡	遺物包含地	平野	縄文～弥生時代	甕棺
15	葛城古墳	古墳	台地	古墳時代	横穴式石室
16	葛城堤跡	遺物包含地	台地	旧石器時代	
17	山下遺跡	遺物包含地	丘陵	旧石器時代～弥生時代	
18	山下中世墓群	遺物包含地/墳墓	台地	縄文時代・中世～近世	
19	川端遺跡	遺物包含地	平野	弥生時代～中世	
20	平野遺跡	遺物包含地	平野	縄文時代～中世	
21	竹松小学校遺跡	遺物包含地	平野	縄文時代	
22	立小路遺跡	遺物包含地	平野	縄文	
23	小路口遺跡	遺物包含地	平野	縄文時代～中世	
24	小路口鬼の穴古墳	古墳	平野	古墳時代	横穴式石室

中葉の押型文土器段階まで続くが、縄文時代早期末になると大村湾周辺の低地部まで遺跡が進出する。縄文時代の遺跡として黒丸遺跡、立小路遺跡、岩名遺跡、野田の久保遺跡などがあり、黒丸遺跡では縄文時代晩期に扁平打製石斧や石皿の出土量の増加が顕著で植物栽培との関係が指摘されている。

弥生時代の主な遺跡として、石棺墓と成人甕棺墓が共存し、また成人甕棺墓の副葬品として鉄剣や鉄戈が出土したことで著名な富の原遺跡や、黒丸遺跡、川端遺跡、小路口遺跡、岩名遺跡などがある。

古墳時代には集落遺跡として石棺墓・配石墓とともに竪穴建物跡が見つかった冷泉遺跡のほか、黒丸遺跡や稗田遺跡がある。墳墓としては竪穴系横口式石室を有し4世紀後葉から5世紀初頭に位置づけられる黄金山古墳、6世紀後半の築造で横穴式石室を有する小路口鬼の穴古墳、終末期には野田古墳群などがあり、継続的に古墳が築造されている。

古代には郡川下流域に沖田・黒丸条里、大上戸川下流域に大上戸条里があり、郡川下流域は肥前国彼杵郡衛の比定地の一つとなっている。中世には大村市一帯は摂関家領荘園彼杵荘となるが、寿古遺跡やそれに隣接する好武城跡では古代から中世の輸入陶磁器などが出土している。

近世大村氏は鎌倉時代末期に藤津郡から移動してきたという説が有力である。大村氏の中世城館として好武城跡、今富城跡がある。大村氏の居館は最初大上戸川沿いの低地に大村館がつけられたが、16世紀前半には対岸丘陵上に三城城が築城される。大村氏の居城が三城城に移った後、大村館周辺は城下町（三城城下）として発展し、大村藩初代藩主大村喜前により玖島城が築城され政治・経済の中心地が玖島城周辺に移るまで、三城城とともに大村氏の領地支配の中心となった。

ところで竹松遺跡では平成23年度より開始された九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設に伴う発掘調査により様々な発見が相次いでいる。調査では縄文時代から近世までの各時代の遺物が出土し、縄文時代早期と考えられる落とし穴、弥生時代後期の居住域と石棺墓・甕棺墓・火葬骨片を含む祭祀跡などからなる墓域、古墳時代前期の削平された円墳などが確認された。中でも古代末から中世についての調査成果は大きく、古代末の倉庫群や中世の区画溝を伴う豪族居館といった遺構、石帯、刻書紡錘車、墨書・刻書土器、緑釉陶器、多量の輸入陶磁器、カムイヤキなどの遺物が確認されている。

II. 調査に至る経緯

1. 調査に至る経緯

(1) 都市計画道路池田沖田線建設

大村市の交通ネットワークにおける中心市街地以南の幹線道路は国道34号のみであり、慢性的な交通渋滞が発生している。また、池田沖田線の建設予定地周辺では市街地化が進行しており、狭小幅員の道路網の中に市街地が形成されている状況にある。

本路線は、大村市を南北に縦断する国道34号の山側を並走する街路で、平成21年度に完成した久原池田線と一体となって国道34号のバイパス機能を持たせるため、市中心部の渋滞緩和と地域の利便性向上を図る幹線道路として平成15年8月22日に都市計画決定された。また、本路線と国道34号及び国道444号により環状線が形成できるため、新幹線新大村駅(仮)と長崎自動車道大村インターチェンジ及び長崎空港へのアクセス機能を高める効果があり早急な整備が求められている。起終点は大村市池田二丁目から沖田町で、小路口工区(1,450m(平成27年3月供用開始))と竹松工区(1,970m)からなる計画延長は3,420mである。

(2) 協議

一方で本路線は、広大な広がりを持つ竹松遺跡や川端遺跡、平野遺跡、小路口遺跡など周知の埋蔵文化財包蔵地を縦断する格好となっている。その取り扱いについて、平成24年5月24日に県央振興局都市計画課と県教育委員会学芸文化課の間で「竹松遺跡及び道路建設予定地内の埋蔵文化財の取り扱い」に関する協議が行われた。県教育委員会は周知の埋蔵文化財である竹松遺跡の重要性を説くとともに、路線計画が変更できない場合は記録保存の方法で対処する旨を通知した。また、試掘・範囲確認調査の具体的方法の説明として、用地買収が完了した箇所から20m間隔で2m×2mの試掘坑を設定する予定であること、立ち退き宅地跡及び地形の状況などから設定箇所が変化すること、また現地地下見の結果から本調査になった場合大規模な調査が予想されることを通知した。その後の用地買収の進捗に合わせ、平成25年度から平成27年度にかけて試掘・範囲確認調査が実施された。

2. 試掘・範囲確認調査

(1) 調査期間と面積

期間：① 平成27年1月26日～平成27年2月20日

② 平成27年11月13日～平成27年12月2日

面積：① 16㎡(うち平成29年度調査区4㎡が該当)

② 117㎡(うち平成28年度調査区20㎡、平成29年度調査区12㎡が該当)

(2) 調査体制

調査主体： 長崎県教育委員会

調査機関： 新幹線文化財調査事務所

調査担当(①)： 主任文化財保護主事 中尾 篤志

文化財保護主事 本田 秀樹

調査担当(②)： 係長 村川 逸朗

主任文化財保護主事 川畑 敏則

(3) 試掘・範囲確認調査の概要

池田中田線建設に伴う試掘・範囲確認調査は、平成25・26年度に用地買収が完了した箇所から順次実施され、斑状に残った箇所は平成27年度に調査された。平成27年度の調査対象は延長700m・路線幅21mの範囲である。

① 調査方法

調査対象範囲に試掘坑を設定し人力掘削による発掘調査を行った。試掘坑は2m×2mを基本とし、計23箇所117㎡を調査した。うち今回の竹松遺跡調査区内ではTP19～23の5箇所が該当する。

② 基本層序

多くの試掘坑では大規模な削平や攪乱が見られたが、TP4～TP12、TP21では後世の土地改変が比較的少ない土層堆積が確認された。

1層：耕作土。

2層：黒色～暗灰黄色土。粒子が細かく湿ると粘性大。しまり無し。中世～弥生時代の遺物包含層。

3層：褐色土。粘性・しまり大。全体に円礫が混じる。

4層：砂礫層。地山。

③ 調査結果

竹松遺跡の中部に相当するTP20～21周辺では、古代末～中世の貿易陶磁器片等の遺物や複数のピットが検出された。これらピットは、その北側に広がる平成27年度本調査区で検出された古代末～中世の倉庫群とみられる柱穴群との関連が考えられ、本調査範囲として1,422㎡が設定された（平成28年度調査区。第2部で後述）。また、竹松遺跡の南端部に相当するTP11・12周辺では弥生時代から中世の遺物が出土し、TP12ではピットが確認された。周辺に包含層が残存し遺構が広がる可能性があることから、本調査範囲として567㎡・819㎡が設定された（平成29年度調査区。第3部で後述）。

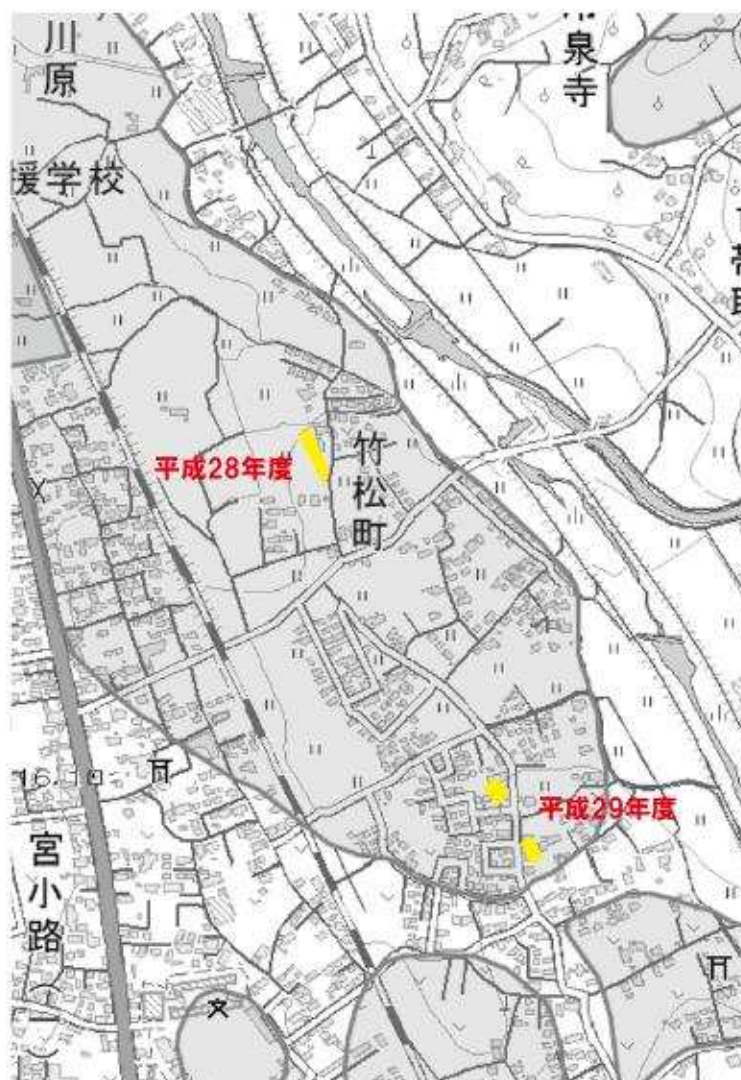


図3 平成28・29年度調査区位置図

第2部. 平成28年度調査区

I. 調査の概要

1. 調査期間と面積

期間：平成28年10月24日（月）～平成29年2月10日（金）

面積：1,237 m²

2. 調査体制

所長	岩永正弘
総務課長	田川正明
調査課長	川道 寛
調査課 主任文化財保護主事	松元一浩
調査課 文化財調査員	宮木貴史
調査課 文化財調査員	前田加美

<調査支援：株式会社プロレリック>

文化財調査部	山本勝也（現場代理人）
文化財調査部	村上孝司（主任調査員）
文化財調査部	木村有喬

3. 発掘調査の流れ

(1) 協議

平成28年度に調査主体を新幹線文化財調査事務所から長崎県埋蔵文化財センターへ移し、平成29年度に予定していた本調査を平成28年度に前倒しで実施することとなった。8月17日に本調査に際する3者協議が行われた（県央振興局都市計画課、新幹線文化財調査事務所、長崎県埋蔵文化財センター）。調査期間や業務委託の入札日程、重機の進入路、ヤード、排土置き場等について検討した。また、北接する平成27年度の本調査区で検出された古代末の倉庫跡群は遺構完掘後に盛土保存の措置がとられており、今回の調査区でも同様の遺構が検出された場合、同様の措置が取られる可能性もあるため、慎重に調査する必要がある点を確認した。

(2) 発掘調査の流れ

工事対象範囲の隣接土地や側溝等構造物との境界に若干の余幅を設け全面発掘調査を実施した。調査の都合上A～Dの調査区を設定し表土をバックホウにより掘削したのち、調査区西際にトレンチを掘削して層位を把握しながら、調査員4名・発掘作業員約40名による遺構検出・遺構調査・遺物包含層掘削・記録作業を行った。また、当調査区の基盤土層となっている礫層が遺物包含層であるかどうかを確認するため、重機による掘削調査を行った。

4. 層序と地形

(1) 基本層序

1a層 褐灰～黒褐色極細砂質シルト土(10YR4/1～3/1) しまりはやや弱い。粘性は強い。小礫を1%未満含む。現耕作土(一部畦畔を含む)。

1b層 褐灰～黒褐色極細砂質シルト土(10YR4/1～3/1) しまりは非常に強い。粘性は強い。鉄分の凝集した縦縞が見られる。小礫を1割ほど含む。5mm長以下の礫・岩片が酸化して明褐～橙色を呈する。現耕作土(鋤床層)。

2a層 黒褐～暗褐色極細砂質シルト土(10YR3/2～3/4) しまりは非常に強い。粘性は強い。5mm長以下の礫・岩片を3～4割ほど含む。これらは鉄分の影響で橙色を呈するため全体に褐色味を帯びる。鉄分が凝集する部分もあり削るとガリガリする。旧耕作土(鋤床層)。

2b層 黒褐～黒色細砂質シルト土(10YR3/1～2/1) しまりはやや弱い。粘性はやや強い。1cm長以下の3a層由来のブロック土や炭化物粒・小礫を1%未満含む。攪拌が著しい。耕作・生活・植生等の影響か。いわゆる黒ボク層。縄文～中世の遺物包含層。上面には少量の近世陶磁器片が出土する。

3a層 褐色シルト質極細砂土(7.5YR4/3～4/4) しまりは強い～やや強い。粘性は弱い。全体に酸化し橙色を呈する(北半ほど強い)。30cm長以下の円礫を3割未満含む。礫を含む程度に違いがあり、礫をほとんど含まない箇所もある。扇状地礫層形成後の堆積層か(草創期～早期以降か)。遺物の出土はなかった。

3b層 暗褐色細砂質土(7.5YR3/4) しまりは強い。粘性は弱い。礫の含み方は3a層と同様。B区下層確認トレンチでは3b層の最下部に流水性の砂層が認められた。それより上の中～上層は風積層か。遺物の出土はなかった。

4層 礫層。70cm長以下の円礫が9割を占める。粗砂～細砂が混じる。淘汰の悪い土石流堆積(扇状地礫層)。地点により異なるがベースとなる砂の色調・粒径や礫の大きさに違いがみられる。

< B区下層確認トレンチ >

4a層 礫層。5～20cm長の円礫が主。角礫はほとんどない。礫の空隙に暗褐～にぶい黄褐色(10YR3/3～4/3)を呈する中～細砂質土が混じる。しまりやや強い。粘性非常に弱い。下層との層界に凝集が沈着する。

4b層 礫層。5～20cm長の円礫が主。礫の空隙にオリーブ褐色(2.5YR4/6)を呈する細砂質土が混じる。しまりやや強い。粘性非常に弱い。

4c層 礫層。

4d層 礫層。

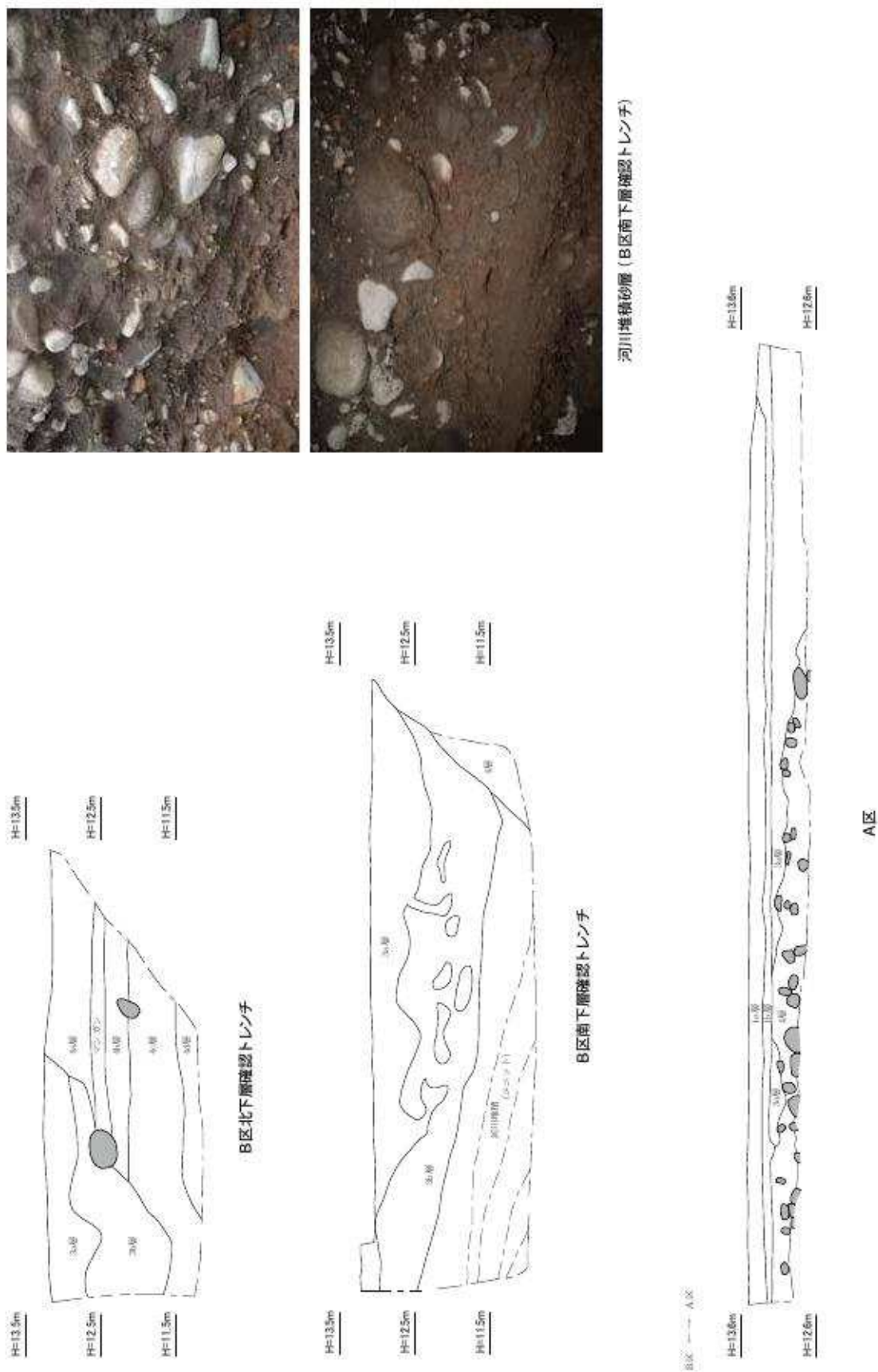


図4 土層断面図1 (S=1/80)



图5 土层断面图2 (S-1/80)

(2) 旧地形の推定

B区の北側と南側に設定した下層確認用のトレンチを見ると、3b層の最下層あるいは4層との間に、流水成堆積を示すような砂層が認められた。級化層理の互層が複数単位あり間にはマンガン層を挟む。土石流や洪水等ではない河川流によって形成され、時には離水するような流れが想定でき、部分によっては扇状地礫層を北西方向へと削り込むような旧河道の存在が推定できる(図4)。

この旧河道の形成以前は扇状地礫層を形成した幾重もの土石流堆積の筋があったと考えられ、微高地となっていたこれら土石流堆積物間の谷筋に旧河道が形成されたのであろう。1層除去後の平坦面はおそらく近現代の農地整備時の削平によるものであろうが、B区北東側で下層の扇状地礫層が露出している。3～2層の堆積も合わせて考えると、旧河道の両岸にあたる礫層は北東側の方がより高い自然堤防であったと考えられる。現在の住宅が広がる辺りがその自然堤防の範囲であろう。

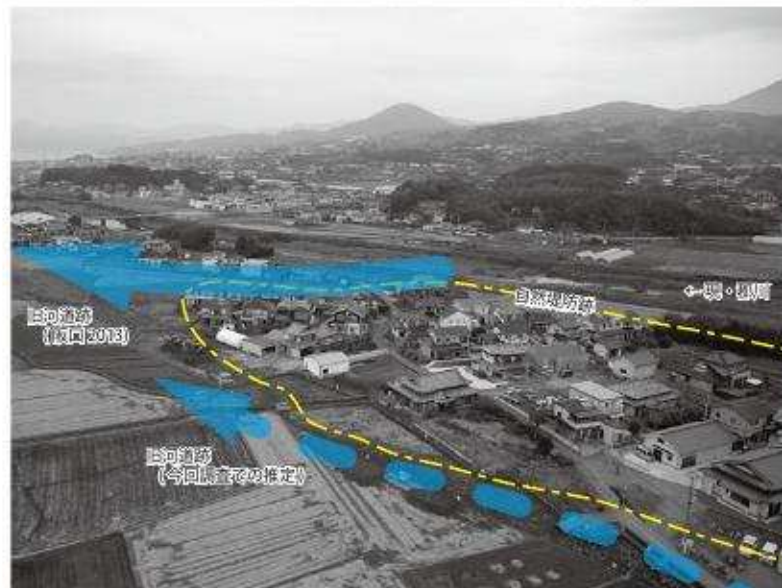
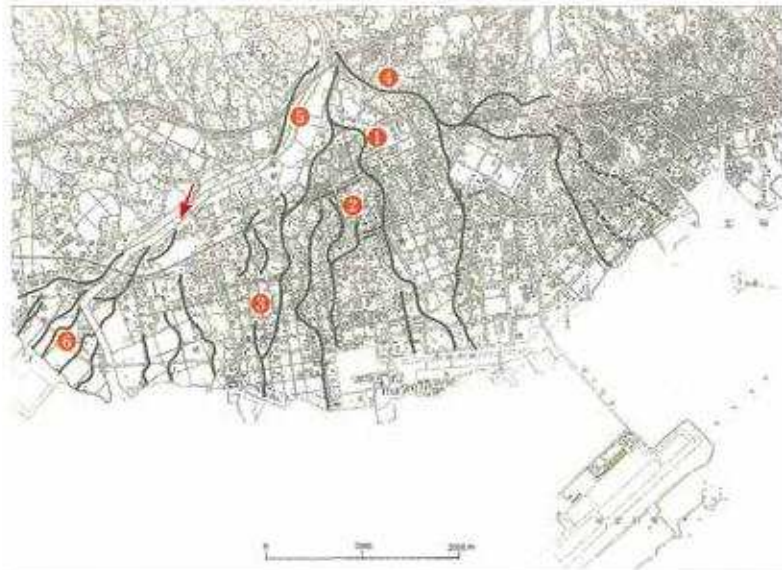


図6 旧河道と自然堤防跡

赤矢印が今回調査区の北東側にあったと考えられている旧河道跡(阪口2013の図1-11を引用・一部改変)。

5. 調査の概要

(1) 遺構

検出した遺構総数は約580基で、内訳は掘立柱建物跡3棟・集石遺構3基のほか、土坑や柱穴を含む多数のピットからなる。ピットが多数存在するため、建物跡の構成ピットを如何に認定するかが調査中の課題となっていた。検討の結果、調査中に認定していた案とは異なる3棟を報告する。

また、土坑状の掘り込み内に礫の密集する遺構が複数検出されたが、単に土坑とするより中世の集石遺構・集石墓を想起させるものもあったため、集石遺構の名称を用いて報告する。



図7 調査区全体図 (S=1/400)

(2) 遺物

耕作による削平面より上位の1b・2a層で黒曜石剥片や中近世の陶磁器片が多く見られたが、包含層の2b層で中世の土器・陶磁器片が多少出土した以外、3層以下での遺物は確認できなかった。1b～2a層では石製垂飾2点が出土したほか、縄文時代晩期の粗製深鉢片や浅鉢口縁部片が少量出土した。また弥生土器片や古墳時代前期及び後期～終末期の土師器高坏・須恵器も出土している。中世では12～16世紀を中心とした中国産青磁・白磁片や土師質土器片が多く出土しており、柱穴内の出土遺物もこの時期が多い。出土遺物の総量はコンテナ8箱分となった。

6. 整理作業・報告書作成

平成30年7月から9月にかけて、埋蔵文化財センターにおいて報告書作成に向けた整理作業を実施した。遺物の整理は、水洗、接合、実測、ID番号付与、デジタルトレースの流れで行った。金属製品の保存処理は、透過エックス線撮影後にメスを用いて錆取りを行いベンゾトリアゾール溶液に数秒浸した。処理完了後はチャック袋に収納しデシケータ内で保管している。また、掘立柱建物跡の柱穴を含むピットで炭化材が出土しており、建物やピット群の年代を推定するため放射性炭素年代測定を業務委託した(第V章)。

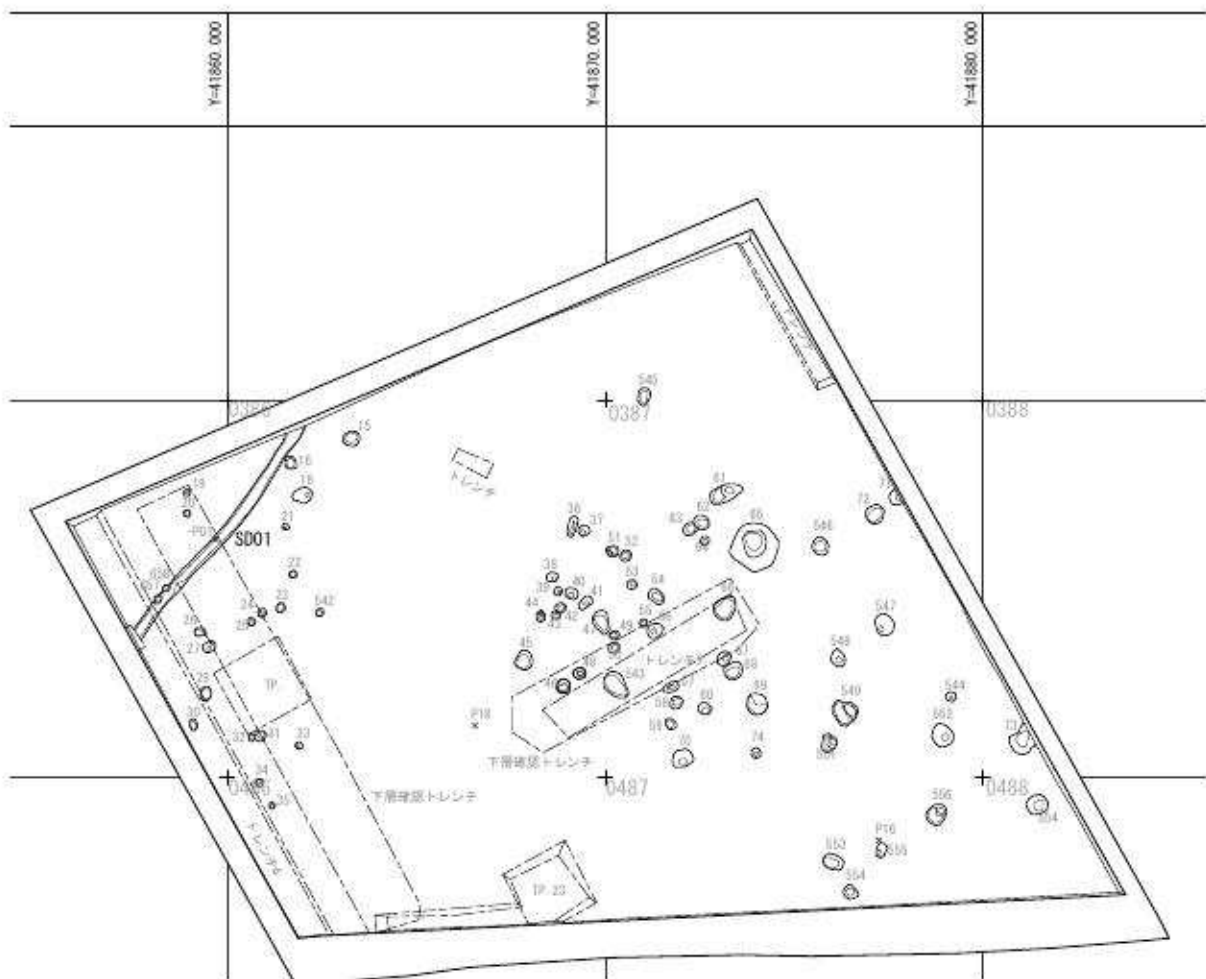


図8 A区遺構分布図 (S=1/200)

遺構番号のうちピットのSPのみ省略している。「×」印は遺物の出土位置を示し、Pは土器類、Sは石器、ハイフン付は遺構出土を意味する。



図9 B区遺構分布図 (S=1/200)

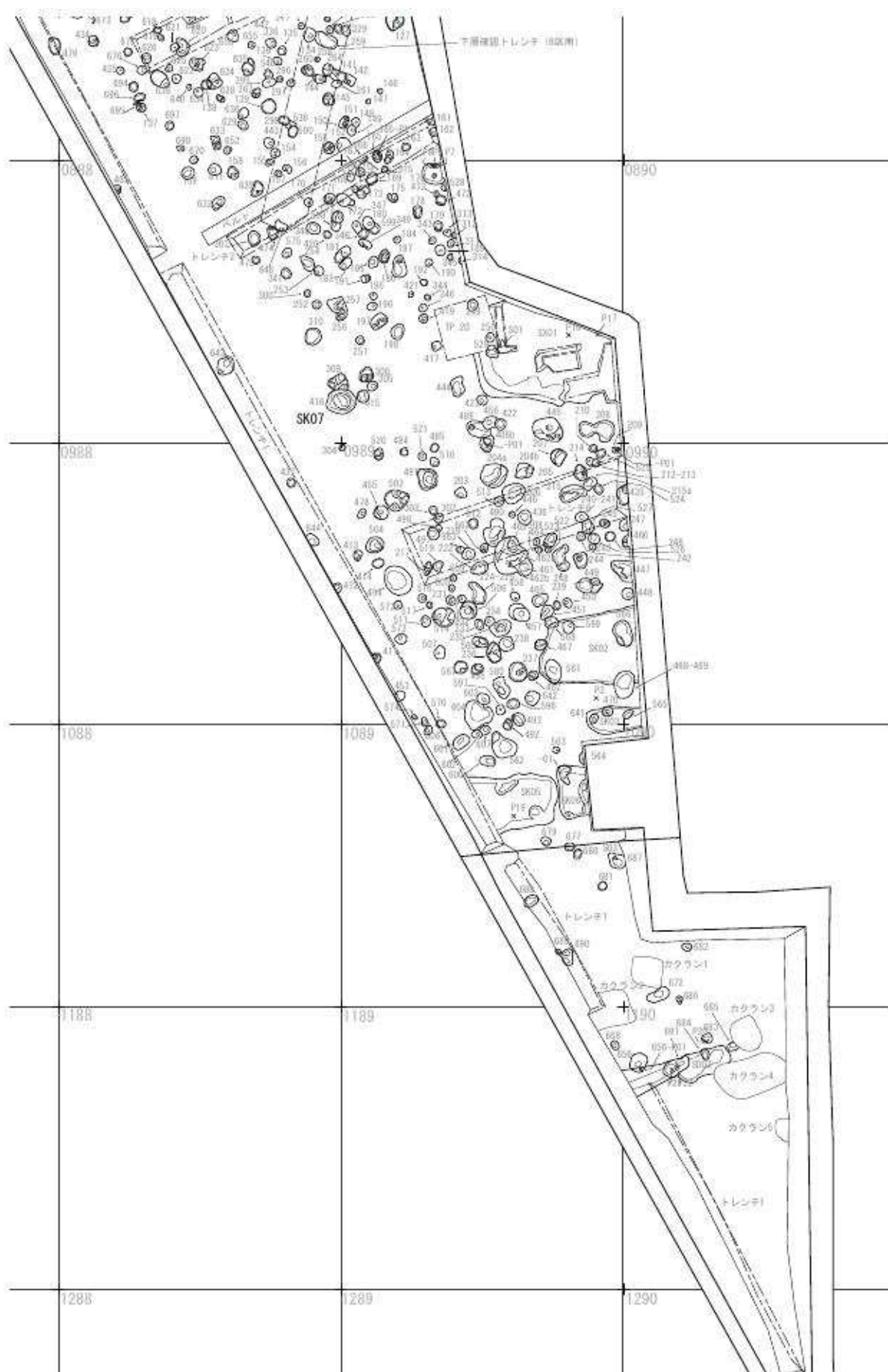


図10 C・D区遺構分布図 (S=1/200)

II. 縄文時代～古墳時代の遺物

1. 遺物

(1) 石器

① 石鏃・スクレイパーほか

301 は暗灰色を呈する黒曜石製の石鏃である。片脚を欠損するが大型で、脚裾が幅広で角張る鋏形鏃である。両面を丁寧に調整している。314 は黒曜石製の剥片鏃でU字形の基部両面と左側縁の一部にのみ調整を施す。307 は黒曜石製の小型石鏃で両面に加工を施す。浅い凹基で左右非対称のいびつな三角形を呈する。右側は再加工によるものか。309 は暗灰色黒曜石で石鏃の未製品とみられる。厚みがあり先端を欠損している。平基の基部の一部に押圧剥離が認められる。302 は黒曜石製のスクレイパーである。台形状の素材の二側縁に調整を施す。305 は暗灰色黒曜石製の彫器である。ほか横長や縦長の剥片(310・311)、残核等も出土している。

② 垂飾

1b～2a層で石製垂飾2点が出土した。320 は赤褐色石材製で縦長の長楕円形を呈し、上端部に直径2mmほどの穿孔を有する。穿孔は表裏両面から空けられておりやや斜めに貫通する。表面の穿孔に接する部分に失敗痕とみられる深さ0.5mmに満たない窪みが残る。319 は黒色石材製で円形を呈し、中央に直径4mmほどの穿孔を有する穿孔の上側中央の表裏両面には深さ1mmほどの明瞭な筋状の切り目が認められる。

③ 石斧

322 は流紋岩製の磨製石斧の欠損品である。基部・刃部と裏面を欠損している。側縁部がわずかに残っており敲打痕が認められる。323 は安山岩製の打製石斧である。剥片面を多く残し縁辺部のみ打ち欠いて刃部を作出している。

④ 石錘

324 は砂岩製の製品で、円礫の中央に表裏両面から穿孔を施している。D区のSP687内で出土した。多孔質で全体に脆く風化している。研磨によるものか使用痕かは不明だが穿孔の周囲は面をなしている。当遺跡の過年度調査では石錘とされている(安樂2016)。329 は結晶片岩製の石錘である。扁平な剥片の左右側縁を打ち欠いて抉りを作り出している。

(2) 土器

縄文時代晩期の土器や弥生土器、古墳時代前期及び後期～終末期の土師器・須恵器が包含層を中心に出土した。いずれも点数は少なく小片であった。

① 縄文晩期土器

5点が出土したがいずれも小片であった。041・056・084 は深鉢の口縁部である。056の口唇部は尖り気味で内外面とも横・斜め方向の板状工具ナデが施される。059は浅鉢の口縁部である。外面に沈線、内面に段を有し、内外面とも横方向のヘラミガキが施される。

② 弥生土器・土師器・須恵器

046は壺の破片で頸部が屈曲し胴部は算盤玉状に膨らむ。肩部に赤彩が施されている。042は台付甕の脚台部である。裾端部を欠損しているが比較的高さのあるタイプとみられる。043・048は同一個

体とみられる高坏の坏底部と脚部である。坏底部は脚部付加接合法の刻み目が明瞭に残る。ほぼ水平に広がり口縁との接合痕が認められる。脚部は低めで柱部はややエンタシス状に膨らみ、裾部は屈曲線を残し短く広がる。破片のため詳細は不明だが、布留式系で古墳時代前期前半のものと考えられる。これら壺・高坏はB区北西側0586グリッド4層直上で出土した。086は蓋坏の蓋である。返りはごく短く内傾し全体的に粗雑な作りで、受け部の一部には坏身口縁端部が焼成時に癒着したとみられる痕が認められる。7世紀初頭の所産であろう。

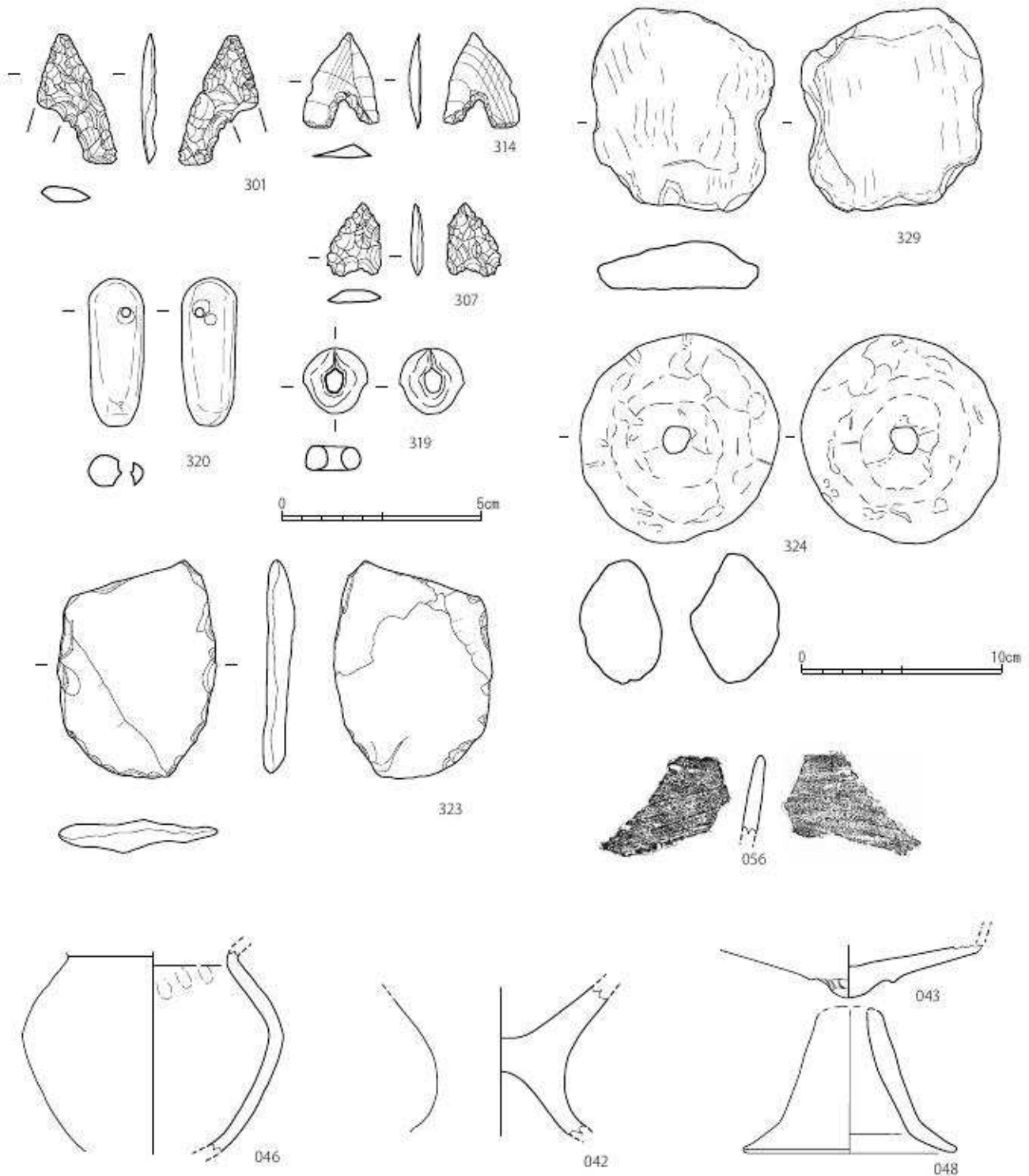


図11 遺物実測図 [縄文～古墳時代] (S=1/3 (石鏃・垂飾のみ2/3))

Ⅲ. 中世の遺構と遺物

1. 遺構

(1) 掘立柱建物跡 (SB)

① SB01

B区0688グリッドの3～4層削平面で検出された。建物規模2間×3間(短軸長4.0m・長軸長5.8m・面積約23.2㎡)で、南北軸は座標北から西に9～10度ほど振れており、平成27年度の同事業に伴う竹松遺跡発掘調査で検出された古代末の倉庫跡群と一致する。構成ピットは10基でSP01・82・652・438・396・89・90・93・94・95からなる。柱穴の芯々寸法は、短軸で1.9～2.0m、長軸で1.9m～2.1mを測る。

柱穴の平面プランは不定円形で規模にもばらつきがあるものの、長径60cm前後が主で最大でも90cmは超えない。深さは24～58cmとばらつくが、礫質層の4層に掘り込まれるものは30cm前後と浅いものが主で、西側の礫混じり土層の3層に掘り込まれるものは50cm台と深い。柱穴底となる土層の地盤強度に左右された結果と考えられる。

柱穴内には柱痕跡を残すものや(SP90・93など)、柱固定用に柱周囲に詰められる根巻石を有するもの(SP82・396など)が認められた。柱穴底が礫層で地盤強度が比較的高いためか、明らかな根石や礎板石を有する柱穴は認められなかったが、柱痕跡と見られる箇所に礫を有するものがあった(SP93、SP438など)。SP01では龍泉窯系青磁椀Ⅰ類の120と土師質の播鉢035が出土している。

また、柱穴内で出土した炭化材について放射性炭素年代測定を行った(分析は第V章)。SP90では検出面より8cm下で出土した1点(506)の暦年代が10世紀末～11世紀初頭に、SP93で出土した1点(503)の暦年代が14世紀初頭～後葉に相当するという結果が出された。播鉢の年代観や年代測定結果を考え合わせると、SB01は14世紀後半以降の建物であった可能性が高い。

② SB02

B区0688グリッドの4層削平面で検出された。建物規模1×2間(短軸長3.6m・長軸長4.1m・面積約14.8㎡)でSB01に近接し向きを同じくする。構成ピットは6基でSP75・265・11・80・397・81からなる。柱穴の芯々寸法は、短軸で3.6m、長軸で1.9～2.1mを測る。柱穴の平面プランは略円形で長径50cm前後、深さが30～43cmと均質的である。全て4層に掘り込まれている。

③ SB03

B区0588・0688グリッドの4層削平面で検出された。SB02と一部重複する。ピットが並ぶことから調査後に掘立柱建物跡と認定したが、調査区境に位置しているため建物跡としての全体が不明である。柱穴の芯々寸法は、南北軸で1.8m・2.1m、東西軸で1.8mを測る。南辺側のSP294・353は底部分の柱穴である可能性がある。SP384で土師質土器の坏底部小片が出土した。

(2) ピット (SP)

調査区全体で500数十基のピットが検出されているが、柱痕跡の残るものは多くなく、建物の柱穴と見なせるような配置状況も見出しがたい。そうした中で、遺物の出土したピットや柱痕跡・根巻石等を有する特徴的なものについて記述する。

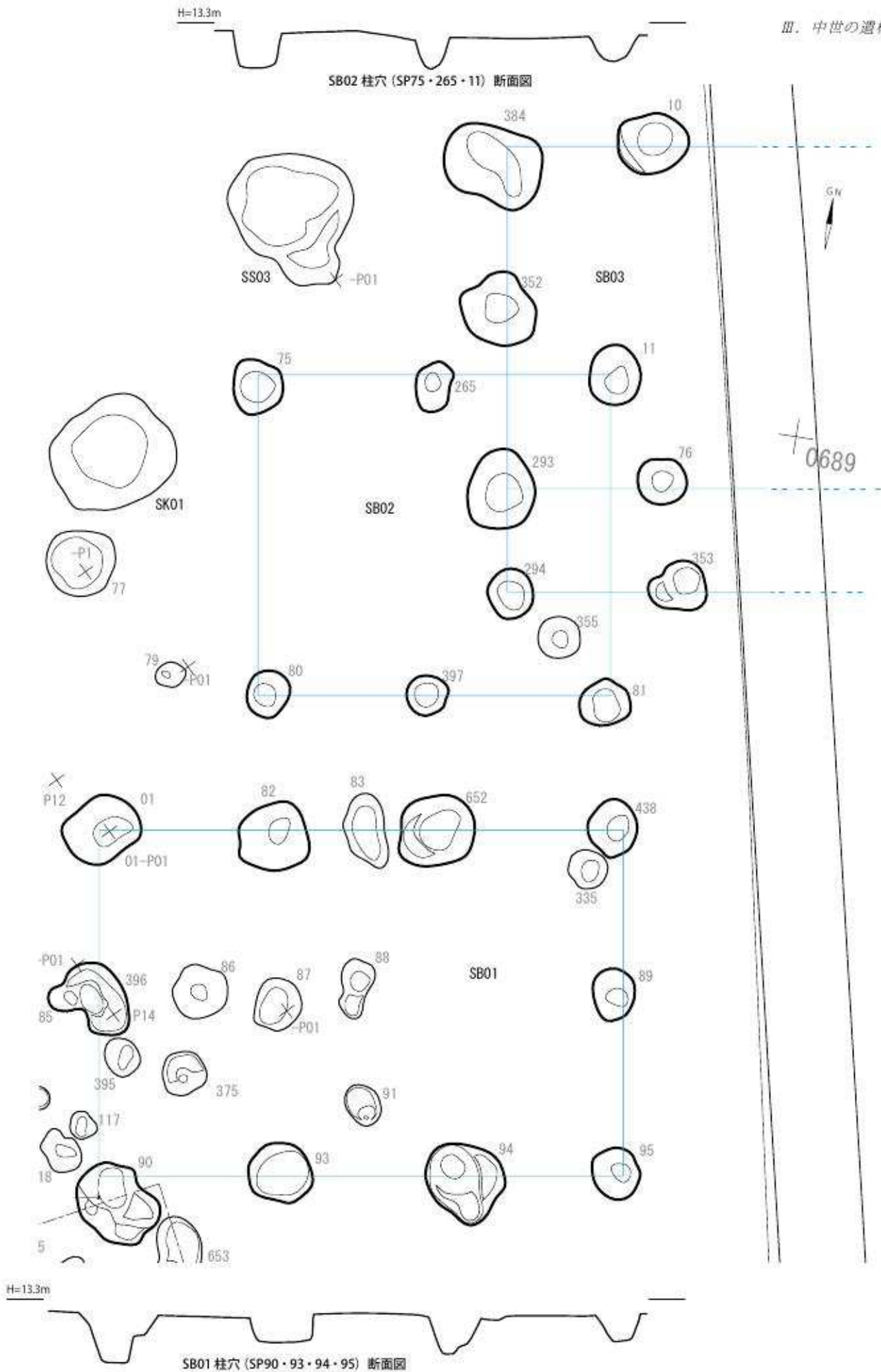


図 12 SB01・02・03 実測図 (S=1/60)

① 柱痕跡・根巻石を有するピット

柱痕跡・根巻石が顕著に認められるピットは、A区のSP70やB区のSP158・375・384、C区のSP204・235・237・411・444・490等が挙げられる。SP235・411・490などをみると、柱穴掘方壁面の片側に寄る格好で柱痕跡が認められ、その周りに20cm長前後の円礫が詰められている。SP384・445等は柱穴掘方のほぼ中央に柱痕跡があり、その周りに比較的大ぶりの円礫を含む根巻石が確認できる。

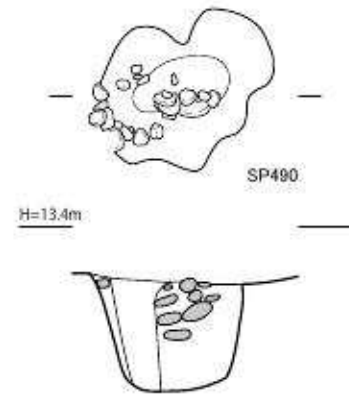


図13 ピット実測図 (S=1/20)

② SP541

B区西際0787グリッドの2b層上面で検出された。平面プランは不定円形を呈し長径57cm・深さ22cm、柱痕跡部分が長径26cm・深さ36cmを測る。検出面で土師質土器の小皿が出土しており、5点が垂直方向に重なるような格好となっていた。全てが正位ではなく伏位や横位もあり整然と重ねられた状態ではないが、元は柱痕跡（あるいは柱抜き取り跡）へ埋置されたものと考えられ地鎮等の可能性がある。5点とも小皿b類で器高比率が高く小型化の進んだタイプで、中世IV期・14世紀後葉～15世紀の年代が考えられる。また、柱穴内で出土した炭化材（521）の暦年代は15世紀前葉～後葉の値が得られている。

③ その他

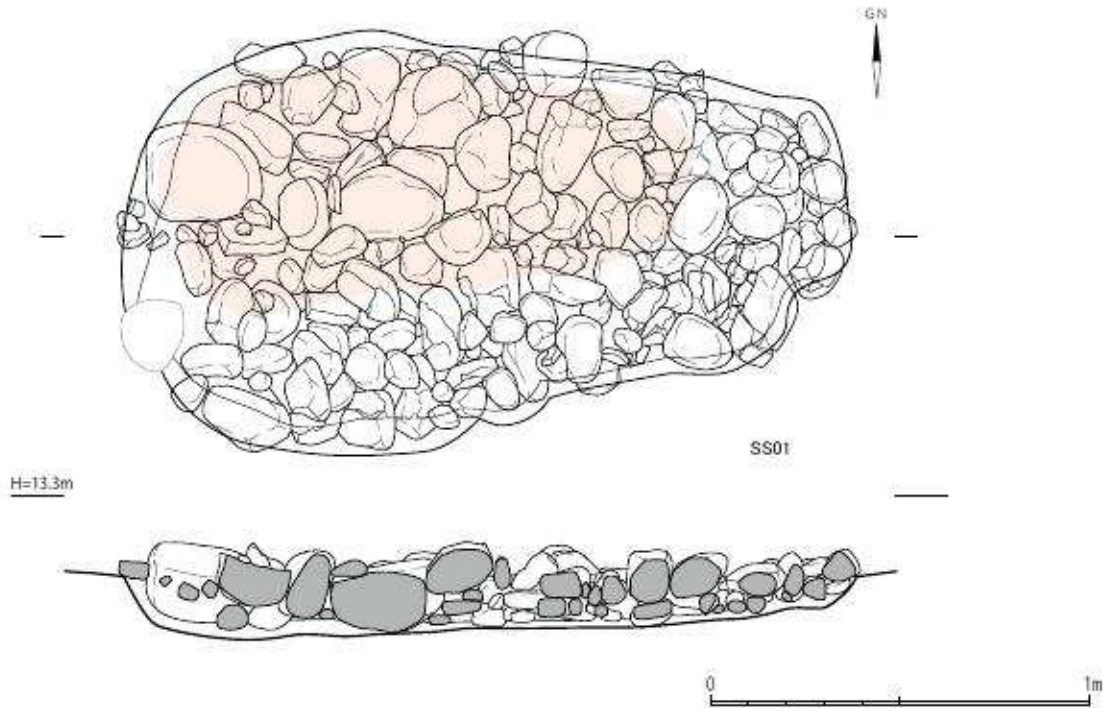
その他に遺物の出土したピットは、SP119・470・610等がある。B区SP119ではピット底面付近の礫集中の上で青磁碗底部片が伏位で出土した。SP119はSP390とともに後述の集石遺構SS01に近接する。SB01・02に近接するSP79では備前系播鉢底部092が、B区SP470では土師質の播鉢口縁部片が出土した。またB区SP610では柱痕跡の上部で刀子5006が出土した。

(3) 集石遺構 (SS)

土坑内に礫の集中する遺構が4基検出された。土坑内部の礫は円礫・亜円礫がほとんどで、扇状地礫層由来とみられる。これら礫の形状は、扁平なものや球状のものなど様々であり選別されたものとは考え難い。また、いわゆる配石のように並べられたような状況は認められなかった。扇状地礫層に構築されたものの一部は、土坑内部と周囲の礫が同様に見えるため遺構認定がやや難しい部分もあるが、礫の密集度合いや空隙の埋土の違い、土坑壁・底面に礫を含まない埋土が介在すること等を認定根拠とした。

① SS01 (=旧 SP289)

B区西側の0687グリッドに位置し、類似する遺構SP119・390と近接する。2b層削平面で検出された。土坑の平面プランは不定楕円形を呈し、長軸193cm・短軸80～114cm・深さ15cmを測る。土坑の長軸はおよそ東西を向き東側がややすぼまる。土坑内部には20cm長を主に10～30cm長の礫が密集する。被熱痕跡とみられる赤化した礫を1割ほどまばらに含む。被熱のためか亜角礫が若干多いが配置や偏在は認められず、現況の位置で被熱したとは考え難い。土坑底面の北西側の7割を占める範囲は焼土・炭化物を含む層で薄く覆われる。炭化物のうち1点について放射性炭素年代測定を行ったところ15世紀中葉～15世紀末の暦年代が推定されている（分析は第V章）。遺物では結晶片岩製の二次加工剥片（331）が埋土下層より出土した。



② SS02 (=旧 SP350)

B区北西隅の0586・0587グリッドに位置し4層削平面で検出された。土坑の平面プランは不定楕円形、立面形は楕鉢状を呈し、長軸148cm・短軸108cm・深さ29cmを測る。土坑の長軸はおよそ北北西-南南東を向く。土坑内部の礫は比較的疎らであり、空隙には地山の扇状地礫層より黒味の強い砂質土が入る。周囲の地山に含まれる礫に比べ30cm長の扁平で大きめの礫が目立ち、

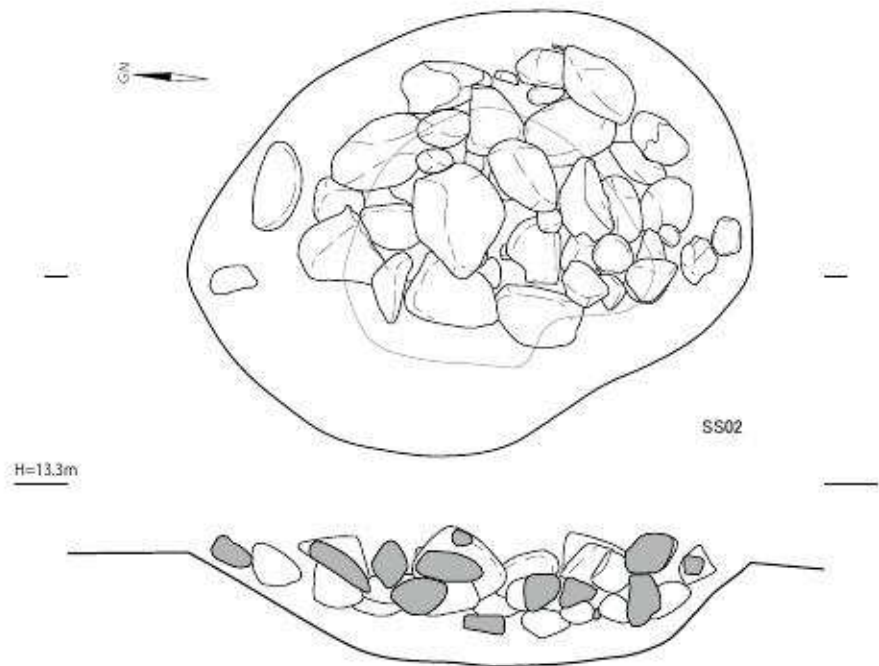


図14 SS01・02実測図 (S=1/20)

ある程度選別された可能性もあるが配置状況にあったとは見て取れない。礫の集中は埋土上半のみで下半は礫をほとんど含まない。出土遺物は土師質土器口縁部の細片のみであった。

③ SS03 (=旧 SP386)

B区北東側の0588グリッドに位置し4層削平面で検出された。土坑の平面プランは不定円形で、

底部は平坦面をなす。長軸 170cm・短軸 128cm・深さ 35cm を測る。土坑の南東側にテラス状の小段が張り出す。切り合いは認められなかった。土坑内部には 20cm 長を主に 10～30cm 長の礫が密集する。

SS02 と同様、土坑の下部は礫をほとんど含まない。出土遺物は土坑の中央付近の底面で欠損した洪武通寶 1 点 (5005) が出土、小段部分で 019 の土師坏が出土した。これらの年代観より遺構の上限は 14 世紀後半と考えられる。

(4) 土坑 (SK)

① SK01

B 区東側の 0688 グリッドに位置し、4 層削平面で検出された。土坑の平面プランは不定五角形を呈し、長軸 142cm・短軸 122cm・深さ 66cm を測る。検出面から 30cm ほど下位の埋土は礫混じりの褐色砂質土で SS01 に似る。それより下位から土坑底面までは 30cm 長以上の扁平で大きめの礫が集中する。敷石等の配石とみる余地はある。検出面では皇宋通寶 1 点が完形で出土した。埋土中では白磁皿片 (皿 III-2 類) が出土した。12 世紀後半～13 世紀前半より後の遺構と考えられる。

③ SK07 (旧 SP416 敷石土坑)

C 区北側の 0889 グリッドに位置し、3 層削平面で検出された。土坑の平面プランは不定楕円形を呈し、長軸 106cm・短軸 82cm・深さ 51cm を測る。底面から 30cm ほど上に 40～50cm 長の円礫 4 点が据えられたような格好で検出された。底面との間には 5～10cm 長の円礫が詰まっていた。柱穴の礎板石・根石あるいは何らかの敷石等の可

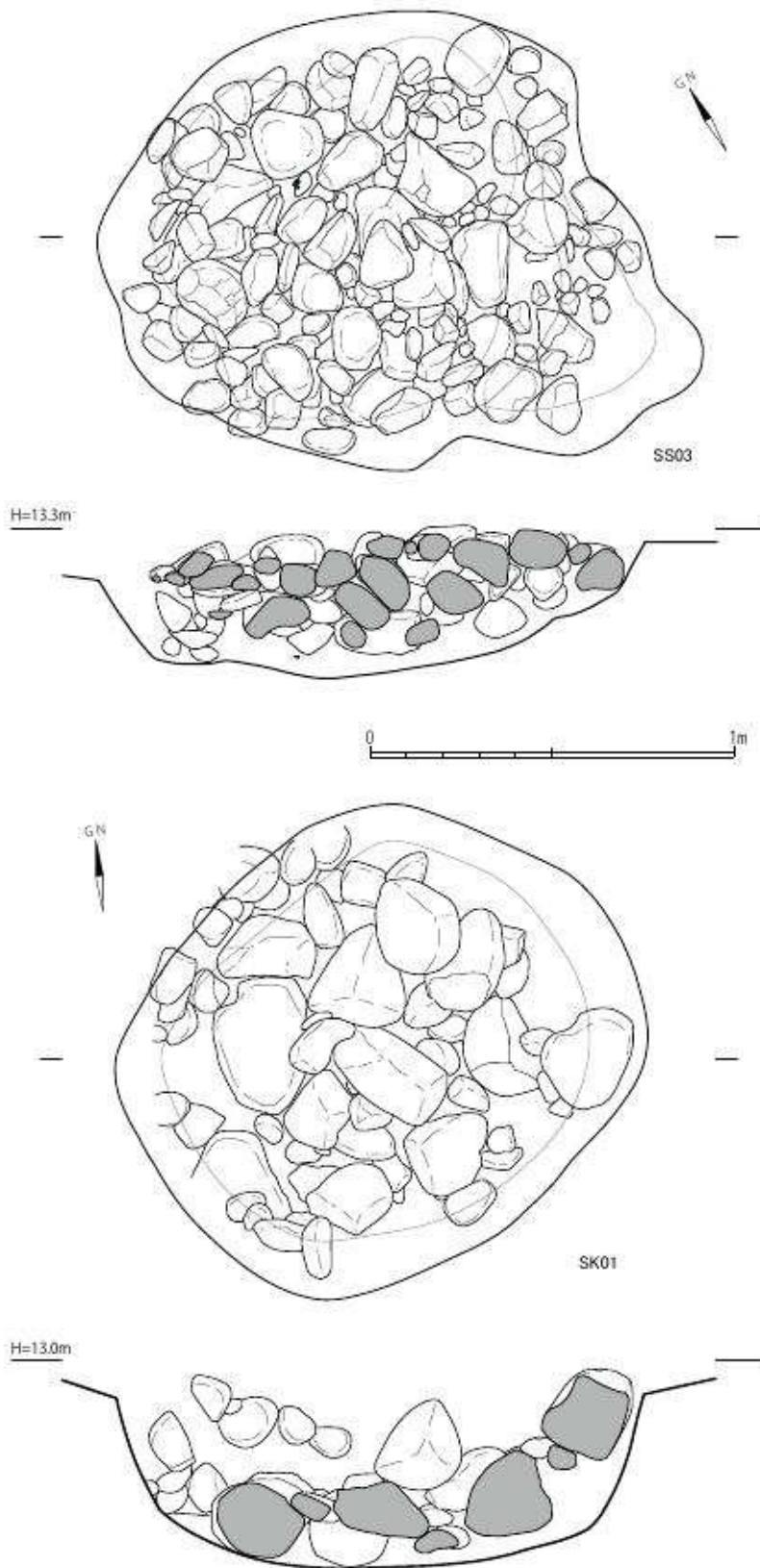


図 15 SS03・SK01 実測図 (S=1/20)

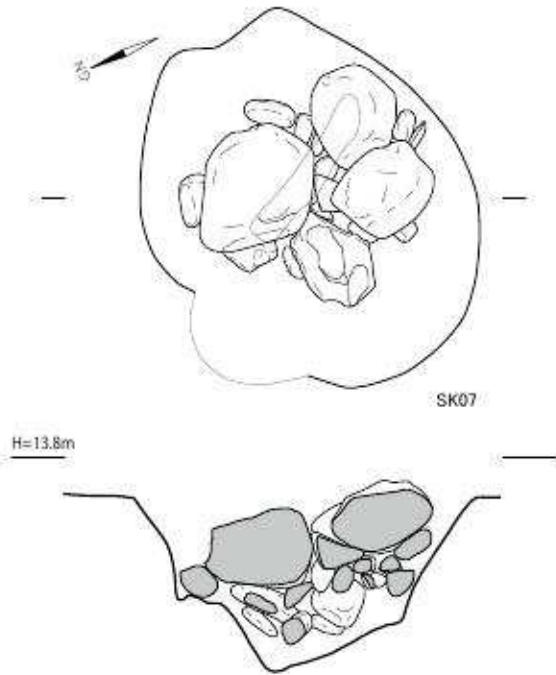


図 16 SK07 実測図 (S=1/20)

能性はあるが、周辺に建物跡や柱穴列として認定できそうな遺構分布は認められず、むしろ周辺遺構の比較的疎らである点が特徴的である。遺物の出土はなかった。

2. 遺物

(1) 貿易陶磁器

包含層を中心に貿易陶磁器片が出土している。白磁碗Ⅳ類や同安窯系青磁碗Ⅰ類、龍泉窯系碗Ⅱ類が一定量認められる。おおよそは12・13世紀の年代幅におさまる。

① 白磁

白磁碗Ⅳ類が大多数を占め、肉厚の玉縁口縁の小片や底部小片がみられる。112はB区SP152で出土した碗Ⅳ類の口縁である。130・143は碗Ⅳ類の底部である。高台内面の削り出しが浅く厚みをも

つ。見込みに沈線を有する。碗Ⅴ類は少なく149の底部片のみである。122はSK01出土の白磁皿Ⅲ-2類である。口縁はわずかに外反し端部が舌状に尖る。口縁外面下にわずかな段がみられ小さな玉縁状を呈する。高台外面の境には削りによる明瞭な抉りがめぐる。

② 青磁ほか

龍泉窯系碗Ⅱ類がやや多いが同安窯系も出土している。128は同安窯系碗Ⅰ-I b類である。高台は断面逆台形で内面は兜巾状を呈し、内面見込みの境に大きく窪む沈線状の段を有する。外面に縦の櫛目文、内面には点描状の櫛目文と篋描きによる花文が施される。120はSP01出土の龍泉窯系碗Ⅰ類の底部である。高台内面の削り出しが浅く肉厚となる。ほかに鑄連弁を有する体部小片が一定量認められる一方で、剣頭状の細連弁文を有する小片(142)や青花(134・151)も表土等で出土している。

(2) 土師質土器

出土土器の中で土師質土器が量的に最も多く回転系切り底が圧倒的多数を占める。坏b類・小皿b類が目立っている。小皿の中には灯明皿とみられる煤の付着したものもある。

① 坏

044・016など厚手で体部が直立するタイプと、012・032など底部径が小さく体部が直線的に開く坏b類がみられる。016はSB03近くのSP291で出土した。体部外面の回転ナデが一様でなく糸切り底も回転が低い。底部付近の素地のめくれや体部外面の工具擦れ痕など全体に粗雑な作りである。012はC区SP176で出土した。全体に薄作りで口唇部は鋭く尖る。体部には強い回転ナデのためか断面波板状の段となっている。

② 小皿

SP541では小皿5点が重なって出土している。いずれも小皿b類で器高が高く底部径が5cm未満である。025と027は全体に薄作りで、底部からやや丸みを持って口縁が伸び内湾するタイプである。

口唇部は薄く尖る。026・028・029 は比較的厚手で口縁部は短く断面三角形状を呈する。底部から一旦すぼまって直線的に口縁が伸びる。025・027 に比べ胎土が粗い。028 は口縁部内面に煤の付着する灯明皿である。

その他、包含層出土を中心に小片が多いが、上記のような薄手内湾タイプと厚手直線タイプの2種に分けられる。また049・071 などの小皿 a 類も少数出土している。049 は見込み境に回転ナデを、071 は工具ナデを施しており見込み境が明瞭に窪む。

(3) 石鍋・陶器・瓦質土器

捏鉢・播鉢では12世紀頃の東播系捏鉢から14・15世紀の在地産瓦質播鉢への変遷が看取できる。

① 滑石製石鍋

製品自体は少ないが二次加工品とみられるものや滑石の碎片が出土している。340 は縦耳タイプで断面長方形を呈し口縁部がやや内湾する。II -a-1 類で11世紀中葉の所産である。339 はSP172 出土で断面三角形の鏝がめぐる。鏝の頂部は若干面を残す。外面には縦方向の削り痕が残る。削り痕は鏝部から下方向へと向かう。内面は縦方向を中心に使用痕とみられる線状痕が見受けられる。外面に煤が付着する。体部仮内湾するIII -e-1 類で15世紀前半の所産である。

② 東播系須恵質土器

076・081・087 は東播系の捏鉢口縁部片でいずれも包含層での出土である。口縁端部は上下に拡張のないタイプで、森田編年の第I期(11世紀後半～12世紀前半)の所産とみられる(森田1995)。

③ 国産陶器

100 は備前系の壺口縁部片で玉縁状を呈する。104 は常滑系とみられる壺口縁部片である。口縁部が短く外反し明瞭に屈曲する。外面の頸部境は沈線状となる。092 は備前系の播鉢底部片でSB01・02 近くのSP79 で出土した。7条一単位の播目が施される。

④ 瓦質土器(播鉢・風炉・火鉢ほか)

瓦質の捏鉢・播鉢の破片は比較的多く出土している。035 はSB01 構成柱穴のSP01 で出土した。口縁部がやや外反し5条一単位の播目が施される。単位幅は狭い。075 は底部片で内面は著しく摩滅している。内外面に部分的に煤が付着する。088 はC区SP470 出土した口縁～体部片である。口縁はやや外反しない面にはヨコハケで調整したのち播目を施している。口縁の5cmほど下より著しく摩滅している。中世IV期・14世紀後葉以降の所産であろう。

070 はコップ状の形態の坏である。体部外面は縦方向の丁寧なミガキが施されている。内面は回転ナデのち口縁部のみヨコナデで仕上げられている。胎土は緻密であり精製品であろう。156 は風炉である。外面は丁寧に磨かれており口縁外面に連続する縦沈線が入る。肩部に沈線1条がめぐり、沈線より下の体部には飛鉋状の櫛目文と沈線文が施される。15世紀後半の所産か。023 は土鍋の底部片である。底部は不安定な丸平底を呈する。155 は深鉢形火鉢の口縁部片である。口縁端部は面をなし外面側につまみ出されており断面三角形状を呈する。口縁下に三角突帯をめぐらせており、口縁端部との間の区画には桜花スタンプ文が、突帯より下には4条一単位の縦沈線が3cmほどの間隔をおいてめぐらされる。内面は一樣に煤が付着する。160 も155 と同形態の火鉢口縁部片で、口縁端部と突帯の間には菊花文の左右を欠いたような「*」字状のスタンプ文がめぐり、内外面とも煤が付着する。いずれも15世紀代のものと考えられる。

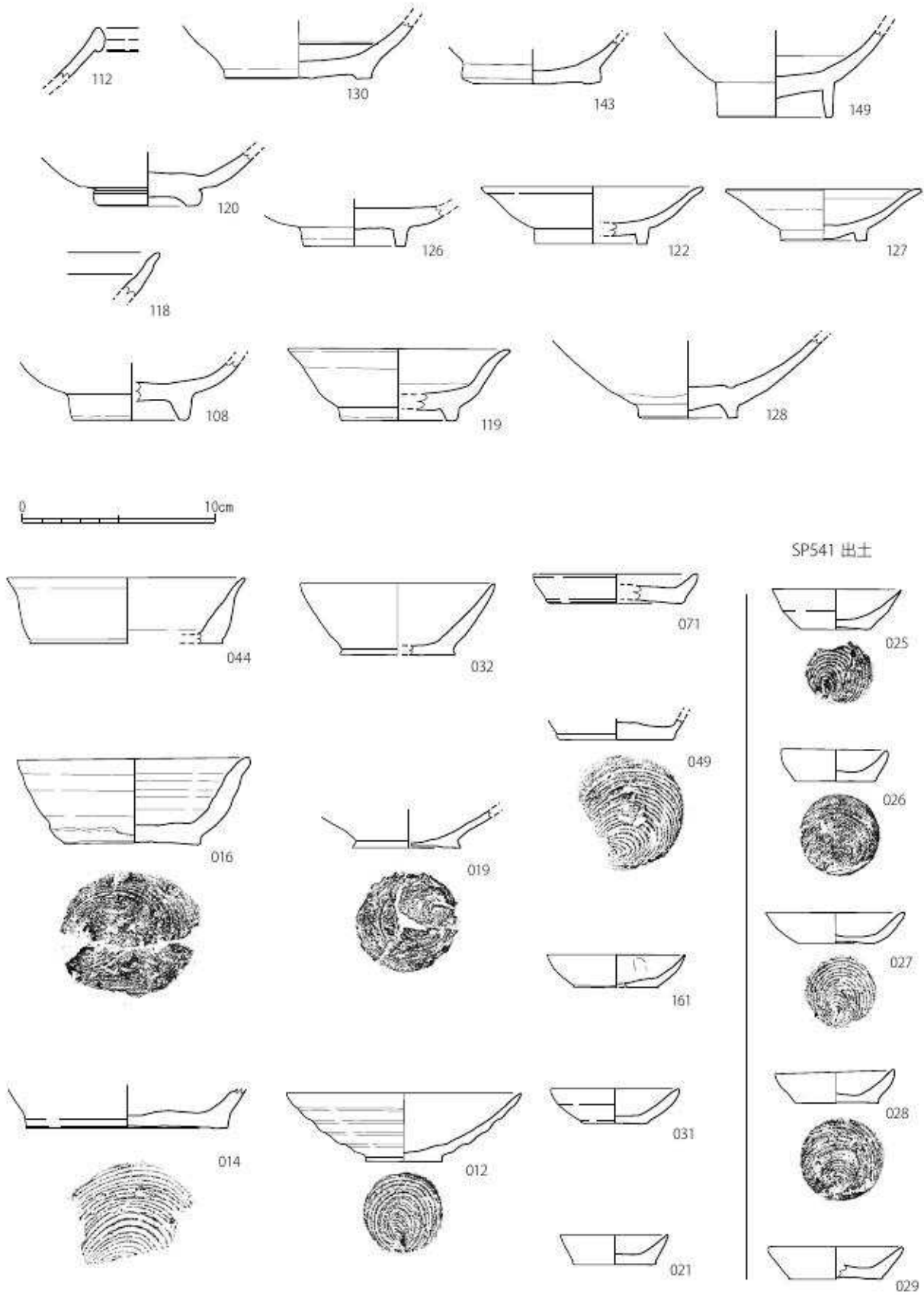


図17 遺物実測図〔貿易陶磁器・土師質土器〕(S=1/3)

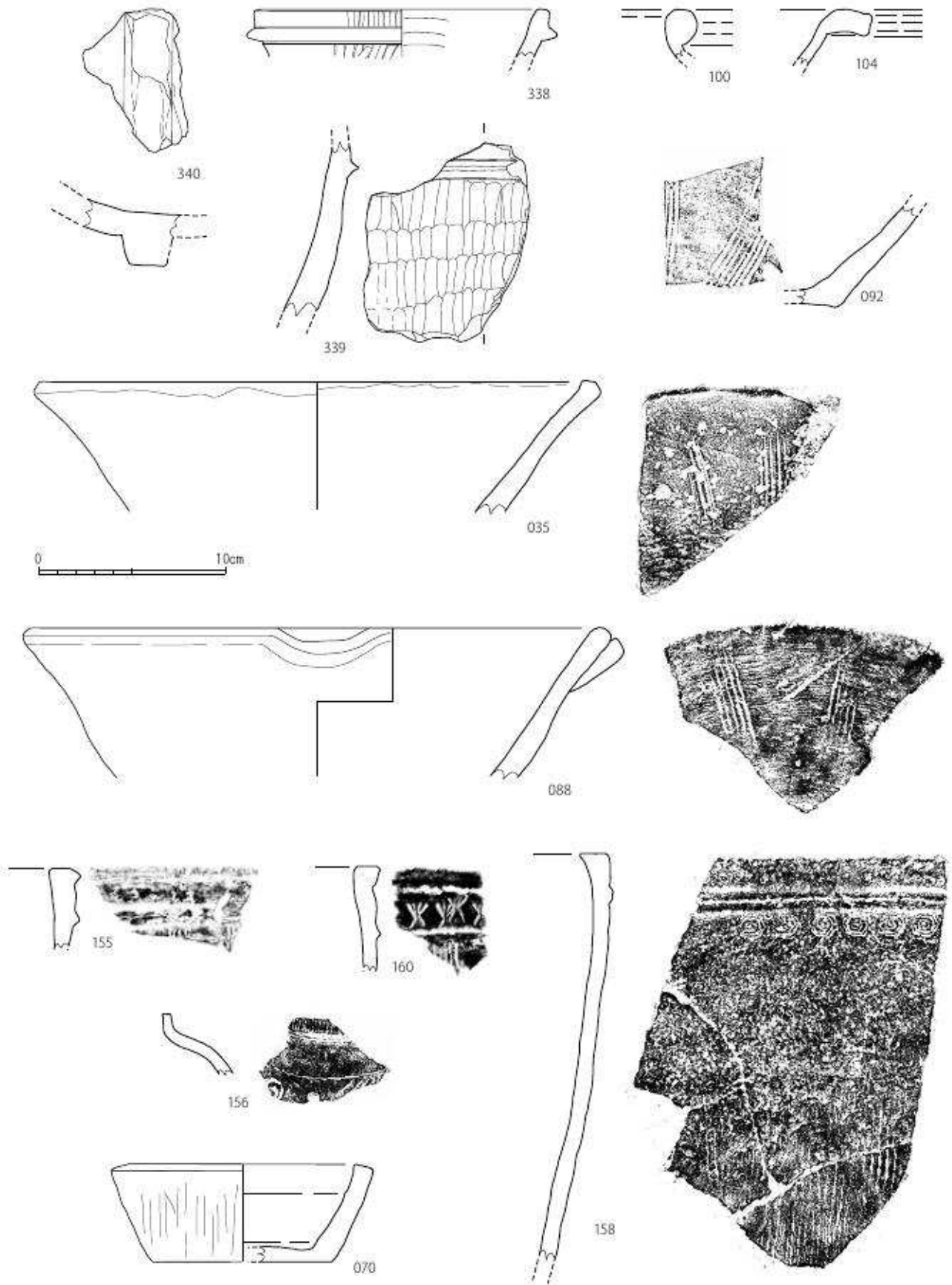


图 18 遺物実測図 [石鍋・陶器・瓦質土器] (S=1/3)

IV. その他の遺構と遺物

1. 遺構

(1) 土坑 (SK)

① SK02・03・05・06

C区南側の0989・1089グリッドに位置し、3層削平面で検出された。礫混じりの褐色土である3層削平面上で暗褐色の平面略方形プランとして認識できた。SK05は深さ15cmを測り、他はいずれも深さ10cm未満であった。SK05の埋土は比較的多くの円礫を含んでおり、土師質土器細片や挿鉢等の肥前系陶器、染付片が多く出土した。123の染付瓶は17世紀後半～18世紀の所産である。SK02・03・05・06は位置や向き・形態が類似しており出土遺物も近世以降が多く、いずれもその時期の造作と考えられる。位置・向きが現田畑の境界の段と近く、近現代の耕作地経営に関わる可能性もある。

(2) 溝状遺構 (SD)

① SD01

A区北西隅の0385・0386グリッドに位置し、3層削平面で検出された。やや蛇行し北北東～南南西方向に伸びる。幅20cm前後・深さ7cmほどで底面に顕著な造作は認められず勾配はほぼ平坦である。出土遺物は少なく白磁細片が出土したのみである。中世以降の遺構と考えられるが詳細な時期や性格は不明である。

② SD03

D区1190グリッドに位置し、3層削平面で検出された。幅30～50cm・深さ15～25cmほどで平面縦や底面は不整である。出土遺物はなくSD03底面の埋土掘削中に検出されたSP656上面で086の須恵器坏蓋が出土したが遺構の時期や性格は不明である。

(3) ピット (SP)

① SP87

B区東側0688グリッドの4層削平面で検出された。先述の掘立柱建物跡SB01の内部に位置しており、SB01柱穴と配列関係に見えることから、当初はSB01の構成柱穴と認識していた。柱穴内で出土した炭化材について放射性炭素年代測定を行ったところ、17世紀初頭を前後する暦年代が推定されており、SB01とは別の近世に属するピットと考えられる。

② SP123・125

B区西側0789グリッドの4層削平面で検出された。SP123で肥前編年Ⅲ～Ⅳ期の白磁小坏(109)が、SP125で110の染付片が出土した。SP125は近隣の127とともに根巻石が認められる。これら3基は芯々距離1.7m・2mの間隔で列をなす。近世の建物跡を構成する柱穴の可能性もある。109よりこれらピット列は17世紀後半から18世紀以降のものと考えられる。

(4) その他

C区東側0889グリッドの3層削平面で暗褐色を呈する平面略方形のプランとして検出された。当初は竪穴建物跡を想定しSC01としたが、サブトレンチで床面が確認できなかったため不明遺構SX01に改称した。複数のサブトレンチを設定し堆積状況を確認したが、掘り込みなど遺構としての明確な造作が認められず、層位横転のような乱れを複数箇所を確認したため、自然の営力によるものと判断した。

表2 ピット一覧1

番号	位置	法量(cm) 直径 深さ	遺物	備考	番号	位置	法量(cm) 直径 深さ	遺物	備考
SP1	B 0688	93 55	青磁碗、土師質播鉢	SB01、根巻	SP57	A 0387	38 22		
SP82	B 0688	75 48		SB01	SP58	A 0387	34 12		
SP89	B 0688	59 31		SB01、柱痕	SP59	A 0387	28 20		
SP90	B 0688	100 58	土師	SB01、柱痕	SP60	A 0387	36 24		
SP93	B 0688	69 31		SB01、柱痕	SP61	A 0387	88 39		
SP94	B 0688	85 37		SB01	SP62	A 0387	39 20		
SP95	B 0688	60 30		SB01	SP63	A 0387	37 25		
SP396	B 0688	80 31		SB01、柱痕	SP64	A 0387	26 21		
SP438	B 0688	68 47		SB01	SP65	A 0387	130 74	染付	根巻
SP652	B 0788	28 24		SB01	SP66	A 0387	68 29		
SP11	B 0588	68 30		SB02	SP67	A 0387	41 23	播鉢	
SP75	B 0688	65 43		SB02、柱痕	SP68	A 0387	47 23		
SP80	B 0688	55 31		SB02	SP69	A 0387	55 25		
SP81	B 0688	55 40		SB02	SP70	A 0387	57 25		根巻
SP265	B 0588	60 35		SB02	SP71	A 0387	40 18		
SP397	B 0688	47 30		SB02	SP72	A 0387	50 20		
SP10	B 0588	82 29		SB03	SP73	A 0388	85 24	播鉢	
SP76	B 0688	56 24	弥生か	SB03、柱痕	SP74	A 0387	31 17		
SP293	B 0688	92 47		SB03	SP77	B 0688	80 22		
SP294	B 0688	55 20		SB03	SP78	B 0688	77 33		
SP352	B 0588	90 38		SB03	SP79	B 0688	33 25	播鉢	
SP353	B 0788	67 25		SB03	SP83	B 0688	87 94		
SP384	B 0588	110 35	土師質	SB03、根巻石	SP85	B 0688	50 28		
SP2	B 0788	51 16			SP86	B 0688	63 32	弥生か	
SP3	B 0488	68 24			SP87	B 0688	60 23		
SP4	B 0488	33 14			SP88	B 0688	69 22		
SP6	B 0588	46 12			SP91	B 0688	36 15		
SP7	B 0688	112 18			SP96	B 0688	40 15		
SP9	B 0588	80 14			SP97	B 0688	80 12		
SP13	B 0687	30 24			SP98	B 0788	38 16		
SP15	A 0386	45 26			SP99	B 0687	48 7		
SP16	A 0386	34 14			SP100	B 0687	36 26		
SP18	A 0386	55 7			SP102	B 0687	40 42		
SP19	A 0385	19 7			SP103	B 0687	24 22		
SP20	A 0385	20 10			SP104	B 0687	68 76	白磁か	
SP21	A 0386	20 15			SP105	B 0687	25 13		
SP22	A 0386	22 6			SP106	B 0688	25 20		
SP23	A 0386	28 13	土師質		SP107	B 0688	66 13		
SP24	A 0386	23 7			SP109	B 0688	34 14		
SP25	A 0386	24 8			SP110	B 0688	29 23		
SP26	A 0385	31 19			SP111	B 0688	28 20		
SP27	A 0385	35 27			SP112	B 0688	70 29		
SP29	A 0385	38 6			SP113	B 0688	40 25		
SP30	A 0385	32 10			SP115	B 0888	32 28		
SP31	A 0386	30 16			SP116	B 0688	28 10		
SP32	A 0386	19 13			SP117	B 0688	32 9		
SP33	A 0386	20 10			SP118	B 0688	49 36		
SP34	A 0486	22 12			SP119	B 0787	82 23	青磁碗	
SP35	A 0486	20 16			SP120	B 0787	35 15		
SP36	A 0386	55 19			SP121	B 0788	43 38		
SP37	A 0386	33 23			SP123	B 0789	88 43	近世小坏	近世柱穴
SP38	A 0386	29 24			SP124	B 0789	36 30		
SP39	A 0386	23 10			SP125	B 0789	73 64	染付	近世柱穴、根巻
SP40	A 0386	35 20			SP127	B 0789	64 26		根巻
SP41	A 0386	36 22			SP128	B 0788	45 22		
SP42	A 0386	30 17			SP129	B 0788	32 26		
SP43	A 0386	24 22	土師質		SP130	B 0788	32 32	青磁碗	
SP44	A 0386	40 22			SP134	B 0788	39 35		
SP45	A 0386	52 12			SP135	B 0788	31 16	土師質	
SP46	A 0386	36 17			SP136	B 0788	31 32	土師質	
SP47	A 0386	63 40			SP138	B 0788	34 11		
SP48	A 0386	34 28			SP139	B 0788	52 11		
SP49	A 0387	28 11			SP141	B 0788	64 47		
SP50	A 0387	30 14			SP142	B 0788	33 25		
SP51	A 0387	32 23			SP144	B 0788	48 49		
SP52	A 0387	30 21			SP146	B 0789	20 17		
SP53	A 0387	28 37			SP147	B 0789	18 24		
SP54	A 0387	42 23			SP148	B 0789	33 37		
SP55	A 0387	22 19			SP149	B 0789	32 54		
SP56	A 0387	45 23			SP150	B 0788	23 28		

表3 ピット一覧2

番号	位置	法量(cm)		遺物	備考	番号	位置	法量(cm)		遺物	備考
		直径	深さ					直径	深さ		
SP151	B 0788	21	33			SP242	C 0989	34	32		
SP152	B 0788	51	35	白磁碗		SP243	C 0989	28	18		
SP153	B 0788	41	36			SP244	C 0989	58	44		
SP154	B 0788	36	33			SP245	C 0989	33	20		
SP155	B 0788	24	31			SP246	C 0989	36	49		
SP157	B 0788	27	17			SP247	C 0989	40	49		
SP158	B 0888	47	27			SP248	C 0989	82	61	青磁碗	
SP159	B 0888	46	8			SP249	C 0889	39	26		
SP161	C 0789	30	23			SP250	C 0889	34	20		
SP162	C 0789	40	24			SP251	C 0889	31	13		
SP163	C 0789	40	9			SP252	C 0888	32	20		
SP164	C 0789	42	33			SP253	C 0888	36	13		
SP165	C 0789	34	22	土師器か		SP254	C 0888	62	17		
SP166	C 0789	32	25			SP256	C 0888	34	16		
SP167	C 0889	34	39			SP257	C 0888	68	75	須恵器か	
SP168	C 0889	30	43			SP258	B 0788	20	18		
SP169	C 0889	46	18			SP259	B 0788	80	24		
SP170	C 0888	32	27			SP260	B 0788	45	12		
SP171	C 0888	40	46			SP261	B 0788	35	32		
SP172	C 0888	46	40			SP263	B 0788	43	15		
SP173	C 0889	52	35			SP264	B 0788	45	27		
SP175	C 0889	40	16			SP269	B 0588	84	6		
SP176	C 0889	74	53	土師質		SP274	B 0588	40	10		
SP177	C 0888	43	41			SP275	B 0587	62	11		
SP178	C 0889	47	19			SP276	B 0587	58	17		
SP179	C 0889	40	19			SP278	B 0578	36	15		
SP180	C 0889	47	43	陶器か		SP279	B 0587	35	15		
SP181	C 0888	66	47			SP280	B 0587	64	18		
SP182	C 0888	46	42			SP281	B 0587	24	11		
SP184	C 0889	26	31			SP283	B 0687	32	13		
SP185	C 0889	39	30			SP284	B 0687	33	14		
SP186	C 0889	52	22			SP286	B 0687	35	36		
SP187	C 0889	82	30			SP287	B 0687	32	20		
SP189	C 0889	38	23			SP288	B 0687	23	15		
SP190	C 0889	29	37			SP289	B 0687	193	15	瓦質	集石遺構SS01
SP191	C 0889	34	30			SP290	B 0588	41	13		
SP192	C 0889	27	10			SP291	B 0588	43	20	土師質	
SP195	C 0889	30	30			SP295	B 0788	32	57		
SP196	C 0889	38	44			SP296	B 0788	23	20		
SP197	C 0889	66	42			SP297	B 0788	29	26		
SP198	G 0889	57	10			SP298	B 0788	39	18		
SP203	C 0989	40	38			SP300	C 0888	27	20		
SP204a	C 0989	95	33		根巻	SP301	C 0888	55	20		
SP204c	C 0989	58	54		根巻	SP302	C 0989	35	15		
SP206	C 0989	78	52			SP303	C 0989	24	20		
SP207	C 0889	60	30			SP304	C 0988	24	11		
SP208	C 0889	126	42			SP305	C 0889	37	11		
SP209	C 0989	29	26			SP306	C 0889	5	40		
SP210	C 0989	30	47			SP309	C 0888	74	14		
SP212	C 0989	25	37			SP310	C 0888	61	11		
SP213	C 0989	28	21			SP311	C 0889	29	30		
SP214	C 0989	49	43			SP312	C 0889	24	10		
SP215	C 0989	92	35			SP313	C 0889	30	13		
SP215a	C 0989	50	39			SP314	C 0889	24	10		
SP217	C 0989	51	25	埴輪鉢		SP315	C 0889	27	14		
SP219	C 0989	50	38	埴輪鉢		SP321	B 0588	27	14		
SP222	C 0989	65	31			SP322	B 0588	52	16		
SP224	C 0989	88	17			SP324	B 0588	18	26		
SP225	C 0989	0	0		SP224と同じ	SP325	B 0588	59	21		
SP231	C 0989	36	26			SP329	B 0788	29	27		
SP232	C 0989	29	25			SP330	B 0788	25	16		
SP233	C 0989	36	21			SP331	B 0788	22	13		
SP234	C 0989	34	30			SP332	B 0788	24	14		
SP235	C 0989	75	54	土師質	根巻	SP333	B 0788	44	8		
SP236	C 0989	74	21			SP334	B 0788	45	30		
SP237	C 0989	71	28		根巻	SP336	B 0788	36	49		
SP238	C 0989	58	40			SP338	B 0687	41	15		
SP239	C 0989	32	26			SP339	B 0687	89	19		
SP240	C 0989	47	11			SP340	C 0888	47	23		
SP241	C 0989	0	0		SP240と同じ	SP341	C 0888	42	13		

表4 ピット一覧3

番号	位置	法量(cm) 直径 深さ	遺物	備考	番号	位置	法量(cm) 直径 深さ	遺物	備考
SP343	C 0889	27 18			SP450	C 0989	35 17	土師質か	
SP344	C 0889	21 7			SP451	C 0989	60 28		
SP345	C 0889	25 13			SP452	C 0989	34 15		
SP346	C 0889	29 28			SP453	C 0989	38 23		
SP347	C 0889	40 33			SP455	C 0989	53 20		
SP348	C 0889	32 19			SP456	C 0889	40 55	青磁椀	
SP349	C 0889	48 25			SP457	C 0989	53 66		
SP350	B 0586	148 29		集石遺構	SP458	C 0989	31 46		
SP351	B 0588	77 23			SP461	C 0989	41 19		
SP355	B 0688	48 27			SP462a	C 0989	44 58	土師質・土鍋	
SP357	B 0687	25 18			SP462b	C 0989	65 64	弥生か	
SP359	B 0788	50 14			SP463	C 0989	65 52		
SP361	B 0788	42 12			SP464	C 0989	27 21		
SP362	B 0788	76 27	縄文晩期		SP465	C 0989	59 21		
SP365	B 0788	40 18			SP466	C 0989	44 60		
SP367	B 0788	33 14			SP467	C 0989	39 21		
SP375	B 0688	52 13		根巻	SP468	C 0989	90 47		
SP379	B 0687	130 50			SP469	C 0989	0 0		SP468と同じ
SP380	B 0687	32 43			SP470	C 0989	40 56	挿鉢	
SP381	B 0687	35 12			SP472	C 0889	36 10		
SP385	B 0588	40 27			SP473	C 0889	23 10		
SP386	B 0588	170 35	土師坏、洪武通寶	集石遺構SS03	SP474	C 0888	52 38		
SP387	B 0687	25 18			SP475	C 0888	30 10		
SP388	B 0687	40 11			SP476	B 0787	61 16		
SP389	B 0687	40 13			SP477	B 0787	105 14		
SP390	B 0787	83 67			SP478	C 0989	37 26		
SP391	B 0787	47 20			SP482	B 0687	55 47		
SP392	B 0788	94 77			SP483	B 0888	32 16		
SP393	B 0788	34 13			SP484	C 0989	28 13		
SP395	B 0688	42 30			SP485	C 0989	30 16		
SP399	B 0588	49 12			SP486	C 0889	78 28		
SP401	B 0588	43 12			SP486b	C 0889	71 47	挿鉢鉢	
SP405	B 0587	24 3300			SP488	B 0687	40 17		
SP406	B 0587	48 27			SP490	C 0989	82 58		根巻
SP407	B 0587	52 23			SP491	C 0989	75 36		
SP408	B 0788	25 36			SP492	C 0989	41 11		
SP410	C 0888	19 11			SP493	C 0989	48 35		
SP411	C 0989	35 53		根巻	SP494	C 0989	112 43		
SP412	C 0988	33 19			SP495	C 0989	42 34		
SP413	C 0989	37 24			SP497	C 0989	42 28		
SP414	C 0989	44 11			SP498	C 0989	16 5		
SP415	C 0889	43 12			SP500	B 0788	33 7		
SP416	C 0888	106 51		土坑SK07	SP501	B 0586	54 20		
SP417	C 0889	36 24			SP502	C 0989	75 21		
SP419	C 0889	34 37			SP504	C 0989	54 50		
SP420	C 0888	30 15			SP505	C 0989	28 25		
SP421	C 0889	22 18			SP506	C 0989	65 37		
SP422	C 0889	40 36			SP507	C 0989	47 46		
SP423	C 0889	39 25			SP508	C 0989	27 15		
SP425	B 0788	28 24			SP510	C 0989	36 19		
SP426	B 0788	27 15			SP511	C 0989	41 21		
SP427	B 0788	31 24			SP512	C 0989	35 6		
SP428	B 0788	60 69			SP513	C 0989	36 24		
SP429	B 0788	24 31			SP514	C 0989	80 23		
SP430	B 0688	150 19			SP516	C 0989	29 31		
SP431	B 0788	30 20			SP517	C 0989	22 6		
SP432a	B 0788	61 22			SP518	C 0989	33 46		
SP432b	B 0788	40 28			SP519	C 0989	40 35		
SP434	B 0788	39 23			SP520	C 0989	41 16		
SP435	C 0989	70 68			SP521	C 0989	29 10		
SP436	C 0989	55 14			SP522	C 0989	24 27		
SP437	C 0988	30 11			SP523	C 0989	60 40		
SP442	B 0788	33 28			SP524	C 0989	37 26		
SP443	B 0788	38 37			SP525	C 0989	36 20		
SP444	C 0889	52 17		根巻	SP526	C 0989	40 28		
SP445	C 0889	108 61		根巻	SP527	C 0989	52 32		
SP446	C 0989	24 21			SP528	C 0889	24 26		
SP447	C 0989	72 42			SP529	C 0889	50 27		ISK04
SP448	C 0989	42 45			SP530	B 0688	30 12		
SP449	C 0989	85 26			SP531	B 0687	32 21		

表5 ピット一覧4

番号	位置	法量(cm)		遺物	備考	番号	位置	法量(cm)		遺物	備考
		直径	深さ					直径	深さ		
SP532	B 0687	29	22			SP606	C 1089	37	22		
SP534	B 0588	41	12			SP607	C 1089	38	10		
SP535	B 0588	42	10			SP608	B 0788	29	31	青磁碗	
SP536	B 0588	27	12			SP609	B 0788	45	35		
SP537	B 0788	28	8			SP610	B 0788	43	54	青磁坏	
SP538	B 0788	36	24			SP611	B 0888	46	58		
SP540	B 0788	30	52			SP612	B 0788	42	30		
SP541	B 0787	57	36	土師皿5(柱痕跡埋置)	SP548の柱痕跡	SP613	B 0788	38	21		
SP542	A 0386	22	8			SP614	B 0788	58	41		
SP543	A 0386	82	20			SP615	B 0788	40	28		
SP544	A 0387	23	20			SP616	B 0788	34	24		
SP545	A 0287	49	21			SP617	B 0788	34	32		
SP546	A 0387	48	17			SP618	B 0788	30	14		
SP547	A 0387	57	13			SP619	B 0788	24	33		
SP549	A 0387	66	14			SP620	B 0788	61	16		
SP551	A 0387	40	14			SP621	B 0788	31	24		
SP552	A 0387	64	35			SP622	B 0788	35	9		
SP553	A 0487	55	23			SP623	B 0788	53	25		
SP554	A 0487	38	13			SP624	B 0788	43	52		
SP555	A 0487	40	20			SP625	B 0788	26	28		
SP556	A 0487	58	32			SP626	B 0788	38	35		
SP557	A 0488	57	32			SP628	B 0788	30	20		
SP558	B 0788	56	20			SP629	B 0788	35	34		
SP559	C 0989	27	26			SP630	B 0788	27	26		
SP560	C 0989	49	24			SP631	B 0788	32	40		
SP561	C 0989	85	41			SP632	B 0888	50	36		
SP562	C 1089	120	40			SP633	B 0788	50	31		
SP563	C 1089	26	21			SP634	B 0788	34	32		
SP564	C 1089	46	32			SP635	B 0788	64	16		
SP565	C 0990	43	17			SP636	B 0788	44	55		
SP566	C 0989	56	24			SP637	B 0788	28	38		
SP567	C 0989	44	40			SP638	B 0788	74	22		
SP568	C 0989	50	41			SP639	B 0888	52	32		
SP569	C 0989	45	47			SP640	B 0788	20	22		
SP570	C 0989	35	15			SP641	C 0989	36	15		
SP571	C 0989	32	25			SP642	C 0989	56	47	土師坏	
SP572	C 0989	30	29			SP643	C 0888	73	50		
SP573	C 0989	40	30			SP644	C 0988	48	41		
SP574	C 0989	20	10			SP646	C 0888	46	60		
SP575	C 0888	40	25			SP647	B 0787	118	23		
SP576	B 0788	28	19			SP649	B 0788	32	17		
SP577	B 0788	23	31			SP650	B 0788	47	31		
SP578	B 0788	48	24			SP651	B 0788	28	46		
SP579	B 0788	32	16			SP653	B 0788	71	66		
SP580	C 0989	78	49			SP654	B 0788	82	39		
SP581	B 0787	56	44			SP655	B 0788	25	20		
SP582	B 0787	60	37			SP656	D 1190	68	33	須恵器	
SP583	B 0687	32	23			SP657	A 0385	25	16		
SP584	B 0687	50	21			SP658	A 0385	21	22		
SP585	B 0687	48	31			SP660	B 0687	34	26		
SP586	B 0687	28	20			SP661	B 0687	19	29		
SP587	B 0687	37	14			SP662	C 0989	34	31		
SP588	B 0687	30	11			SP663	C 0989	32	30		
SP589	B 0587	24	13			SP664	B 0688	33	46		
SP590	B 0586	50	16			SP665	B 0788	40	42		
SP591	B 0586	102	25			SP666	B 0788	32	33		
SP592	B 0788	45	12			SP667	B 0788	50	57		
SP593	B 0788	83	51			SP668	D 1189	32	31		
SP594	B 0788	20	25			SP669	B 0788	44	78		
SP595	B 0788	25	20			SP670	B 0788	30	24		
SP596	C 0989	45	36			SP671	B 0788	24	25		
SP597	C 0989	38	31			SP672	D 1090	85	35		
SP598	C 0880	37	74			SP673	B 0788	29	34		
SP599	C 0889	24	14			SP674	B 0788	40	40		
SP600	C 1089	58	22	椀插鉢		SP675	B 0788	32	17		
SP601	C 1089	60	40			SP676	B 0788	36	34		
SP602	C 1089	40	28			SP677	D 1089	35	11		
SP603	C 0989	47	29			SP678	B 0788	45	25		
SP604	C 0989	111	24			SP679	D 1089	36	27		
SP605	B 0586	30	12	土師質		SP680	D 1089	38	15		

表 6 ピット一覧 5

番号	位置	法量(cm)		遺物	備考
		直径	深さ		
SP681	D 1089	32	10		
SP682	D 1090	36	26		
SP683	D 1190	40	19		
SP684	D 1190	39	14		
SP685	D 1190	39	31		
SP686	D 1090	29	30		
SP687	D 1089	69	42		
SP688	D 1089	54	25		
SP689	D 1089	22	20		
SP690	D 1089	58	23		
SP691	D 1190	103	29		
SP692	B 0687	24	52		
SP693	B 0788	25	24		
SP694	B 0788	35	16		
SP695	B 0788	29	14		
SP696	B 0788	40	18		
SP697	B 0788	33	12		
SP698	B 0788	27	15		

表7 遺物一覧1(土器・陶磁器)

ID	出土位置		種別 器種 型式・時期	部位 残存率	法量(cm)			調整ほか特徴	色調 上段: 外面 下段: 内面	備考
	遺構等	層位			器高	口径	底径			
012	C区 SP176 P07~09	2層上面	土師質土器 杯 中世V期	口~底 1/3	3.6	12.2	4.2	外・内】回転ナデ	橙7.5YR6/6 にぶい黄褐色10YR5/4	-68と接合
014	SP235		土師質土器 杯 中世IV期~	底 1/3	-	-	(14.0)	外・内】回転ナデ、糸切	黒褐色10YR2/2 橙7.5YR6/6	
016	B区 SP291 P01	-2cm	土師質土器 杯 15C後半か	完形	4.4	12.0	6.8	外・内】回転ナデ	橙7.5YR7/6 橙7.5YR6/6	全体に肉厚
019	B区 SP386 P01		土師質土器 杯 中世		2.0		5.2		明黄褐色10YR6/6明黄 褐色10YR6/6	
021	SP462		土師質土器 小皿 中世III期~	口~底 1/2	1.6	(5.8)	(4.2)	外・内】回転ナデ、糸切	橙5YR7/8橙5YR6/6	
023	SP465	検出面	瓦質土器 土鏡 中世V期~	底 <1/8	-	-	-	外】斜ハケ・底部不定ハケ 内】回転ヨコ ハケ		
025	B区 SP541		土師質土器 小皿 中世III期~	完形	2.1	6.7	3.4	外】回転ナデ・糸切 内】回転ナデ	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄褐色10YR7/4	1枚目。伏位
026	B区 SP541		土師質土器 小皿 中世IV期~	完形	1.7	(5.6)	4.2	外】回転ナデ・糸切 内】回転ナデ	橙5YR6/6橙5YR6/8	2枚目
027	B区 SP541		土師質土器 小皿 中世IV期~	完形	1.6	7.2	3.7	外】回転ナデ・糸切 内】回転ナデ	明赤褐5YR5/6 明赤褐5YR5/6	3枚目
028	B区 SP541		土師質土器 小皿 中世IV期~	完形	1.7	6.2	4.3	外】回転ナデ・糸切 内】回転ナデ	明褐7.5YR5/8 明褐7.5YR5/8	4枚目。口縁内面に 黒色付着物。灯明皿 か。
029	B区 SP541		土師質土器 小皿 中世IV期~	完形	1.7	(7.0)	(4.8)	外】回転ナデ・糸切 内】回転ナデ	橙5YR6/6 橙5YR6/8	5枚目
031	C区 SP605.596. SK02.05		土師質土器 小皿 中世V期~	口~底 1/2	1.8	6.7	3.4	外】回転ナデ・糸切 内】回転ナデ	にぶい褐色7.5YR5/4 にぶい橙7.5YR7/3	
032	C区 SP642	-3cm	土師質土器 杯 中世IV期~	口~底 1/4	3.7	(10.1)	(6.0)	外】回転ナデ、糸切、煤付着 内】ヨコナ デ	黒褐色10YR3/1 明褐7.5YR5/6	
035	B区 SP01 P01		瓦質土器 播鉢 中世IV期~	口 <1/8	-	(30.2)	-	外】ナデ・風化 内】口縁ヨコナデ、播目 5条	にぶい黄橙10YR6/4 にぶい黄橙10YR7/4	
042	B区 P11	2b層	弥生土器 台付甕 弥生終末期~	脚台 1/2	-	-	-	外】タテハケ・風化 内】ナデ・風化		
043	B区 P04	4層直上	土師器 高杯 古墳前期	杯底 3/4	-	-	-	外】ナデ・風化、付加接合キザミ目 内】 接合部北オサエ	褐色10YR4/6 明褐色7.5YR5/6	
041	B区中央南 半	2b層	縄文土器 深鉢 晩期	口 <1/8	-	-	-	外・内】ナデ		
044	B区 P15		土師質土器 杯 中世	口~底 1/4	3.4	(12.3)	(10.0)	外】回転ナデ・風化、糸切 内】回転ナ デ・風化	にぶい黄橙10YR6/4 にぶい黄橙10YR7/4	
046	B区 F01	4層直上	弥生土器 蓋 弥生後期~	頸~体 1/4	-	-	-	外】ヨコハケ・風化、頸部赤彩 内】ナデ・ 風化	橙7.5YR6/6 橙7.5YR7/6	頸部に赤彩あり
048	B区0586	4層直上	土師器 高杯 古墳前期	脚 1/2	-	-	(9.6)	外】タテミガキ・風化 内】ナデ・風化	にぶい黄橙10YR6/4 にぶい黄橙10YR6/4	
049	B区 P12		土師質土器 小皿 中世	底 3/4	-	-	5.8	外・内】回転ナデ・風化、糸切	橙5YR6/8 橙5YR6/6	
056	B区西壁ト レンヂ	2b層	縄文土器 深鉢 晩期	口 <1/8	-	-	-	外・内】ナデ		
059	B区	2層	縄文土器 浅鉢 晩期	口 <1/8	-	-	-	外・内】ミガキ		
070	C区 P03	3層上面	瓦質土器 杯 中世	口~底 1/3	5.6	(14.0)	(9.6)	外】口縁ヨコナデ、体部タテミガキ 内】 回転ナデ	灰黄2.5YR7/2 浅黄2.5Y7/3	
071	C区204b P01	2層	土師質土器 小皿 中世	口~底 1/4	1.5	(8.6)	(7.0)	外・内】回転ナデ、糸切	橙5YR6/6 橙5YR6/8	
075	D区		瓦質土器 播鉢 中世IV期~	底 <1/8	-	-	-	外】煤・風化 内】播目6条		

表8 遺物一覧2(土器・陶磁器)

ID	出土位置		種別 器種 型式・時期	部位 残存率	法量(cm)			調整ほか特徴	色調 上段: 外面 下段: 内面	備考
	遺構等	層位			器高	口径	底径			
076	A区西	3層上面	須恵質土器 程鉢 森田I期	口 <1/8	-	-	-	外・内】回転ナデ		東播系
079	B区0688	2層	須恵器 蓋杯 古墳終末期	受 <1/8	-	-	-			
081	B区	2層	須恵質土器 程鉢 森田I期	口 <1/8	-	-	-			東播系
082	B区北半	4層上面	須恵器 壺か 古墳	胴 <1/8	-	-	-			
084	B区西壁・ レンガ	2b層	縄文土器 深鉢 晩期	口 <1/8	-	-	-	外・内】ナデ		
085	A区 P16		須恵器 蓋杯 古墳後期	体 <1/8	-	-	-			
086	D区 SP656 P01		須恵器 蓋杯 古墳	蓋 1/3	-	-	-	風化		
087	C区	2層上面	須恵質土器 程鉢 森田I期		-	-	-			
088	C区 SP470	-30cm	瓦質土器 搦鉢 中世IV期〜	口 <1/8	-	(30.4)	-	外】ナデ・風化 内】ヨコハタ、揺り目5条	橙7.5YR6/6 にぶい黄橙10YR6/4	
092	SP79 P01	-5cm	陶器 搦鉢 中世III・IV期	底 <1/8	-	-	(17.3)	外】ナデ 内】ヨコナデ、揺り目7条	明赤褐2.5YR5/6 明赤褐2.5YR5/6	備前
100	C区西半	2層	陶器 壺 12〜15C	口 <1/8	-	-	-			玉縁口縁。備前
101	C区南半 カ クラン	2層	陶器 天目碗 14Cか	口 <1/8	-	-	-			天目碗
104	D区	表土	陶器 壺 12C後半か	口 <1/8	-	-	-			常滑
108	B区 SP119 P01	下層	青磁 龍泉窯系碗 碗II類か	底 1/3	-	-	(6.0)	外・内】全面施釉後、高台内面を掻き取り	灰白5Y7/1 灰白5Y7/1	
109	SP123		白磁 小坪 肥前III〜IV期	口〜底 1/1	4.5	6.7	3.0	外・内】高台無釉	灰白5Y7/1 灰白5Y7/1	
110	B区 SP125	柱痕底面	染付 鉢か 近世	口 <1/8	-	-	-			
112	B区 SP152		白磁 碗 碗IV類C期	口 1/8	(2.4)	(19.6)	-		灰白5Y7/2 灰白5Y7/2	
116	B区 SP316		青磁 龍泉窯系碗 碗II・III類	体 <1/8	-	-	-			銘連弁
118	B区 SP608		青磁 同安窯系碗 碗III2類	口 <1/8	-	(18.0)	-	外】口縁下に凹線、片影の縦線 内】口縁下に沈線	灰白10Y7/2 灰白10Y7/2	同安窯系
119	B区 SP610	柱抜取痕 -37cm	青磁 環 環III類	口〜底 1/8	3.7	(11.5)	(6.0)	外】全面施釉後、高台内を掻き取り 内】見込み無釉	オリーブ黄7.5Y6/3 オリーブ黄7.5Y6/3	
120	B区 SP01		青磁 龍泉窯系碗 碗I類	底 1/1	-	-	(5.4)	外・内】全面施釉後、高台畳付・内面を掻き取り	暗オリーブ5Y4/4 灰オリーブ5Y5/2	
122	B区 SK01		白磁 皿 皿III2類	口〜底 1/4	3.0	(11.6)	(5.8)	外】口縁より下は無釉	灰黄2.5Y7/2 灰白5G7/1	
126	B区 SX01 P10		青磁 龍泉窯系碗 碗I類	底 1/1	-	-	(5.3)	外】全面施釉後、高台畳付・内面を掻き取り 内】見込みに花文	オリーブ灰10YR6/2 オリーブ灰10YR6/2	見込みに花文
127	A区西	3層上面	白磁 皿 皿III2類	口〜底 1/3	2.7	(10.2)	(4.4)	外】体部中ほどより下は無釉 内】口縁下に沈線	灰オリーブ5Y6/2 灰オリーブ5Y5/2	
128	A区西	3層上面	青磁 同安窯系碗 碗I1b類	底 2/3	-	-	(5.4)	外】縦の櫛目文、高台無釉 内】草花文、見込み境に段	オリーブ黄5Y6/4 オリーブ黄5Y6/3	同安窯系
130	A区	3層上面	白磁 碗 碗IV1a類	底 1/2	-	-	(7.5)	外】体部下半無釉 内】見込みに沈線	灰白7.5YR7/2 灰白5Y8/1	

表9 遺物一覧3(土器・陶磁器)

ID	出土位置		種別 器種 型式・時期	部位 残存率	法量(cm)			調整ほか特徴	色調 上段:外面 下段:内面	備考
	遺構等	層位			器高	口径	底径			
134	B区	表土	青花 椀か	口 <1/8	-	-	-			明染
142	C区		青磁 龍泉窯系椀 椀Ⅲ2類	口 <1/8	-	-	-	外】細弁の筋連弁文		
143	C区	3層直上	白磁 椀 椀Ⅳ1a類	底 1/1	-	-	7.3	外】体部下半無軸 内】見込みに沈線	灰白2.5Y7/1 灰白10Y7/2	
145	B区南西半	2~2b層	青磁 龍泉窯系椀 椀Ⅰ類	口 <1/8	-	-	-	外】口縁下に沈線 内】蓮華文		
146	B区南半	2b層	青磁 皿 皿Ⅰ1c類	底 <1/8	-	-	-	外】底部無軸 内】片彫花文、欄目文		
148	D区	1層	白磁 皿 皿Ⅸ+Ⅹ類		-	-	-			口禿げ
149	D区	1層	白磁 椀 椀Ⅴ類	高台 1/2	-	-	(6.0)	外】高台一部施軸 内】見込みに沈線	灰黄2.5Y7/2 灰白5Y7/2	
151	D区	1層	青花 皿	口 1/8	-	-	-	内】圈線、菊歯文		明染
152	C区南半カ クラン	~2層	青磁 龍泉窯系椀 椀Ⅱ類	体 <1/8	-	-	-	外】筋連弁文		
155	B区 SX01		瓦質土器 火鉢 15c-16c	口 1/8	-	(37.3)	-	外】桜花スタンプ文、突帯、縦沈線 内】 ヨコナデ	褐灰5YR4/1 黒褐5YR2/1	
156	C区 SX01	埋土直上	瓦質土器 風炉 15C後半か	口~肩 1/8	-	(11.4)	-	外】ミガキ、口縁:連続縦沈線、肩:沈 線、胴:飛脚状条線、沈線文様 内】ヨコ ハケ	黄灰2.5Y4/1 黄灰2.5Y5/1	
158	B区 F02	3層上面	瓦質土器 火鉢 16C後半~	口~肩 1/8	-	(31.8)	-	外】M字突帯、亀甲スタンプ文 内】ヨコ ハケ	黄灰2.5Y4/1 黄灰2.5Y5/1	
160	D区	1層	瓦質土器 火鉢 15c-16c	口 <1/8	-	(34.6)	-	外】*字スタンプ文、突帯、縦沈線 内】 ヨコナデ	黒褐2.5Y3/2 黒褐2.5Y3/2	
161	B区 SK01 周辺		土師質土器 小皿	口~底 1/3	1.7	(7.1)	(4.4)	回転ナデ、糸切、板状圧痕	橙7.5YR6/6 橙7.5YR6/6	口唇に煤付着、灯明 皿
338	SP148		石燧 石燧Ⅲe1類小 15C前半	口 <1/8	-	-	-			
339	SP172		石燧 石燧Ⅲe1類大 15C前半	口~体 <1/8	-	-	-			
340	A区 P18	4層上面	石燧 石燧Ⅱa1類 11C中葉	口 <1/8	-	-	-			

表10 遺物一覧4(石器)

ID	出土位置		器種	石材	法量(cm・g)				備考
	遺構等	層位			長さ	幅	厚み	重量	
301	SK04		石燧	黒曜石(暗灰色)	3.2	1.9	0.3	1.6	鎌形燧
302	SK05		スクレイパー	黒曜石	3.1	2.2	1.1	7.2	
305	SP649		彫器	黒曜石	3.2	0.9	1.1	3.6	
307	C区西半	2層	石燧	黒曜石	1.9	1.3	0.3	0.7	
309	B区北西半	2層	石燧未製品か	黒曜石(暗灰色)	2.6	2.6	0.9	5.4	
310	B区西壁際	2~2b層	横長剥片	黒曜石	2.5	3.7	1.4	8.0	
311	B区	2層上面	縦長剥片	黒曜石	3.8	1.9	0.7	5.4	
312	B区	2層上面	残燧か	黒曜石(暗灰色)	2.1	2.1	1.7	6.8	
314	C区西半	2層	石燧	黒曜石	2.4	1.9	0.3	0.9	剥片燧
319	A区	表土	垂飾	黒色	1.1	1.1	0.4	0.6	
320	B区	2層上面	垂飾	赤褐色	2.5	0.9	0.9	2.1	
322	B区トレンチ3中央	3a-b層位横板	磨製石斧	流紋岩	7.2	7.5	2.1	118.8	
323	B区	2b層下部	打製石斧	安山岩	10.8	8.1	1.8	143.5	
324	SP687		環状有孔石製品	砂岩	10.4	10.2	6.6	606.0	
329	D区	1層	石鏃	結晶片岩	10.2	8.1	2.4	273.4	
331	SP289		二次加工剥片	結晶片岩	19.8	10.2	2.5	450.0	

V. 自然科学分析（放射性炭素年代測定）

株式会社古環境研究所

1. はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素（ ^{14}C ）の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壌さらには土器付着炭化物などが測定対象となり、約5万年前までの年代測定が可能である（中村, 2003）。今回の分析調査では、竹松遺跡の発掘調査で出土した遺構等について放射性炭素年代測定を実施し、年代に関する情報を得る。

2. 試料と方法

試料は、竹松遺跡の遺構等から出土した炭化材 11 点である。表 1 に、測定試料の詳細と前処理・調整法および測定法を示す

試料の付着物を取り除いた後、酸-アルカリ-酸（AAA: Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と結果表に記載する。

化学処理後の試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO_2) を発生させ、真空ラインで二酸化炭素を精製する。精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

測定方法は、加速器をベースとした ^{14}C -AMS 専用装置を使用し、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HoxII) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。 $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である。

表 1 測定試料及び処理

試料番号	試料の詳細		前処理・調整	測定法
501	SP96	炭化材	酸-アルカリ-酸処理 (AAA)	AMS
502	SP87	炭化材	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
503	SP93	炭化材	酸-アルカリ-酸処理 (AAA)	AMS
510	SP173	炭化材	酸-アルカリ-酸処理 (AAA)	AMS
506	SP90	炭化材	酸-アルカリ-酸処理 (AAA)	AMS
512	SP204b	炭化材	酸-アルカリ-酸処理 (AAA)	AMS
514	SS01	炭化材	酸-アルカリ-酸処理 (AAA)	AMS
518	SP379	炭化材	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
520	SP490	炭化材	酸-アルカリ-酸処理 (AAA)	AMS
521	SP541	炭化材	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
525	B区北トレンチ 3a層	炭化材	酸-アルカリ-酸処理 (AAA)	AMS

※AMS (Accelerator Mass Spectrometry) は加速器質量分析法

3. 結果

加速器質量分析法 (AMS: Accelerator Mass Spectrometry) によって得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行い、放射性炭素 (^{14}C) 年代および暦年代 (校正年代) を算出した。表2にこれらの結果を示し、図1に暦年校正結果 (校正曲線) を示す。

表2 測定結果

試料番号	測定No. (TAAA)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年校正年代 (年BP)	^{14}C 年代 (年BP)	暦年代 (西暦)	
					1 σ (68.2% 確率)	2 σ (95.4% 確率)
501	181087	-25.86 ± 0.27	872 ± 21	870 ± 20	1160 calAD - 1208 calAD (68.2%)	1050 calAD - 1083 calAD (10.8%) 1127 calAD - 1135 calAD (1.3%) 1151 calAD - 1221 calAD (83.3%)
502	181088	-26.41 ± 0.24	302 ± 20	300 ± 20	1523 calAD - 1572 calAD (52.3%) 1630 calAD - 1645 calAD (15.9%)	1514 calAD - 1600 calAD (70.2%) 1616 calAD - 1649 calAD (25.2%)
503	181089	-24.23 ± 0.26	608 ± 21	610 ± 20	1305 calAD - 1327 calAD (27.6%) 1342 calAD - 1365 calAD (27.8%) 1384 calAD - 1395 calAD (12.8%)	1299 calAD - 1370 calAD (75.2%) 1379 calAD - 1401 calAD (20.2%)
510	181090	-24.48 ± 0.25	1101 ± 21	1100 ± 20	900 calAD - 922 calAD (29.3%) 948 calAD - 980 calAD (38.9%)	892 calAD - 990 calAD (95.4%)
506	181091	-25.47 ± 0.27	985 ± 21	990 ± 20	1017 calAD - 1044 calAD (53.9%) 1104 calAD - 1119 calAD (14.3%)	996 calAD - 1050 calAD (62.5%) 1084 calAD - 1125 calAD (26.4%) 1136 calAD - 1151 calAD (6.5%)
512	181092	-27.22 ± 0.24	513 ± 20	510 ± 20	1412 calAD - 1431 calAD (68.2%)	1403 calAD - 1440 calAD (95.4%)
514	181093	-27.75 ± 0.21	400 ± 19	400 ± 20	1447 calAD - 1480 calAD (68.2%)	1441 calAD - 1499 calAD (86.9%) 1508 calAD - 1511 calAD (9.6%) 1601 calAD - 1616 calAD (7.9%)
518	181094	-28.09 ± 0.25	543 ± 21	540 ± 20	1332 calAD - 1337 calAD (6.9%) 1398 calAD - 1422 calAD (61.3%)	1321 calAD - 1349 calAD (23.7%) 1391 calAD - 1431 calAD (71.7%)
520	181095	-26.50 ± 0.21	608 ± 19	610 ± 20	1305 calAD - 1327 calAD (28.0%) 1343 calAD - 1364 calAD (27.8%) 1385 calAD - 1395 calAD (12.4%)	1299 calAD - 1370 calAD (75.8%) 1380 calAD - 1401 calAD (19.6%)
521	181096	-25.02 ± 0.23	425 ± 20	430 ± 20	1440 calAD - 1462 calAD (68.2%)	1433 calAD - 1483 calAD (95.4%)
525	181097	-26.56 ± 0.20	7947 ± 30	7950 ± 30	7024 calBC - 6965 calBC (19.9%) 6948 calBC - 6935 calBC (4.1%) 6916 calBC - 6880 calBC (13.4%) 6841 calBC - 6756 calBC (30.1%) 6717 calBC - 6715 calBC (0.7%)	7030 calBC - 6874 calBC (47.6%) 6867 calBC - 6698 calBC (47.8%)

BP: Before Physics (Present), BC: 紀元前, AD: 紀元

^{14}C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach, 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を結果表に示す。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

暦年校正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた校正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年校正年代は、 ^{14}C 年代に対応する校正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma=68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma=95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年校正年代を表す。暦年校正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、校正曲線および校正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とパー

ジョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al., 2013) を用い、OxCalv4.3 較正プログラム (Bronk Ramsey, 2009) を使用する。暦年較正年代は、¹⁴C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」・「cal BP」という単位で表される。

4. 所見

加速器質量分析法 (AMS) による放射性炭素年代測定の結果、SP96 出土の炭化材は、 870 ± 20 yrBP (2σ の暦年代で 1050 calAD~1083 calAD、1127 calAD~1135 calAD、1151 calAD~1221 calAD) の年代値で中世前半頃に相当する。SP87 出土の炭化材は、 300 ± 20 yrBP (同 1514 calAD~1600 calAD、1616 calAD~1649 calAD) の年代値で近世前半頃に相当する。SP93 出土の炭化材は、 610 ± 20 yrBP (同 1299 calAD~1370 calAD、1379 calAD~1401 calAD) の年代値で中世中頃に相当する。SP173 出土の炭化材は、 $1,100 \pm 20$ yrBP (同 892 calAD~990 calAD)、SP90 出土の炭化材は、 990 ± 20 yrBP (同 996 calAD~1050 calAD、1084 calAD~1125 calAD、1136 calAD~1151 calAD) の年代値でそれぞれ平安時代中頃に相当する。SP204b 出土の炭化材は、 510 ± 20 yrBP (同 1403 calAD~1440 calAD) の年代値で中世中頃に相当する。SS01 出土の炭化材は、 400 ± 20 yrBP (同 1441 calAD~1499 calAD、1508 calAD~1511 calAD、1601 calAD~1616 calAD) の年代値で中世後半頃に相当する。SP379 出土の炭化材は、 540 ± 20 yrBP (同 1321 calAD~1349 calAD、1391 calAD~1431 calAD)、SP490 出土の炭化材は、 610 ± 20 yrBP (同 1299 calAD~1370 calAD、1380 calAD~1401 calAD) の年代値でそれぞれ中世中頃に相当する。SP541 出土の炭化材は、 430 ± 20 yrBP (同 1433 calAD~1483 calAD) の年代値で中世後半頃に相当する。なお B 区北トレンチ 3a 層出土の炭化材は、 7950 ± 30 yrBP (同 7030 calBC~6874 calBC、6867 calBC~6698 calBC) の年代値で縄文時代早期後半頃に相当する。

参考文献

- Bronk Ramsey, C., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), p. 337-360.
- 中村俊夫, 2003, 放射性炭素年代測定法と暦年代較正. 環境考古学マニュアル, 同成社, p. 301-322.
- 中村俊夫・福本浩士・光谷拓実・丹生越子・小田寛貴・池田晃子・太田友子・藤根 久, 2004, 年輪年代と ¹⁴C 年代の比較. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告集 XV, p. 206-214.
- Reimer, P. J. et al., 2013, IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), p. 1869-1887.
- Sakamoto, M., Imamura, M., van der Plicht, J., Mitsutani, T., Sahara, M. :: Radiocarbon calibration for Japanese wood samples. *Radiocarbon*, 45(1), 81-89, 200p.
- Stuiver, M. and Polach, H. A., 1977, Discussion: Reporting of ¹⁴C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363.

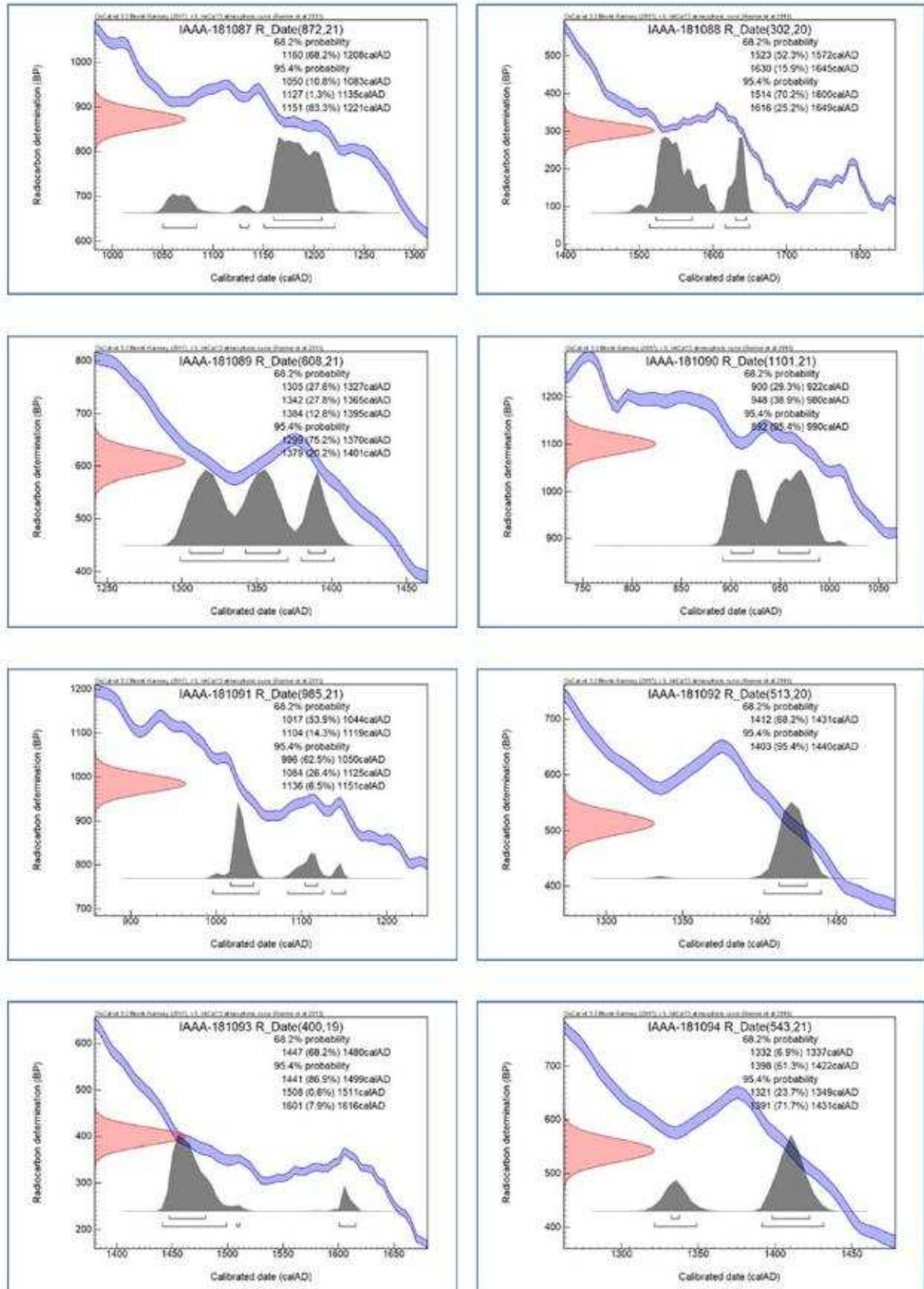


图1 曆年校正图 (1)

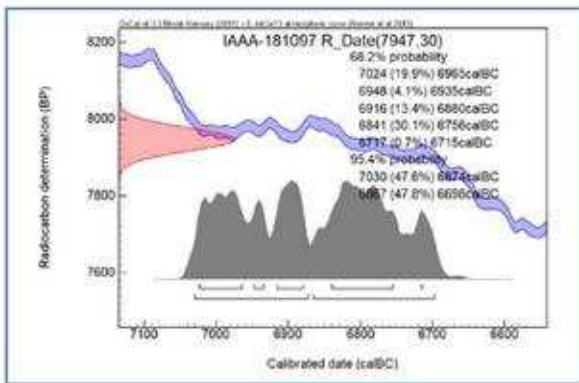
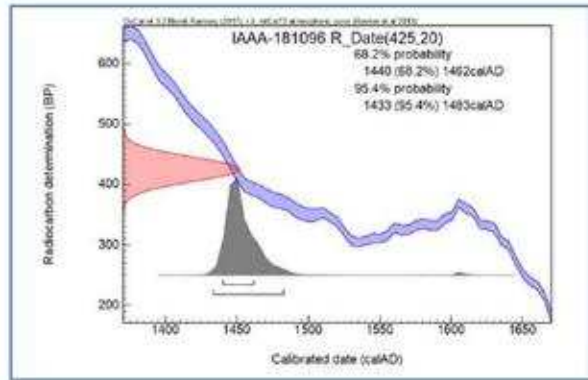
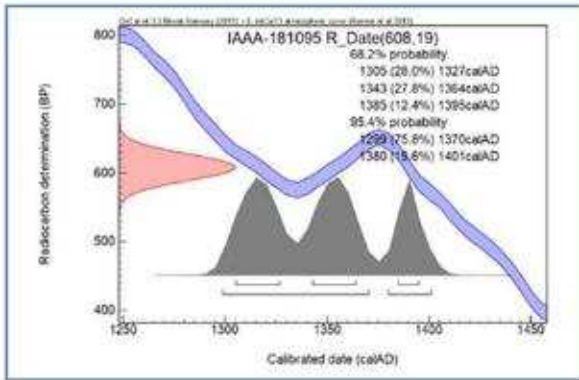


図1 暦年較正図 (2)

VI. 総括

1. 縄文時代～古墳時代

今回の調査区では縄文時代～古墳時代の遺物が少量ながら出土した。中世の包含層や表土での出土であり、この時期の明らかな遺構は検出されていない。集落跡等の生活の痕跡そのものではないが、竹松遺跡北半を中心とする既往調査で出土する遺物と共通しており、活動域の連続性が窺える。環状有孔石製品もまたそうした遺物の一つで、機能論を含め検討する際の資料となろう。319の垂飾とした石製品は形態的に類例に乏しく検討の余地を残している。

また、抉りを有する石錘として報告した結晶片岩製品（329）に関しては、他にも多くの結晶片岩の欠片が出土しており、二次加工剥片等を含む製品なのか判断しかねるものもあった。滑石との中間的な質のものや緑色を呈するものも多い。中世の石鍋片や二次加工品の可能性のある欠片も出土しているため、これら結晶片岩が縄文時代や中世より前の時代に帰属するかは不明だが、西彼杵半島でしか産出しない石材が持ち込まれていることは指摘できる。

平成27年のコスモス薬品宮小路店建設に伴う竹松遺跡北部の発掘調査では、縄文時代後晩期の多数の土器棺墓の周辺で、打製石斧の埋納遺構のほかに、未加工の板状結晶片岩が複数枚重ねられた埋納遺構が報告されている（安楽2016）。そして土器棺墓との分布状況から、これら埋納遺構が「埋葬に関わる儀礼的なもの」である可能性が示された。

今回調査では、中世の集石遺構SS01の底面で結晶片岩の二次加工品とみられる剥片（331）が出土している。SS01は底面で検出された炭化物の年代測定から15世紀代の年代値が得られており、遺構の帰属時代は中世である可能性が高い。二次加工剥片がこの集石遺構に伴い意図的に配された可能性もあるが、縄文時代のもので礫に混在することもあり得る。各時代における結晶片岩製二次加工剥片の類例検討を経なければ評価は難しいが、結晶片岩の出土量は注目される。

弥生時代～古墳時代では、B区北西隅の0587グリッド周辺で046の壺や042台付甕脚台、048の畿内系高坏が出土した。いずれも遺構からではなく4層上面での出土であり一括性は低い。また欠片のため全体的な形態や型式が不明ながら、台付甕の存続期・終焉期を考えさせられるものとなった。

2. 中世

多数のピットや柱穴を検出したが、建物跡の認定や時期の推定は容易ではない。実際、SP123・125や127のように近世の遺物が出土するものがあり、柱穴の並ぶ向きも中世のSB01やそれに近接・重複するSB02・03と近似する。ただ、中世以外の明らかな遺構はごく少なく、中世の出土遺物が大多数であり、大略的には中世の遺構群であると考えられる。個別遺構の推定年代や出土遺物の年代観、炭化材の年代測定結果をみると、11～13世紀代が散見されるものの、14世紀後半～15世紀代が中心となりそうである。

<個別遺構の推定年代> SB01：14世紀後半以降、SB02：時期不明、SB03：中世か、SP541：15世紀代（中世IV期以降）、SS01：15世紀中葉～15世紀末、SS02：時期不明、SS03：14世紀後半、SK01：12世紀後半～13世紀前半、SK07：時期不明

ところで、関連する問題として遺構の年代を推定する際の遺物出土状況がある。SB01を構成する

柱穴 SP01 で出土した青磁椀と播鉢では 200 年ほどの開きがある。また、SB01 構成柱穴として認定した SP90・93 でそれぞれ出土した炭化材の年代測定値は 400 年ほど開く。ほかにも、中世遺物に混じって黒曜石剥片の出土するピットが少なくない。こうした状況は、コンタミネーションの問題もあろうが、ピットや遺構内への遺物配置や廃棄等の有意な出土状況がない限り、出土した遺物の欠片をもって遺構の年代推定を行うこと、特に遺構を古く評価してしまうことの不確かさを物語っている。

とはいえ、掘立柱建物跡 3 棟を検出し、自然堤防上に展開していたであろう中世後半期の集落の一端を掴めたことは今回調査の成果であったと言える。他の成果として集石遺構及び礫を有する土坑がある。特に SS01 に関して、土坑の規模・形態や被熱礫・焼土・炭化物、礫集中の状況は、中世の集石墓や火葬施設を連想させるものであった。その他の集石遺構でも人骨や遺物が出土していないため、遺構の明確な年代や性格に言及しづらいが、古銭や焼土・炭化物等を要素として、集石墓や葬送関連の遺構である可能性を念頭に検討する必要があるだろう。ここ数年来、新幹線や都市計画道路建設、都市開発に伴う竹松遺跡及び周辺遺跡の発掘調査成果が蓄積されつつある。これらを含めた検討を今後の課題としたい。

引用参考文献

- 安樂哲史 2016『竹松遺跡』大村市教育委員会
- 蒲原宏行 2017「佐賀・唐津平野」『九州島における古式土師器』第 19 回九州前方後円墳研究会長崎大会発表要旨集・基本資料集
- 阪口和則 2013「第一章 地形・地質」『大村市史』大村市
- 佐藤浩司 2006「スタンプ文を有する瓦質土器の展開」『陶磁器の社会史—吉岡康暢先生古希記念論集—』
- 瀬戸市埋蔵文化財センター 1994『東海の中世墓』
- 立石堅志・鎌柄俊夫 1995「瓦質土器」『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
- 徳永貞紹 1990「肥前における中世後期の在り土器」『中近世土器の基礎研究VI』
- 中世墓資料集成研究会 2004『中世墓資料集成 九州・沖縄編 1・2』中世墓資料集成研究会
- 中島恒次郎 2009「九州の中世墓」『日本の中世墓』高志書院
- 古門雅高「長崎県本土部における弥生後期土器研究の現状と課題」『竹松遺跡III』長崎県教育委員会
- 宮崎貴夫 2015「長崎県本土地域の状況について」『有明海とその周辺をめぐる弥生時代の交流』長崎県考古学会・九州考古学会合同研究大会
- 森田稔 1995「中世須恵器」『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
- 森浩嗣 2016『西海まるごと地質図鑑』西海市教育委員会
- 盛峰雄 2000「陶器の編年 1. 碗・皿」『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会
- 山本信夫・山村信榮 1997「[10] 九州・南西諸島」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 71 集
- 山本信夫 2000『大宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—』大宰府市の文化財 第 49 集



写真1 B区北下層確認トレンチ土層断面状況（南東から）



写真2 B区南下層確認トレンチ土層断面状況（南から）



写真3 A・B区遺構検出状況（右が北）



写真4 C・D区遺構検出状況（右が北）



写真5 A区遺構検出状況（北西から）



写真6 B・C区境遺構検出状況（北西から）



写真7 A区遺構完掘状況(上が北)



写真8 B区遺構完掘状況(右が北)



写真9 C区遺構完掘状況(右が北)



写真 10 SP01(SB01) 半截状況 (西から)



写真 11 SP01(SB01) 遺物出土状況 (西から)



写真 12 SP82(SB01) 根巻石検出状況 (東から)



写真 13 SP438(SB01) 半截状況 (東から)



写真 14 SP93(SB01) 半截状況 (西から)



写真 15 SP93(SB01) 完掘状況 (南から)



写真 16 SP75(SB02) 根巻石検出状況 (西から)



写真 17 SP397(SB03) 根巻石検出状況 (南から)



写真 18 SP384 (SB03) 根巻石検出状況 (南から)



写真 19 SP76 (SB03) 半裁状況 (西から)



写真 20 SP411 半裁状況 (東から)



写真 21 SP506 半裁状況 (北西から)



写真 22 SP490 半裁状況 (南から)



写真 23 SP687 遺物出土状況 (西から)



写真 24 SP656 遺物出土状況 (東から)



写真 25 SP610 遺物出土状況 (南から)



写真 26 SP451 遺物出土状況 (南から)



写真 27 SP87 半裁状況 (西から)



写真 28 SP125 根巻石検出状況 (西から)



写真 29 SS01 半裁状況 (南から)



写真 30 SS01 焼土・炭化物検出状況 (北から)



写真 31 SS01 焼土・炭化物検出状況 (東から)



写真 32 SS02 半裁状況 (西から)



写真 33 SS02 完掘状況 (西から)



写真 34 SS03 検出状況 (南西から)



写真 35 SS03 完掘及び古銭出土状況 (北東から)



写真 36 SK01 検出及び古銭出土状況 (南から)



写真 37 SK01 半截状況 (南から)



写真 38 SK07 底石出土状況 (南から)



写真 39 SD01 完掘状況 (北東から)



写真 40 SX01 土層断面状況 (南から)



写真 41 SX01 土層断面状況 (西から)

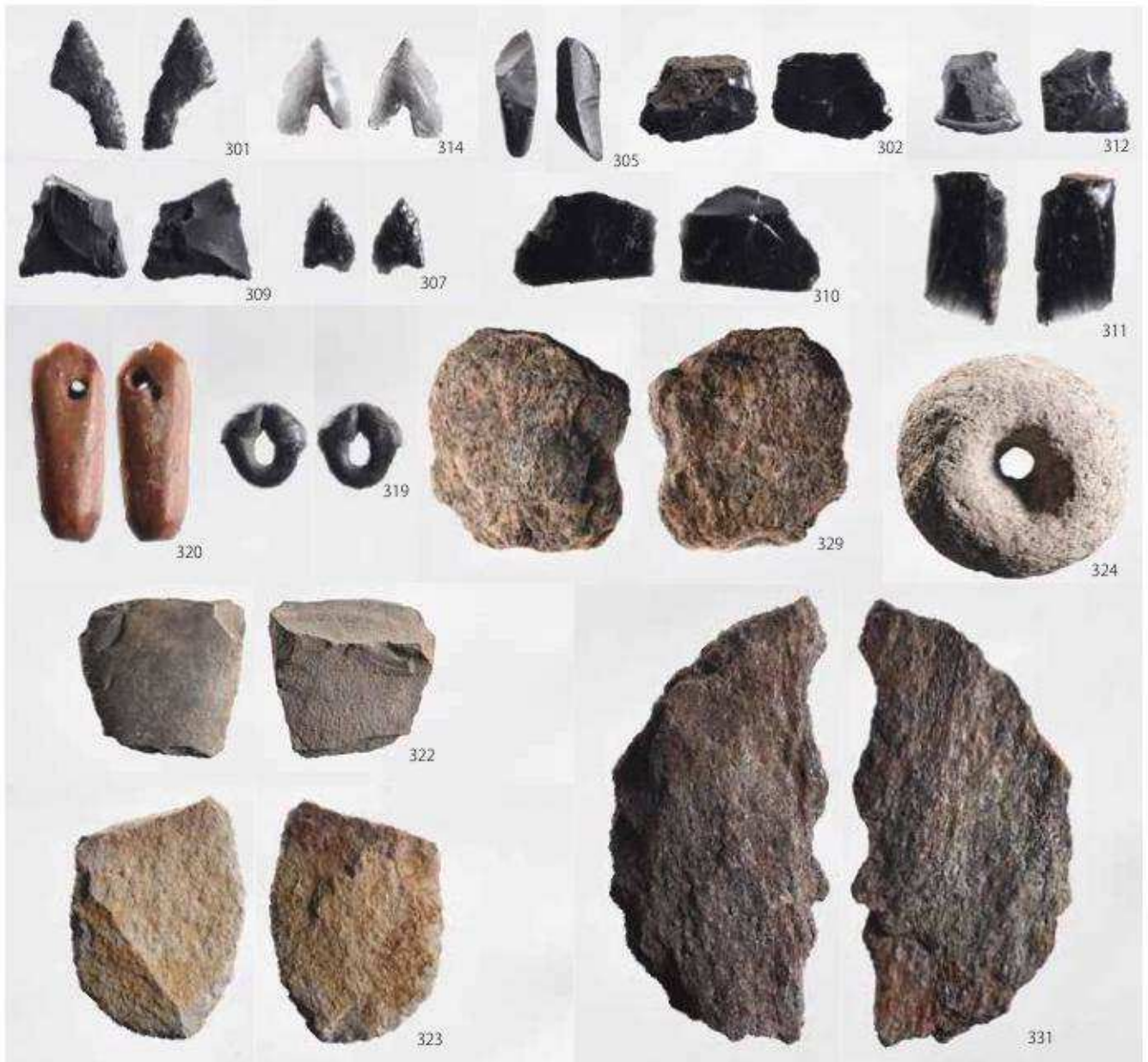


写真 42 出土石器（縄文時代～中世）



写真 43 出土土器（縄文時代～古墳時代）



写真 44 出土貿易陶磁器・土師質土器 (中世)



写真 45 出土石鍋・瓦質土器・陶磁器（中世以降）



写真 46 出土金属製品（中世以降）

第3部. 平成29年度調査区

I. 調査の概要

1. 調査期間と面積

期間：平成29年7月3日（月）～平成29年10月24日（火）

面積：1,386 m²

2. 調査体制

所長	岩永正弘
総務課長	田川正明
調査課長	川道 寛
調査課 主任文化財保護主事	山梨千晶

<調査支援>

大成エンジニアリング株式会社

現場代理人	浅見克己
調査員	青池紀子
調査員	平田貴正
調査員	大崎美鈴
調査員	濱崎 健
株式会社創建	
調査員	楠 秀行

3. 調査の流れ

(1) 協議

平成27年度に実施された試掘調査の結果を受け本調査が予算化された。本調査実施の準備に際し、平成29年2月6日に県央振興局都市計画課、長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所、長崎県埋蔵文化財センターの3者で協議を行い、重機の進入路、ヤード用地、排土置き場などについて検討した。

(2) 発掘調査の流れ

調査地は間に生活道路と調査対象範囲から外れた区画を挟んで2箇所に分かれており、北側をA区、南側をB区とした。今回の調査では調査対象範囲外に排土置場を確保できなかったため、それぞれの区画から出た排土をもう一方の区画に置くこととした。調査はA区から開始し、A区終了後にB区に設置していた排土を移動してA区を埋め戻し、併せてB区の調査を開始した。両調査区ともバックホウにより表土を掘削した後、調査区壁際にトレンチを掘削して堆積の状況を把握しながら、人力による遺構検出、遺構調査、包含層掘削、記録作業を行った。両調査区とも遺構面下層で礫により埋没した自然流路を検出しており、調査期間も含めて人力での掘削が困難であったため、遺構調査、測量終

了後に再度バックホウにより自然流路を掘削した。バックホウと併せて人力での精査も行ったが、自然流路から遺物は出土しなかった。

4. 層序と地形

(1) 基本層序

①A区基本層序

1層 造成土・現代の攪乱層

2-1層 黒褐色～黒色(10YR3/2～2/1)粘質土 粘性やや弱い、しまりやや弱い。5～40cmの礫を多く、南側は密に含む。

2-2層 黒色(10YR2/1)粘質土 粘性やや弱い、しまりやや強い。5cm以下の礫をまばらに含む。

3層 黒色(10 YR2/1)粘質土 粘性弱い、しまりやや弱い。1～15cmの礫をまれに含む。

4層 黒褐色(10YR2/2)粘質土 粘性やや弱い、しまりやや強い。褐色土ブロックをまばらに、2cmの礫をまれに含む。

5層 黒色(10YR2/1)粘質土 粘性やや強い、しまりやや強い。褐色土ブロック・拳大の礫をまれに含む

6層 黒色(10YR2/1)粘質土 粘性弱い、しまりやや強い。5～20cmの礫を多く含む。

7層 黒色(10YR2/1)粘質土 粘性やや強い、しまりやや弱い。褐色土ブロック、1～3cmの礫をまばらに含む。

8層 黒色～暗褐色(10YR2/1～3/3)粘質土 粘性やや弱い、しまりやや強い。1～20cmの礫を多く含む。南端付近では粗砂～細砂が混じる。

9層 褐色(10YR4/4)シルト質土 粘性やや弱い、しまりやや弱い。2cm以下の礫を非常に多く、2～10cmの礫を多く含む。

10層 黒褐色(10 YR2/3)砂混じり粘質土 粘性やや強い、しまり強い0.5～5cmの礫を多く、10～20cmの礫をまばらに含む。

11層 暗褐色(10YR3/3)粗砂混じり粘質土 粘性弱い、しまり強い。2～30cmの礫密に含む。

12層 褐色(10YR4/4)粗～微砂 しまり強い。拳～人頭大を中心に最大40cmの礫を密に含む。

2-1層・2-2層および9層・10層は旧河道の埋土の可能性がある。

②B区基本層序

1層 表土

2層 黒褐色～黒色(10YR2/2～2/1)粘質土 粘性弱い、しまり弱い。5～10cmの礫を含む。

3層 暗褐色(10YR3/4)粘質土と黒褐色(10YR2/2)粘質土の混土 粘性弱い、しまりやや強い。

4層 暗褐色(10YR3/4)粘質土 粘性弱い、しまりやや強い。5～20cmの礫を多く含む。SK04あるいはSD04の埋土の可能性がある。

5層 暗褐色～褐色(10YR3/4～4/4)粘質土 粘性弱い、しまり強い。白色砂粒、1～2cmの礫をまれに含む。

5'層 暗褐色～褐色(10YR3/4～4/4)粘質土 粘性弱い、しまり強い。白色砂粒、3～10cmの礫をまばらに含む。

- 6層 暗褐色(10YR3/4)粘質土 粘性弱い、しまり非常に強い。2～10cmの礫をまれに含む。
- 7層 暗褐色(10YR3/3)粘質土 粘性弱い、しまり非常に強い。白色砂粒を多く、2～10cmの礫をまれに含む。
- 7'層 黒褐色(10YR2/3)粘質土 粘性弱い、しまりやや強い。白色砂粒をまばらに、2～15cmの礫を多く含む。
- 8層 灰白色(10YR8/1)粗砂 1～30cmの礫を含む。8'層は細砂の割合が多い。

A区とB区の土層は攪乱などの影響により対応関係が明確ではないが、包含層であるA区4～7層とB区2層が対応するものと思われる。また、包含層と基盤層である砂礫層間のB区5～7層はA区では見られない。これには旧地形が影響しているものと考えられるが、A区の9～11層が対応する可能性がある。

なおB区の7層は、長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所により行われた九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)車両基地調査の南部共通土層第V層(「古土層」)(古門編2017)に類似している。この層は自然科学分析により、AT火山灰由来の火山ガラスを含むことが分かっている(第V章)。

(2) 旧地形の推定

調査区は、A区・B区ともに、遺構面直上あるいは遺構面を掘り込むように攪乱が検出されており、住宅造成により大きく改変を受けているものと考えられる。両調査区とも基本的に土層は水平堆積しており、礫を多く含む。また、A区・B区ともに遺構面下層で時期不明の旧河道が検出されている。A区の北側には現在細い水路があり、旧河道と方向が重なっている。水路は直線ではないことから、住宅地の造成時に形成されたものではなく、旧河道埋没後も浅い谷状になっていた箇所が利用されているものと考えられ、A区基本土層の2-1層、2-2層がこれにあたるものと思われる。

5. 調査の概要

検出した遺構総数は約270基で、内訳は炉跡1基、掘立柱建物跡1基、溝4条、ピット列1列、土坑5基、不明遺構1基のほか、多数のピットとなっている。

両調査区とも調査以前は一部を除いて宅地になっており、住宅建設時のものと思われる攪乱が著しい。A区は造成土下の5層から近世の遺物が出土している。中世以前の遺物も見られるものの数は少なく、明確な遺構も確認されていないため、流れ込みによるものと考えられる。遺構は8層下面で確認したが、包含層も遺構埋土も黒色土のため区分が難しく、本来は検出面よりも上層から掘り込まれた遺構が多いと思われる。

B区では2層から近世を中心とした遺物が出土した。A区と同じく中世以前の遺物も含まれるが、少量であり、近世以前の明確な遺構は確認されていない。遺構は2層下面で確認しているが、黒色土のため2層上面で検出できず2層下面での確認になった遺構も多いと思われる。離れた位置にある遺構及び包含層間で出土した遺物が接合することから攪乱は調査区全体に及び、さらに遺構検出時に埋土の見分けがつかず見逃している攪乱があることが考えられる。そのため検出遺構の時期は廃棄土坑を除き確実でない。

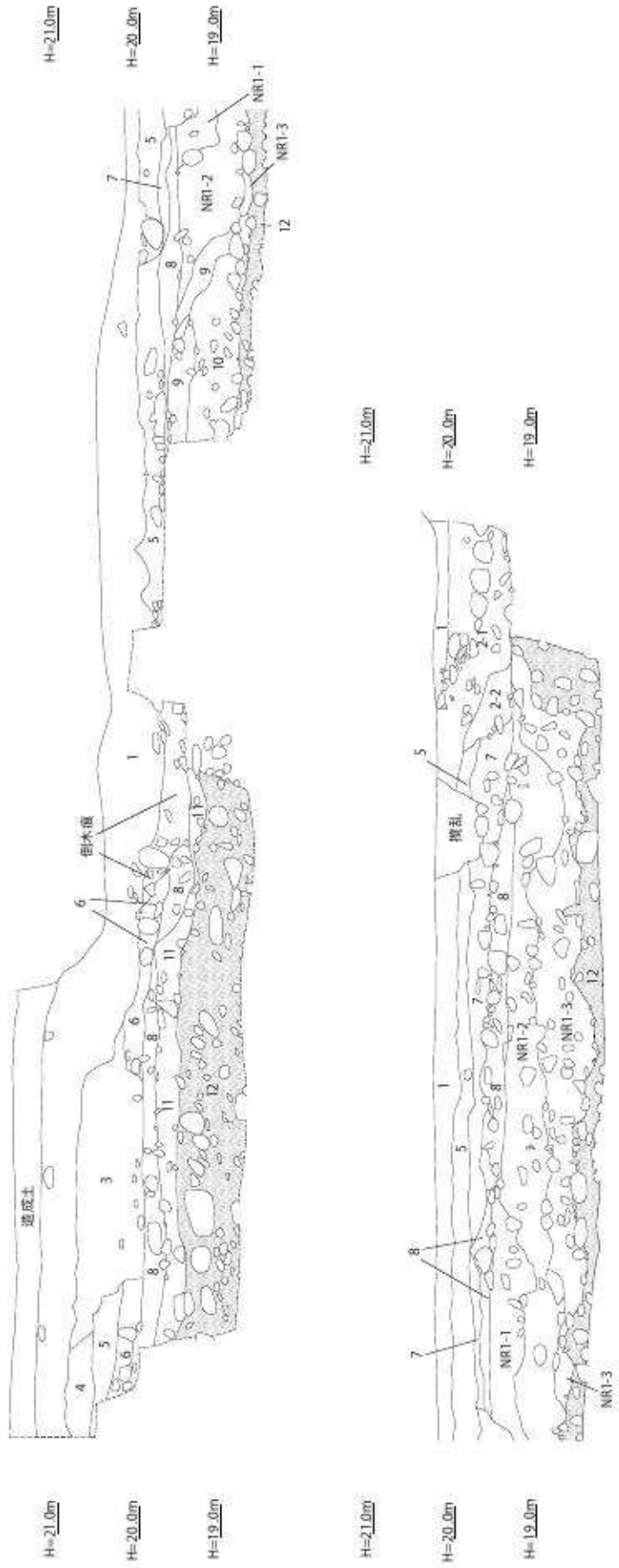


图 19 A 区土层断面图 (S=1/80)

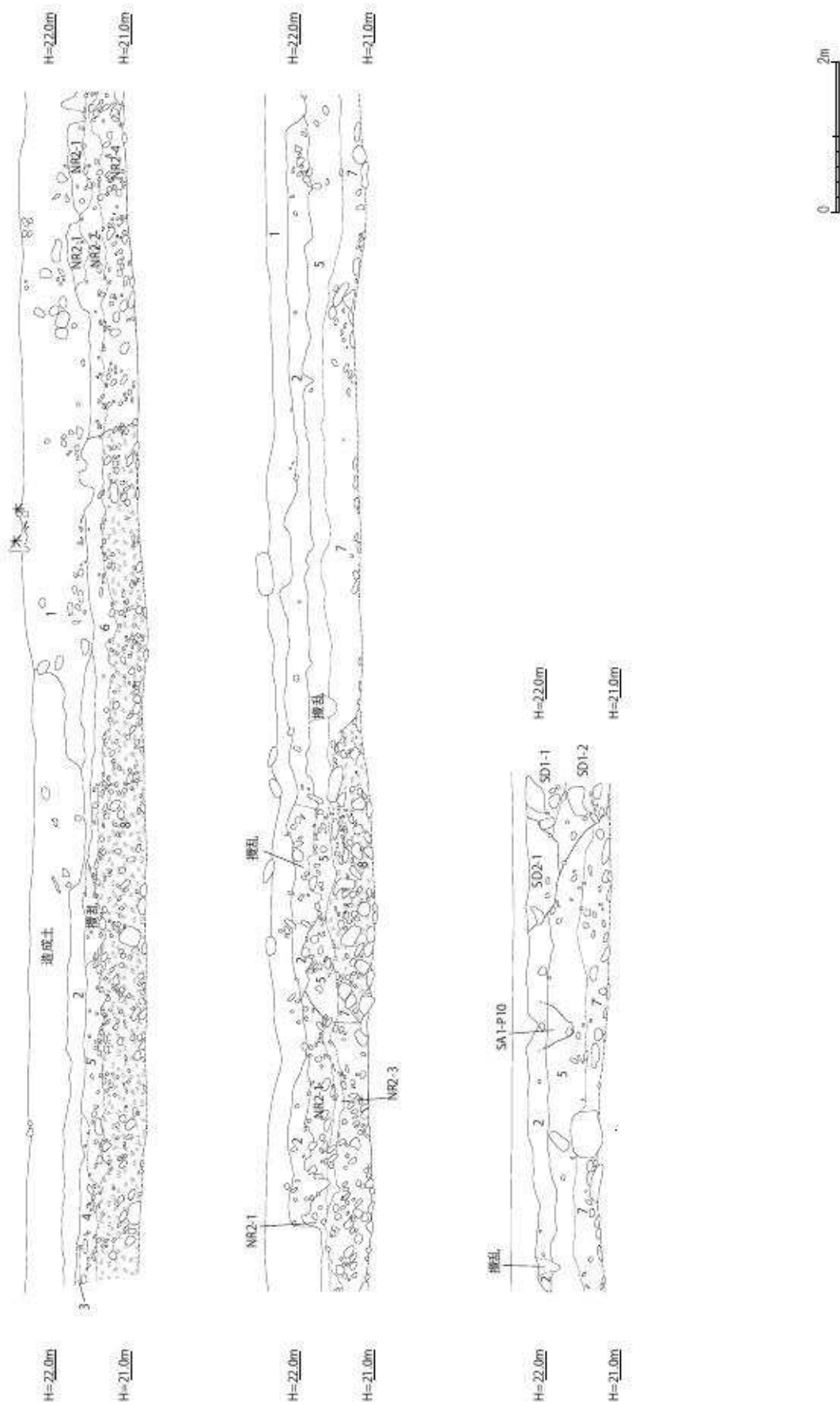


図 20 B区土層断面図 (S=1/80)

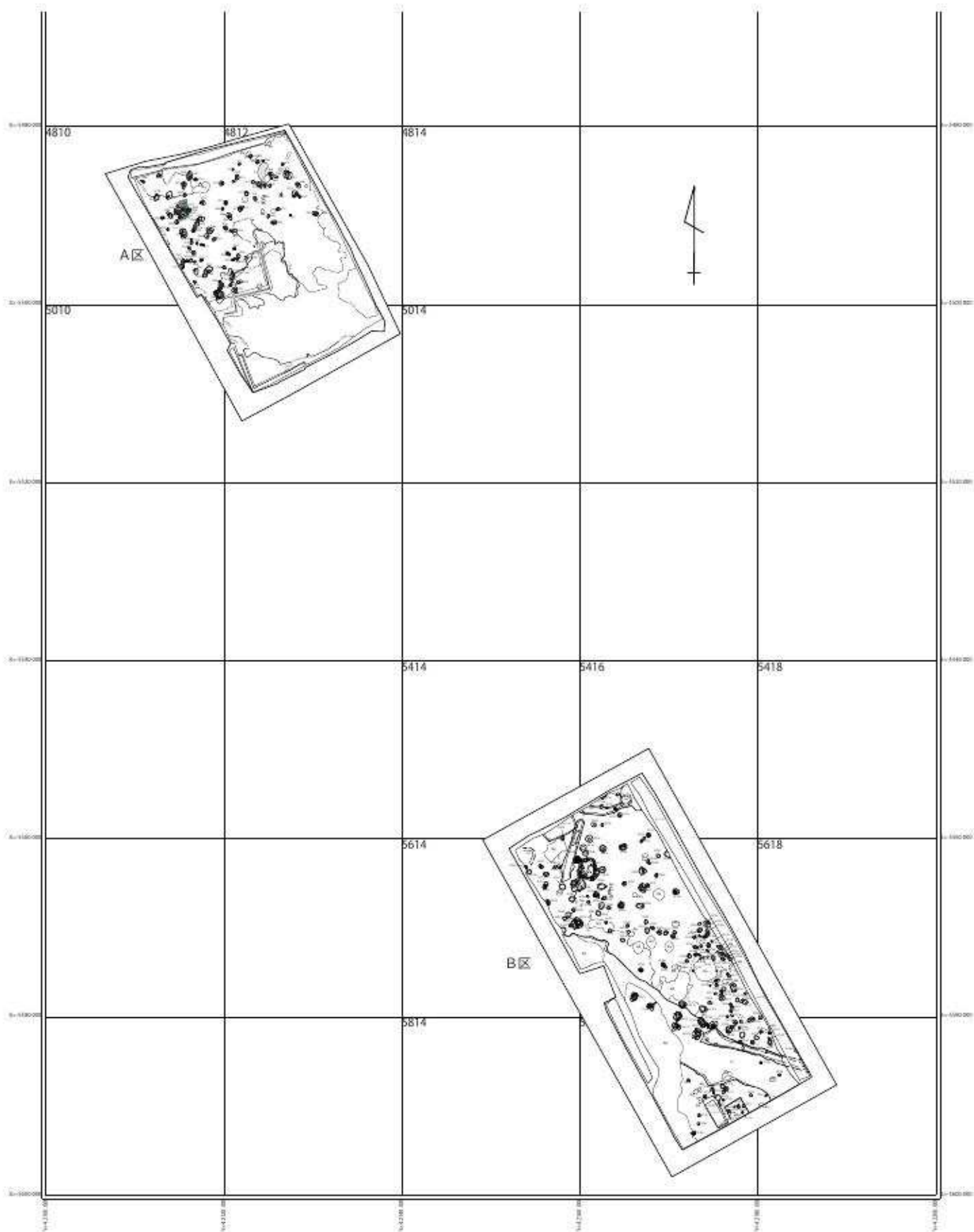


图 21 調査区全体図 (S=1/600)

6. 整理作業・報告書作成

整理作業は平成30年6月から8月及び平成30年11月から平成31年3月にかけて報告書作成に向けた整理作業を実施した。遺物の整理は、水洗、接合、ID番号付与、実測、デジタルトレースの流れで作業を行った。報告書作成後の遺物は長崎県埋蔵文化財センターで保管している。

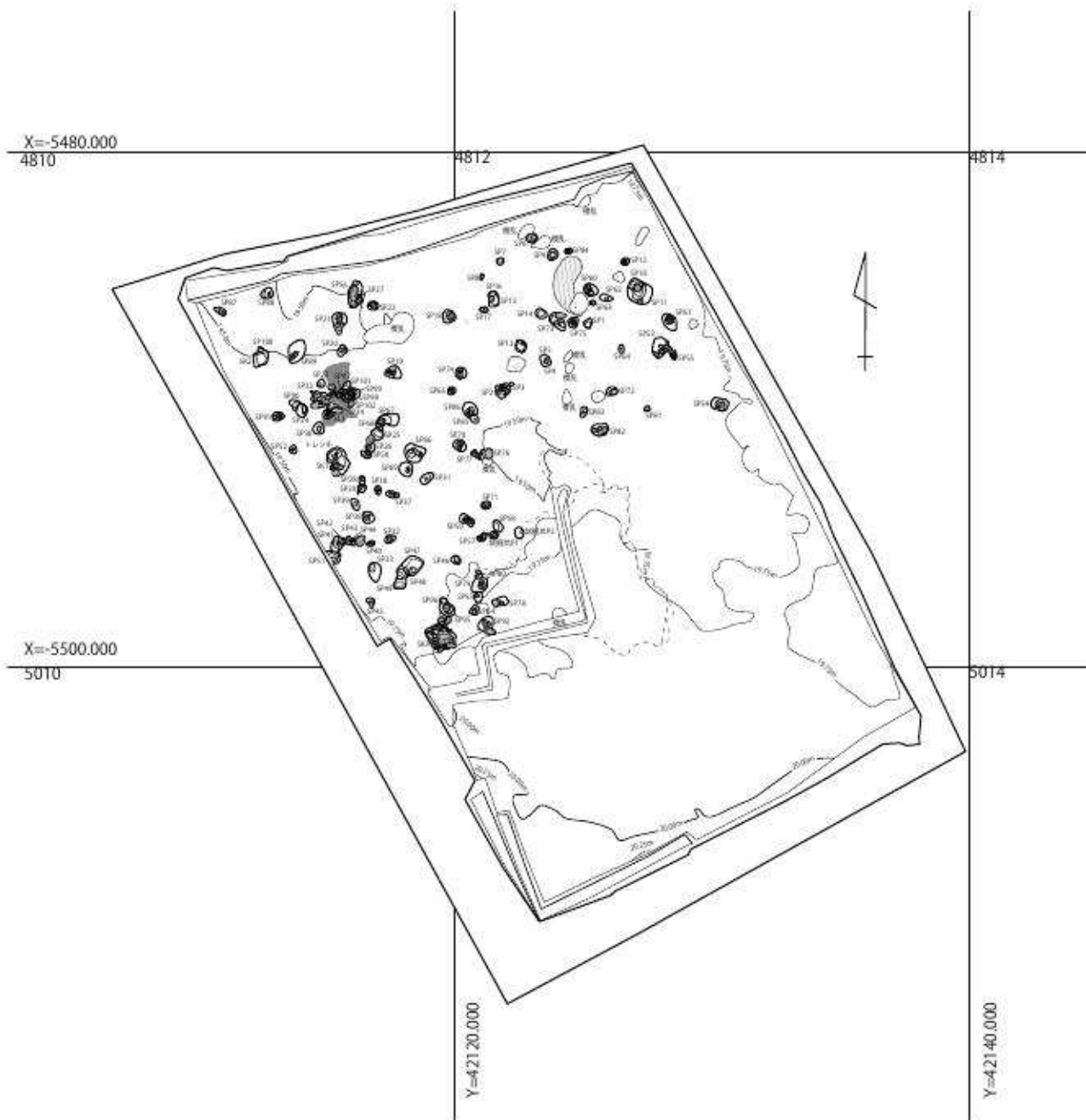


図22 A区遺構分布図 (S=1/250)

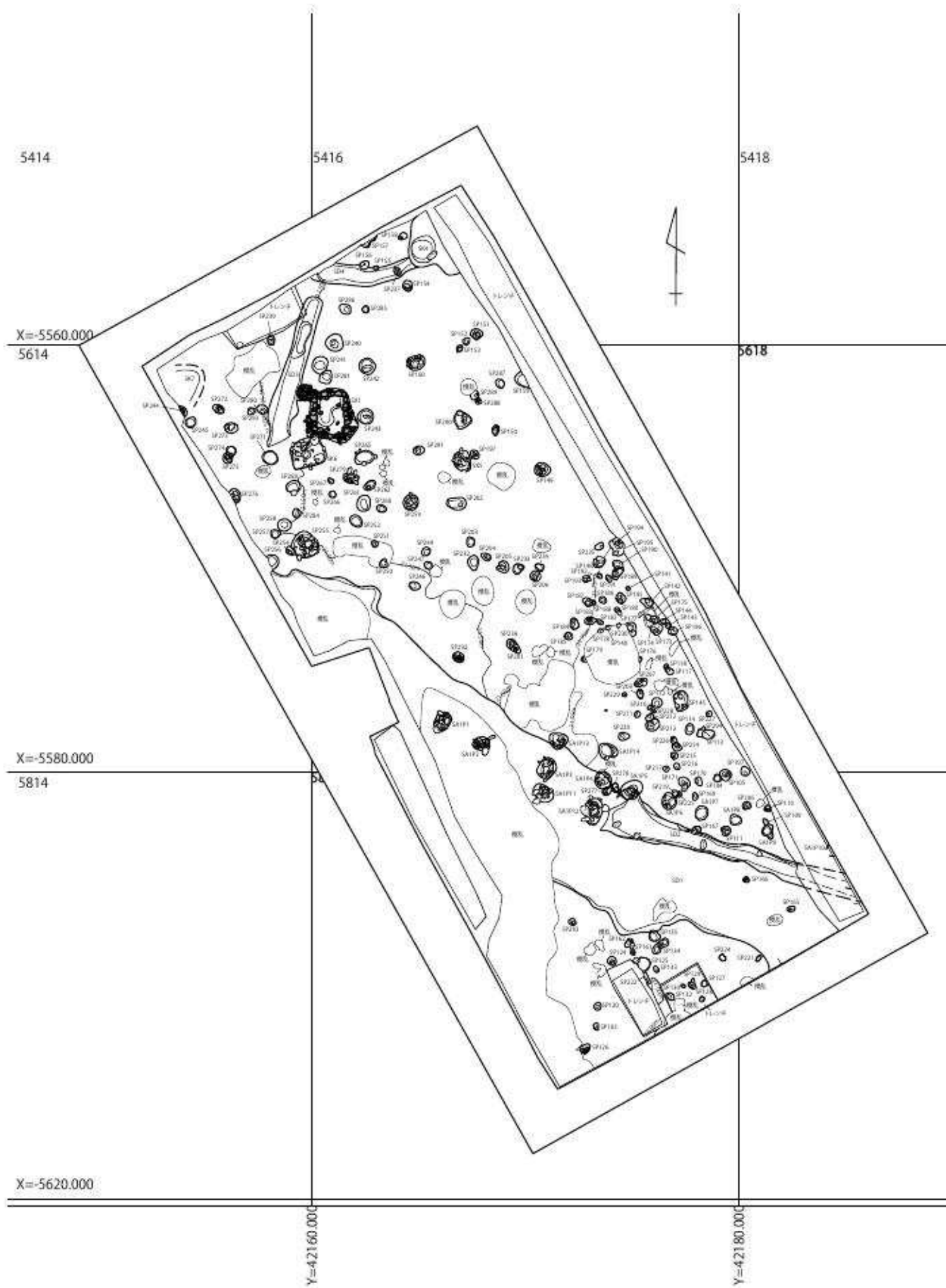


图 23 B区遗构分布图 (S=1/250)

II. 縄文時代～中世の遺物

1. 遺物

(1) 縄文時代の遺物

①土器

041はSD02から出土した阿高系縄文土器の底部である。成形の際の台として鯨骨を使っており、胎土に滑石を混入する。縄文時代中期～後期の所産と考えられる。008は条痕文系の深鉢体部片。017は浅鉢の口縁部で器面を磨研する。

②石器

411は黒曜石製の細身の長脚鎌で深い抉りが入る。全面を押圧剥離により整形し、側面視はわずかに湾曲する。401は安山岩製の打製石斧である。SK04から出土した。

(2) 古墳時代から中世の遺物

①土器

018は埴の口縁部と考えられ、古墳時代前期の所産である。

001は須恵器の坏蓋で端部にかえりを有し、7世紀の所産と考えられる。025も須恵器の坏蓋でかえりが消失し、器高も低いことから8世紀頃のものと思われる。007は高台付きの坏身で、高台は低くわずかに外側に張り出す。025と同じく8世紀頃の所産と考えられる。020は須恵器で、外面調整は格子タタキ、内面は当て具痕をナデ消している。焼成は不良で土師器のような色調を呈する。甕もしくは瓶と思われ、底部付近の破片である。021は須恵器の甕胴部片で、020と同じく焼成不良で土師器のような明赤褐色を呈する。外面は格子タタキ、内面には当て具痕が残る。

019は小型の土師皿で中世のものと思われる。底部は糸切離しの跡が残る。010は瓦器碗の口縁部で軟質である。古代から中世のものと考えられる。012は瓦質土器の口縁部片でハケ調整後に一部をナデ消している。中世の所産と考えられる。072は土師質の挿鉢で、中世の所産と考えられる。

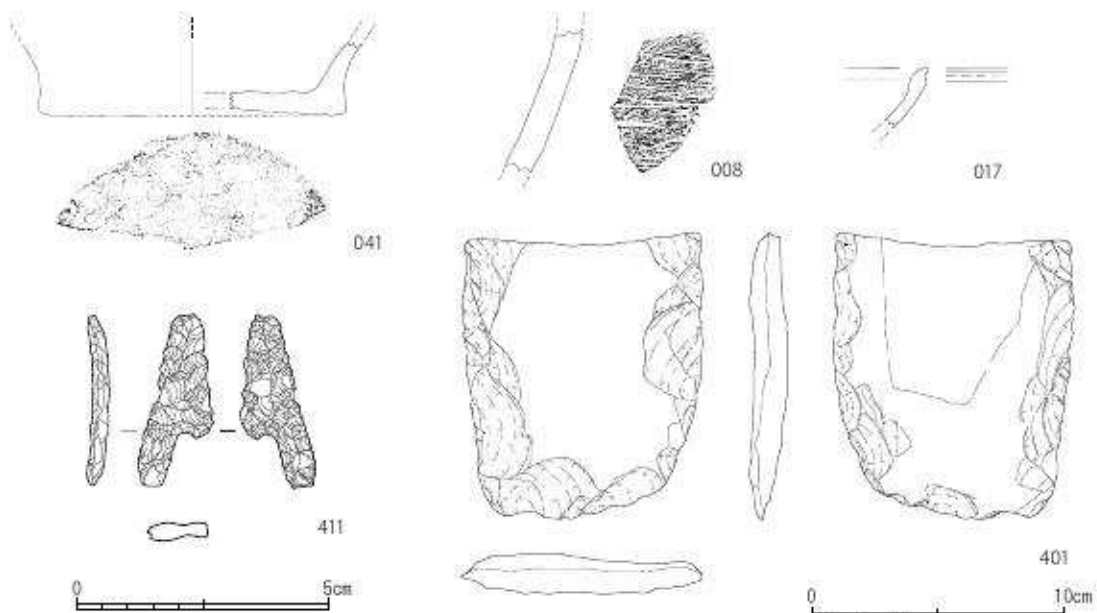


図24 遺物実測図〔縄文土器・石器〕(S=1/3・411のみS=2/3)

②陶磁器

002、003 は包含層出土、014 は表土出土の白磁碗口縁部である。いずれも肉厚の玉縁になり、白磁碗Ⅳ類かと思われる。013 は壁面清掃中に出土した白磁口縁部で、端部が外反し、内面には短い櫛目文が見られる。005、004、006 は包含層出土の白磁碗底部。005 は高台まで施釉し、見込に櫛目文が施される。004、006 は幅広の高台で削り出しが浅く、碗Ⅳ類と考えられる。004 は高台付近まで施釉している。006 は残存している範囲では外面が露胎し、見込に沈線を施す。069 はB区トレンチ出土の白磁底部片で、SD01 出土の可能性がある。見込の釉を環状に剥ぎ取っており、碗Ⅷ類である。体部外面は露胎する。009 は白磁体部片で、細い沈線が見られることから底部付近である。内面には櫛目文篋描き文を施す。

011 は龍泉窯系青磁口縁部片で端部が僅かに外反する。胎土が灰色を呈し、内面に篋描文があるが小片のため詳細は不明である。061 は青磁碗口縁部片。細い線で内面を分割し花文を描き、外面は無文である。龍泉窯系青磁碗Ⅰ類と思われる。

071 は貿易陶器甕と思われ、外面に暗オリーブ色の釉が施される。内面は口縁～頸部に施釉されている可能性がある。外面に格子タタキ、内面に当て具痕が見られる。

③石鍋

410 は縦耳を有する石鍋で、表面に煤が付着する。被熱のためか一部は赤色を呈する。408 は鏝付きの石鍋で鏝の断面形は三角形を呈する。口縁端部内側を面取りする。

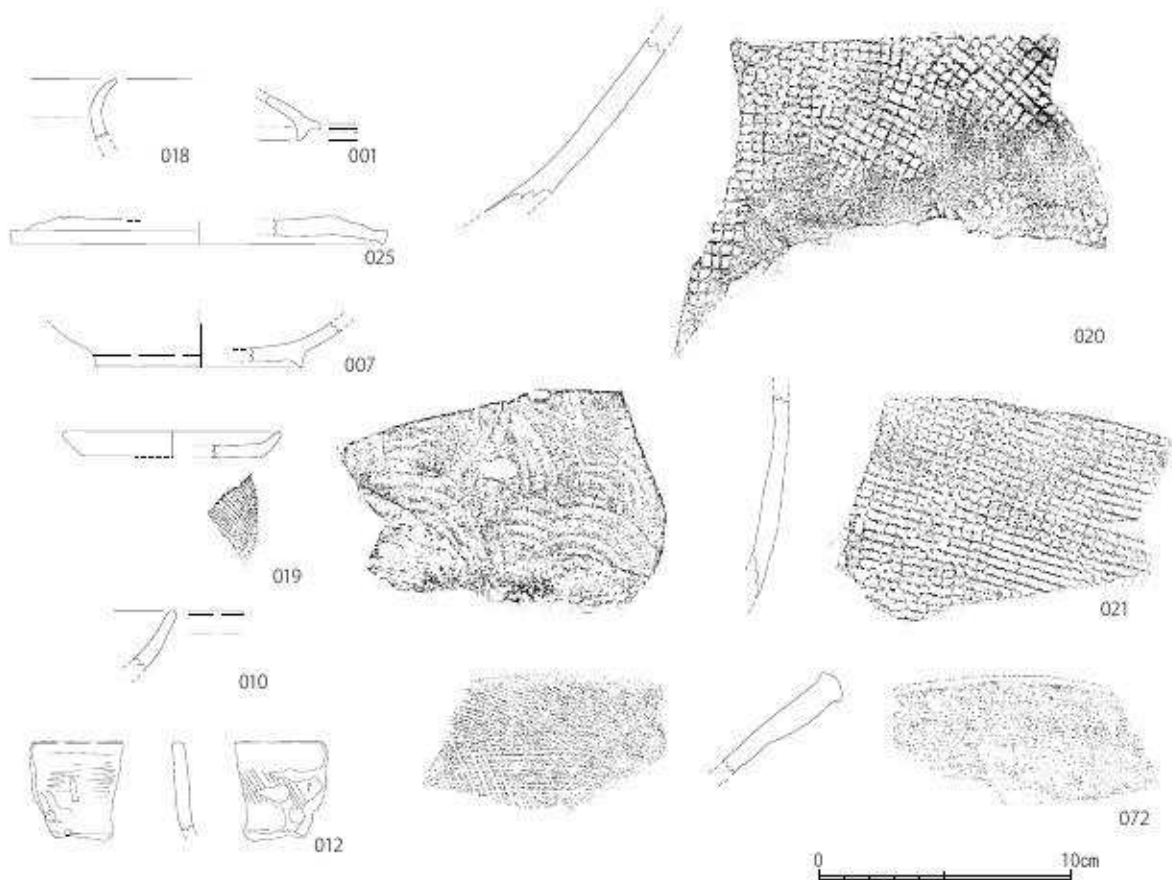


図25 遺物実測図〔古墳時代～中世の遺物（須恵器・土師器・瓦質土器）〕（S=1/3）

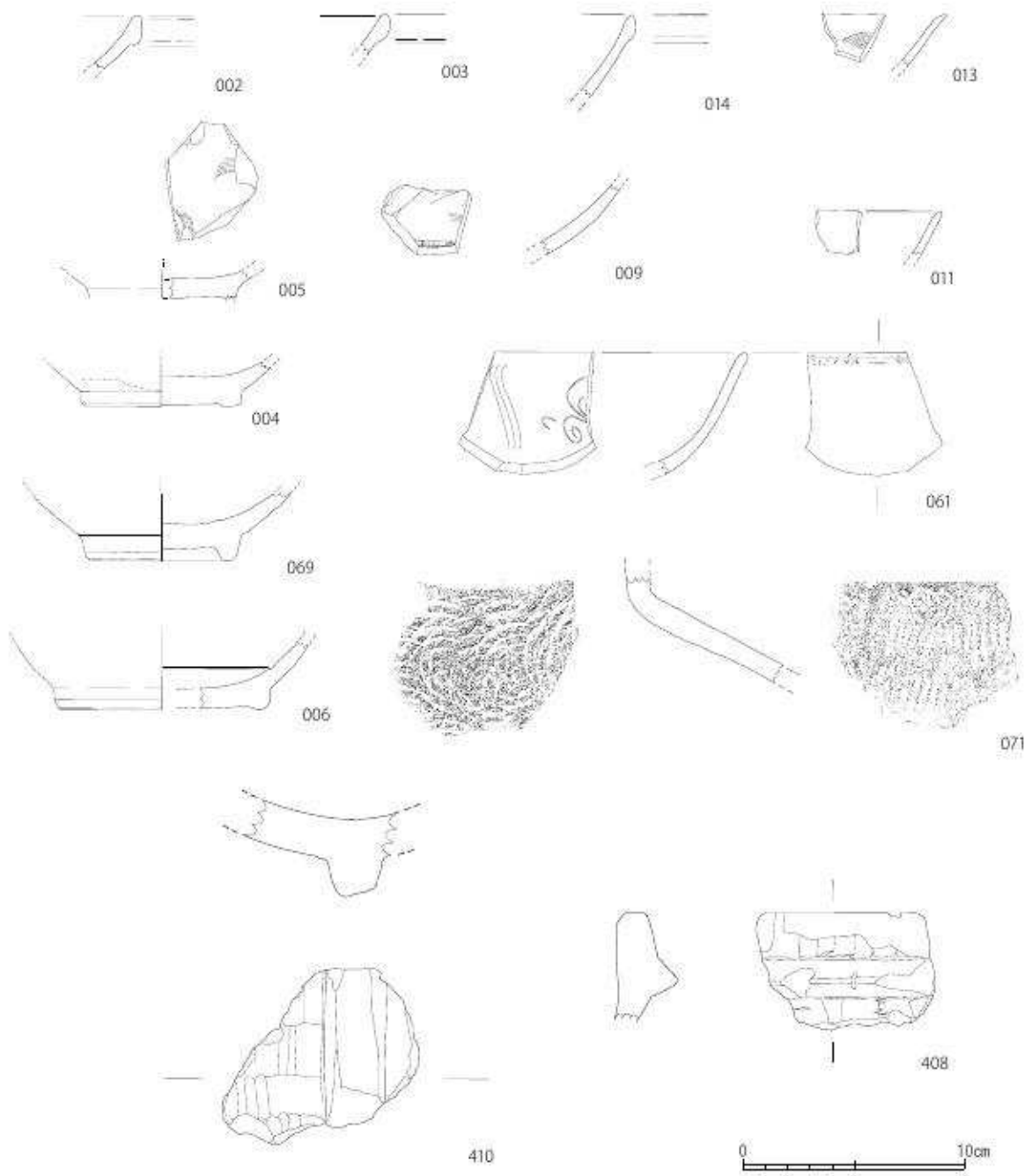


図 26 遺物実測図 [古墳時代～中世の遺物 (陶磁器・石鍋)] (S=1/3)

III. 近世～近代の遺構と遺物

1. 遺構

(1) 炉跡

① SL01

A区北西部に位置する。平面形は円形で、直径44cm、深さ10cmを測る。検出面は強く被熱しており、還元反応により一部白色を呈する。焼土下では武雄系の甕の底部片が出土しており、断面の観察から掘り込みの下部を黒色土で埋め戻し、甕の破片を敷いた上にさらに土を充填して火処にしたものと考えられる。焼土周辺に並ぶように円礫が検出されたが礫は被熱しておらず、周囲に構造物があった可能性が考えられるが、調査ではその痕跡は確認できなかった。SL01の北側約2m×1mの範囲がわずかに硬化しており、作業面となる可能性がある。鍛冶炉の可能性を考えたが周辺から冶金関連遺物は出土しておらず、性格は不明である。

(2) 土坑

① SK04

B区北東部に位置する。東側の一部は堆積確認のためのトレンチにより掘削してしまったため全体の形状は不明だが、二段掘りで遺構西側が深くなる形状と考えられる。残存している範囲では径約

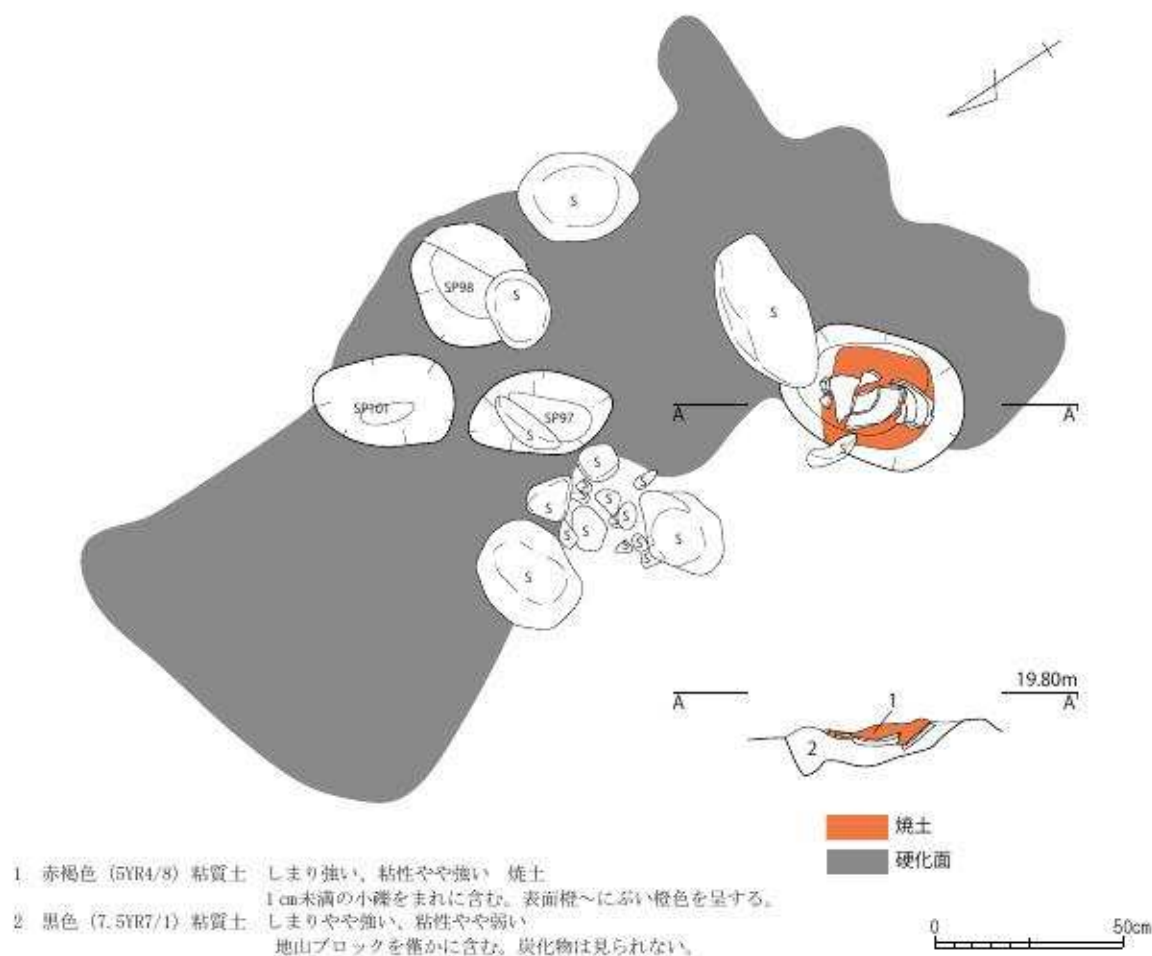


図 27 SL01 実測図 (S=1/20)

2m、西側で深さ約50cmを測る。砂礫とともに多量の近世陶磁器、瓦などが出土しており、廃棄土坑と考えられる。出土遺物から近世の遺構と考えられるが、近代まで下る可能性もある。近世陶磁器に混じって打製石斧や石皿が出土しており、周辺に縄文時代の遺構あるいは包含層があった可能性がある。

② SK07

B区北西角に位置する。平面では検出できず、下層確認の掘削中に調査区西壁面で確認した。断面で計測できる範囲では幅約2m、深さ約80cmを測る。埋土には礫と近世陶磁器が多量に含まれており、SK4と同じく近世～近代に形成された廃棄土坑と考えられる。

(3) 不明遺構

① SX01

B区北部で確認した石組みを伴う方形の遺構で、上部は礫と粗砂主体の砂質土、下部は粘質土が堆積している。近世陶磁器が出土しているが、掘削中に1層からガラス片も出土しており、埋没は近代以降と考えられる。

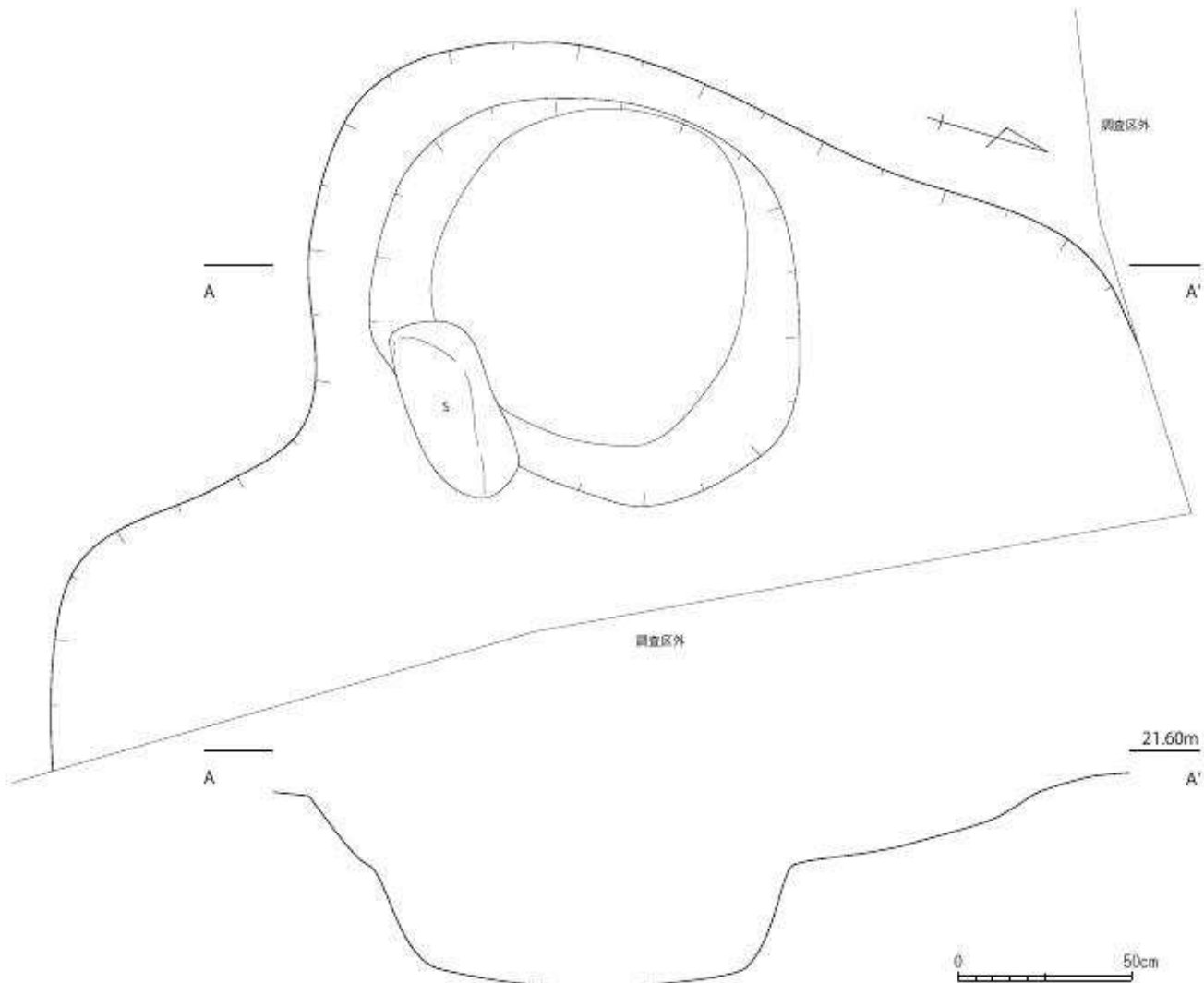


図 28 SK04 実測図 (S=1/20)

2. 遺物

(1) 近世陶磁器

087はSK04から出土した染付の筒丸碗で体部のやや下半に丸文を持つ。波佐見焼V-4期にあたり、19世紀前半から中頃の所産である。090はSK04で出土した染付丸型碗で体部に字が書かれている。「町」の他、欠損のため一部のみだが「古」「笹」と思われる字など4字が残る。長崎市万才町遺跡で「大坂新町古笹屋」と書かれた小型丸型碗があり、やや小さいが同様のものかと思われる。035は造成土下出土の染付丸型碗で仙芝文を描く。052は陶胎染付の半球形碗で、呉須により連続唐草文を描く。SK04、SD01、SD02などで出土した破片が接合できた。119はSX01出土の丸型碗で体部に草原文を描き、口縁部内側に格子文が入る。波佐見焼V-4期の所産と考えられる。030はSX01で出土した草花文の端反碗。波佐見焼V-4期と考えられる。

056はSK04で出土した陶器の小皿で見込蛇の目釉剥ぎをし、高台内に糸切りの跡が見られる。114はSX01から出土した見込蛇の目釉剥ぎの草花文小皿で外面には施文しない。028は見込蛇の目釉剥ぎで小皿と思われる。SK04から出土した。033・037は皿の底部で033はSX01、037はSK04から出土した。型打成型で口縁が波状になるものと思われる。見込には二重圏線内に山水文を描き、欠損しているが口縁部にも文様を施す。029はSX01出土の染付日本地図文皿で、口縁が波状になる角皿と思われる。佐賀県多々良の元窯に類例があり、19世紀の所産と考えられる。058はSK04出土の皿で見込に草花文、裏文様は唐草文を描く。高台内にハリササエの跡が残る。118はSK04出土の染付皿で包含層出土の破片と接合する。口縁が波状になり、欠損の為詳細不明だが見込には海浜風景文が描かれている。高台内にハリササエの跡が残る。染付の碗・皿類は詳細な時期の不明なものもあるが、いずれも18世紀から19世紀のものと考えられる。

057はSK04出土の染付蓋で外面に花文を描く。見込にも圏線内に花が描かれていると思われ、口縁部内側に雷文を入れる。線描きを多用しており、19世紀の所産と考えられる。059はSK04出土の蓋で見込に崩れた渦福と思われる文様が入る。

038はSX01、SK04で出土した陶器鉢で、白化粧の刷毛目装飾を施す。見込に砂目の跡が残り、IV期で18世紀頃の所産と考えられる。122はSK04で出土した播鉢。口縁部を肥厚させ外反させており、見込に砂目が残り、18世紀後半の所産と考えられる。

040、102は唐津焼の瓶で同一個体と考えられる。外面は暗褐色の釉を全体にかけ白土を流しかける。器形は肩が張らず18世紀後半～19世紀の所産と考えられる。同一個体の可能性がある。101は波佐見焼の徳利で笹が描かれる。031も同じく徳利で胴部に笹の葉と思われる文様の一部がみられ、101と同じく笹文徳利と思われる。

034は武雄系の鉄絵緑彩甕。肩から胴部にかけて径はほとんど変わらず、17世紀後半から18世紀前半の所産と考えられる。SK04と造成土下から出土した。124は鉄釉をかけた武雄系の甕底部で、SL01焼土下で出土した。外面に格子目のタタキが見られ、底面は歪で側縁部が僅かに上がっている。17世紀の所産と考えられるが、底部のみのため詳細は不明である。

(2) その他

065はSK04出土の瓦質土器の口縁部で、火鉢と思われる。054・055はSK04から出土した瓦で、054は棧瓦、055は軒平瓦だが、破損しているため055も棧瓦の可能性もある。



図29 遺物実測図 [近世～近代の遺物] (S=1/3・29、58、118はS=1/4)

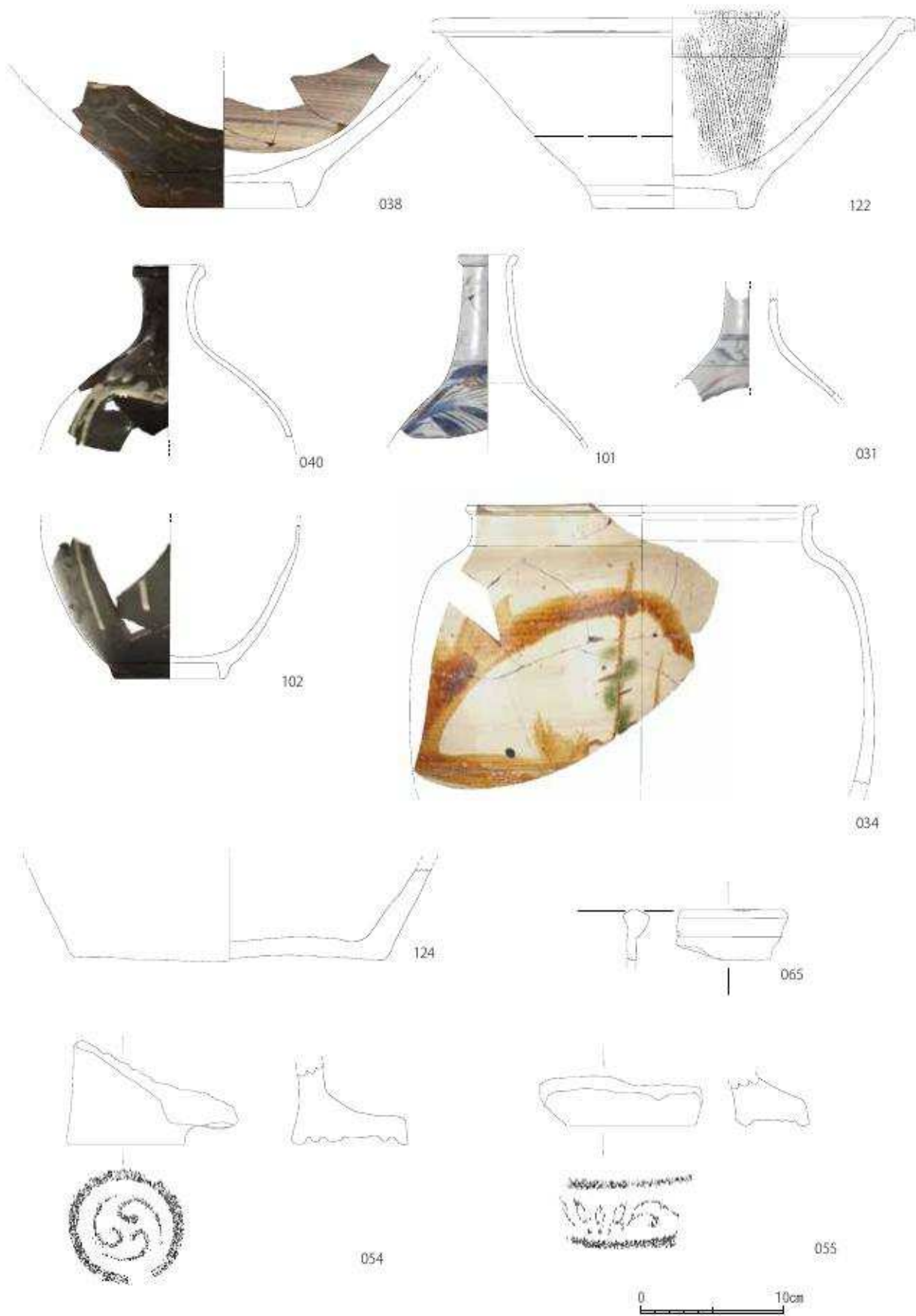


図30 遺物実測図〔近世～近代の遺物〕(S=1/4)

IV. その他の遺構と遺物

1. 遺構

(1) 掘立柱建物跡

① SB01

B区北部に位置する。調査中は建物跡として認識しておらず、調査終了後に掘立柱建物跡と認定した。2間×3間の側柱建物で、東西4.4m、南北7.2mを測り、主軸はほぼ南北方向である。北東角の柱穴は確認できなかった。南東角にあたるP7からは龍泉窯系の青磁片(027)が、その北側のP8からは図化していないが肥前陶磁器が出土している。遺物からは近世の建物と考えられるが、周辺には複数の攪乱があるため混入の可能性が否定できず、中世まで遡る可能性も残る。

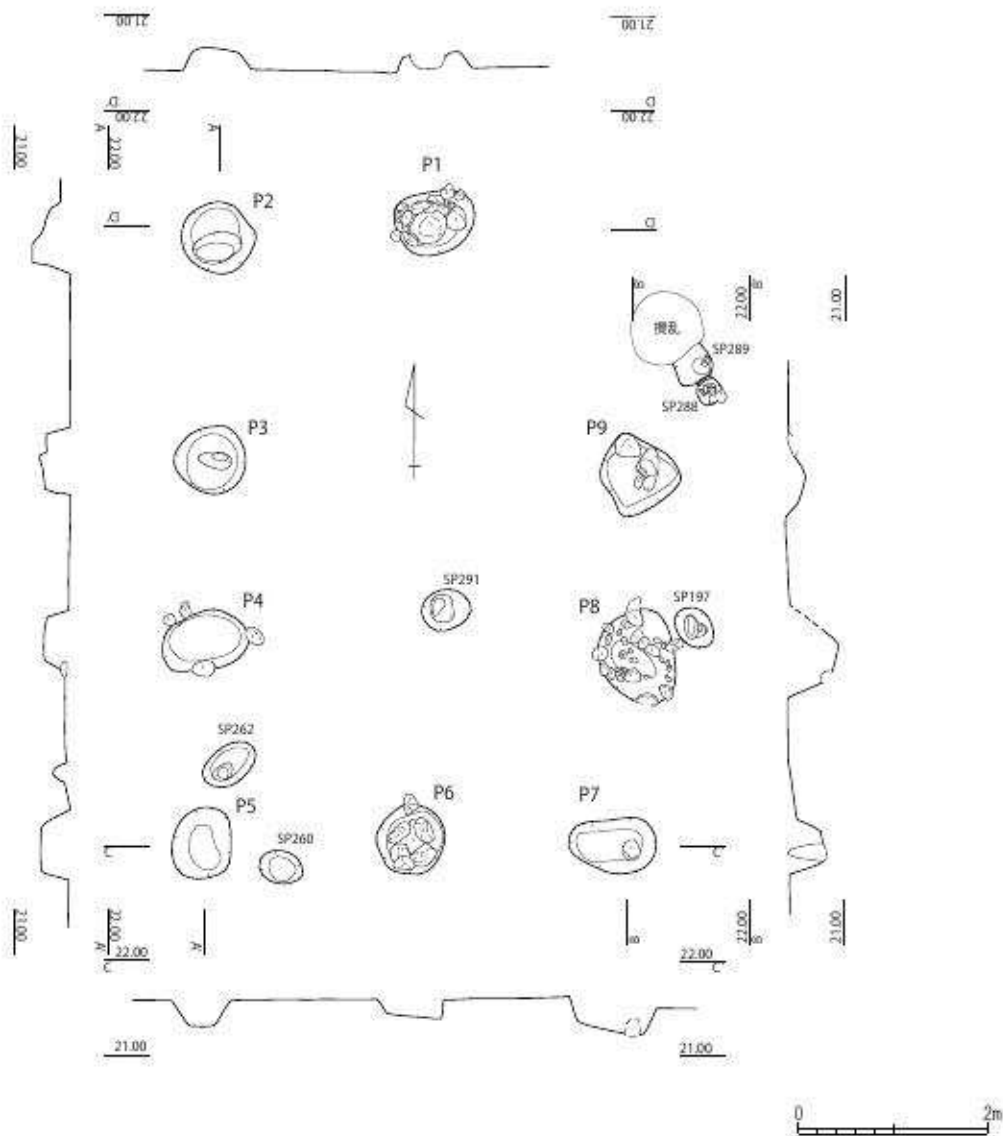


図 31 SB01 実測図 (S=1/80)

(2) ピット列(門跡)

① SA01

B区南部で確認した。直径30cmから90cmのピット10基が並び、調査区内での延長は約19mを測るが、調査区東壁でピットの断面(P10)が確認されていることから調査区外まで延びるものと考えられる。ほぼ中央で南北2基ずつピットが張り出しており、構造物を伴う柵列と考えられる。検出状況からSD02が関連すると考えられ、門を伴う塀もしくは柵など区画のための施設である可能性が高い。径70cm以上となる他のピットに比べて、P8・9は径30cm～50cmと小規模だが、他のピットと直列に並ぶこと、SA01よりも北側に同規模のピットがなく柵列が曲がっているとは考えにくいこと、SD02が調査区壁まで続くことなどから、一連のものであると判断した。構造物よりも西側の状況は後世の攪乱により明確ではない。調査中は埋土の見分けがつかずSD01掘削後に確認されたが、SD02がSD01を切ることから、SA01もSD01より相対的に新しいと考えられる。

(3) 溝状遺構

① SD01

B区南半で確認した溝で、幅約5m、調査区内での長さは約20m、深さ10～110cmを測り、東側に向かって深くなる。調査区東南角の壁面では深さ110cmを測るが、堆積確認のためのトレンチにより壁面のみでの確認であり、別遺構が重複していた可能性が高い。西側は現代の攪乱と重複している。遺物は須恵器、貿易陶磁器、近世陶磁器が出土しているが、近世以降の遺物は攪乱との重複による混入の可能性もある。

② SD02

SD01北辺部に重複して確認された。幅約1m、調査区内での延長約12m、深さ20～40cmを測る。遺構の西端はSA01の構造物手前で収束しており、SA01にともなう溝の可能性もある。遺物は近世陶磁器や弥生土器片、縄文土器片が出土しているが、遺構の西側に近世陶磁器の出土が集中しており、攪乱が重複していた可能性がある。SD01との切り合い関係からSD01より新しい時期の遺構である。

③ SD03

B区北西部に位置する。幅1m、長さ約7m、深さ24cmを測り、直線的に延びる。遺物は出土しておらず、時期、性格は不明である。

④ SD04

B区北東部に位置し、調査区外に延びる。幅1.3m、調査区内での延長約4m、深さ18cmを測り、SK04に切られている。SK04よりも古い時期の遺構ではあるが詳細は不明である。

(3) 土坑

① SK03

A区東部に位置し、平面形は隅丸方形を呈する。一辺約1mで深さ20cmを測り、土坑内部には多量の礫が含まれる。遺構の時期は不明だが、周辺で出土した礫を埋めたものである可能性がある。

2. 遺物

(1) 須恵器

049はSD01から出土した高台付きの坏身で、高台が端部より内側に付く。8世紀の所産と考えられ

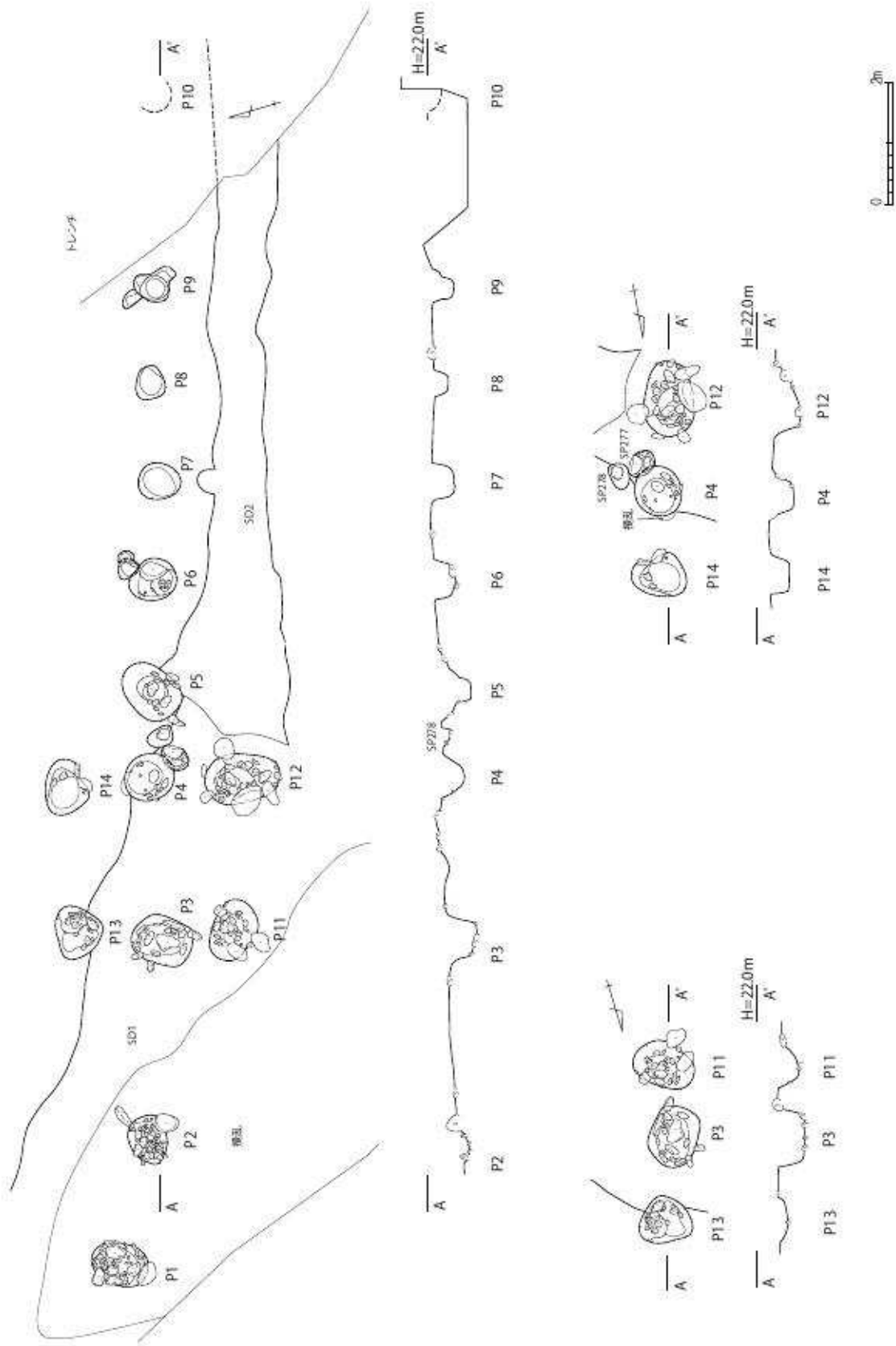


図 32 SA01 実測図 (S=1/100)



図 33 SD01・SD02 実測図 (S=1/120)

る。024はSD02から出土した。内面の焼成が弱く、高台付きの瓶などの底部と考えられる。

(2) 貿易陶磁器

044はSD01から出土した白磁碗の口縁部で、碗Ⅳ類と思われる。027はSB01-P7から出土した青磁底部片。胎土は灰色を呈し、底部は径の小さな平底で釉薬はかからない。龍泉窯系青磁皿かと思われる。

(3) 近世の遺物

047は底部糸切の土師質土器でSD01から出土した。内面が黒色を呈しており、灯火皿と思われる。050はSD01出土の染付碗底部で、破片のため文様は不明だが裏銘は「大明年製」と見られる。波佐見焼Ⅴ-1期で17世紀後半から18世紀前半のものと考えられる。046はSD01から出土した皿で、見込蛇の目釉剥ぎでコンニャク印判五弁花文が施されている。高台は小さく、波佐見焼Ⅴ-2・3期、18世紀後半から19世紀初頭の所産と考えられる。048はSD01から出土した陶器鉢で内面には象嵌により文様が描かれる。

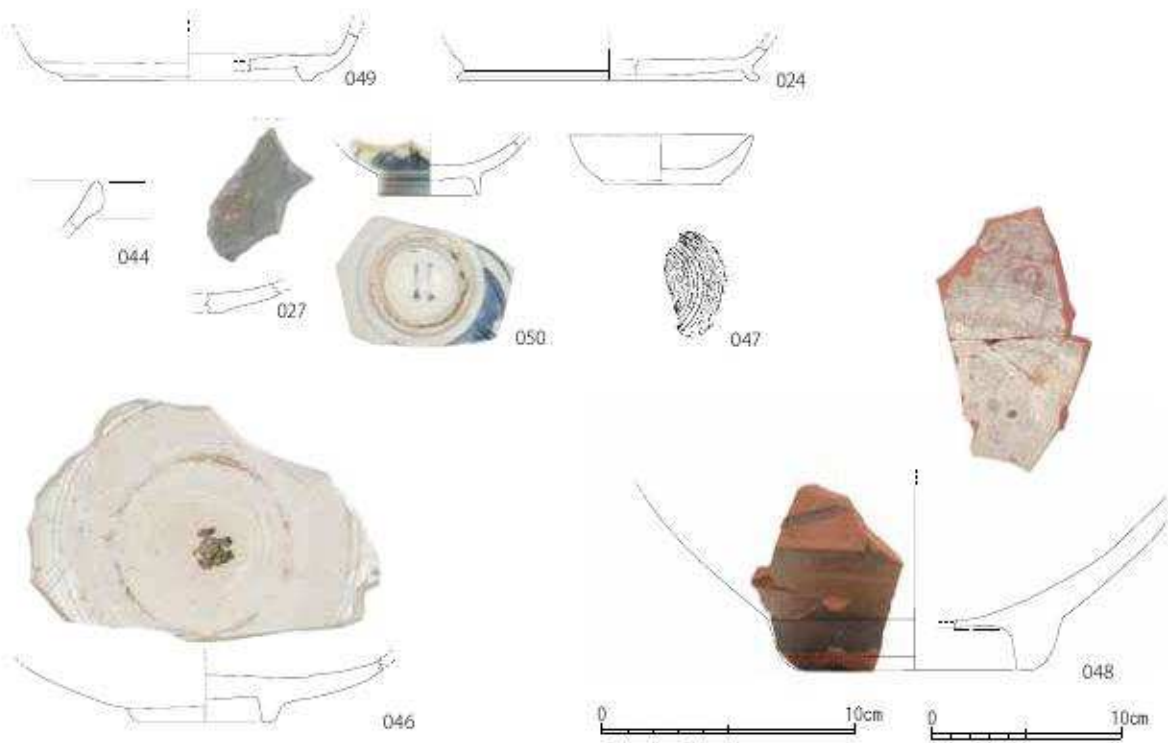


図34 遺物実測図〔その他の遺物〕(S=1/3・048はS=1/4)

表 11 遺構一覧 1

番号	調査区	グリッド	検出面	法量		埋土	遺物	備考	柱穴属性	
				直径	深さ				根固	礎板石
SP001	A	4812	上	36	12	Ab				
SP002	A	4812	上	33	10	Ab				
SP003	A	4812	上	22	12	Ab				
SP004	A	4812	上	15	30	A				
SP005	A	4812	上	22	20	A1,Ab				
SP006	A	4812	上	44	28	A1,Ab	土師器小片			
SP007	A	4812	上	29	20	A				
SP008	A	4812	上	22	6	Ab				
SP009	A	4812	上	40	20	A1b,A				
SP010	A	4812	上	48	12	Ab				
SP011	A	4812	上	(38)	19	A				
SP012	A	4812	上	22	11	Ab				
SP013	A	4812	上	52	6	Ab				
SP014	A	4812	上	35	15	Ab,Ba				
SP015	A	4812	上	42	14	A				
SP016	A	4812	上	18	11	Aa				
SP017	A	4812	上	28	6	Ab				
SP018	A	4810	上	50	31	C,Ab				
SP019	A	4810	上	50	26	C2,A				
SP020	A	4810	上	44	27	C2,A				
SP021	A	4810	上	60	16	C2,Ab				
SP022	A	4810	上	38	29	C,A,C				
SP023	A	4810	上	28	11	C2				
SP024	A	4810	上	50	30	Cb,Bb				
SP025	A	4810	上	45	16	Cb				
SP026	A	4810	上	24	34	C2				
SP027	A	4810	上	30	9	C				
SP028	A	4810	上	35	13	C2				
SP029	A	4810	上	30	10	C2b				
SP030	A	4810	上	26	20	C2,Ab				
SP031	A	4810	上	50	24	Cb				
SP032	A	4810	上	40	18	C2c				
SP033	A	4810	上	76	54	C2,A2				
SP034	A	4810	上	39	40	C2				
SP035	A	4810	上	20	28	C2				
SP036	A	4810	上	39	24	C2				
SP037	A	4810	上	38	11	C2b				
SP038	A	4810	上	31	16	C2b				
SP039	A	4810	上	46	20	C				
SP040	A	4810	上	32	15	Ab				
SP041	A	4810	上	30	42	C,C2				
SP042	A	4810	上	22	18	C,Cb				
SP043	A	4810	上	22	18	C2				
SP044	A	4810	上	16	14	C,2b				
SP045	A	4810	上	18	16	A2				
SP046	A	4810, 4812	上	30	39	C,2b				
SP047	A	4810	上	68	50	C2,A2				
SP048	A	4810	上	40	30	C2				
SP049	A	4810	上	46	34	Cb,Bb				
SP050	A	4810	上	17	20	C2b				
SP051	A	4810	上	38	36	C				
SP052	A	4810	上	29	22	C2				
SP053	A	4812	上	52	10	Ce				
SP054	A	4812	上	53	10	C				
SP055	A	4812	上	22	12	C2b				
SP056	A	4810	上	92	12	A				
SP057	A	4812	上	39	28	C				
SP058	A	4812	上	32	10	C2b				

【埋土類型】

- A 黒褐色(10YR2/2~2/3)粘質土。粘性弱い、しまりやや強い。
- B 暗褐色(10YR3/3)粘質土。粘性弱い、しまりやや弱い。
- C 黒色(7.5YR1.7/1~10YR2/1)粘質土。粘性弱い、しまり強い。
- D 褐色(10YR4/6)粘質土。粘性やや強い、しまりやや強い。
- 黒褐色土ブロック含む。
- F 極暗褐色(7.5YR2/3)粘質土。粘性やや強い、しまりやや強い。
- 1 しまり非常に強い。
- 2 しまり弱い。
- 3 しまり強い。
- a 細～粗砂を含む。
- b 地山ブロックを含む。
- c 焼土ブロック・炭化物を含む。
- d 腐混じり。

表 12 遺構一覧 2

番号	調査区	グリッド	検出面	法量		遺物	備考	柱穴属性 根周 礎板石
				直径	深さ			
SP059	A	4812	上	60	28	C,C2		
SP060	A	4812	上	48	14	A1c,A		
SP061	A	4812	上	66	22	C		
SP062	A	4812	上	50	11	A		
SP063	A	4812	上	23	8	A2		
SP064	A	4812	上	32	8	A2		
SP065	A	4810,4812	上	34	6	C2b		
SP066	A	4810	上	76	35	Cb		
SP067	A	4810	上	48	7	A		
SP068	A	4810	上	26	10	Ab		
SP069	A	4810	上	54	30	A,Cb		
SP070	A	4812	上	44	24	C2b		
SP071	A	4812	上	37	32	Ab,Cb		
SP072	A	4812	上	42	14	Cb		
SP073	A	4812	上	57	18	A		
SP074	A	4812	上	38	26	C		
SP075	A	4812	上	40	10	A2b		
SP076	A	4812	上	20	10	A		
SP077	A	4812	上	32	14	A		
SP078	A	4812	上	34	34	C		
SP079	A	4812	上	32	45	A2b		
SP080	A	4812	上	14	14	A2		
SP081	A	4812	上	20	6	C2b		
SP082	A	4812	上	60	22	A		
SP083	A	4812	上	26	11	A2b		
SP084	A	4812	上	22	10	A		
SP085	A	4812	上	43	14	A2		
SP086	A	4812	上	42	20	A2b		
SP087	A	4810	上	32	12	C		
SP088	A	4810	上	48	25	Cb		
SP089	A	4810	上	98	22	Ab		
SP090	A	4810	上	40	10	A2		
SP091	A	4810	上	42	18	C2b		
SP092	A	4812	上	44	36	C,Cb		
SP093	A	4812	上	41	26	Cb		
SP094	A	4812	上	32	28	C,Ab		
SP095	A	4810	上	58	32	C		
SP096	A	4810	上	24	16	A		
SP097	A	4810	上	22	18	C1,C		
SP098	A	4810	上	38	10	Cb		
SP099	A	4810	上	34	19	C		
SP100	A	4810	上	24	6	A		
SP101	A	4810	上	32	30	C		
SP102	A	4810	上	38	28	C		
SP103	B	5816	上	33	28	A2		
SP104	B	5816	上	36	21	A2,D		
SP105	B	5816	上	52	25	A2,D		
SP106	B	5818	上	37	22	A2,D		
SP107	B	5618,5818	上	46	30	A2,D		
SP109	B	5818	上	33	12	A2		
SP110	B	5818	上	31	16	A2,D		
SP111	B	5816	上	46	36	A2b		
SP113	B	5616	上	54	21	A2b,D		
SP114	B	5816	上	52	17	A2b		
SP117	B	5616	上	42	42	A2,D		
SP118	B	5616	上	19	34	A2,D		
SP120	B	5816	上	36	36	A2		
SP124	B	5816	上	44	20	A		

表 13 遺構一覧 3

番号	調査区 グリッド		検出面	法量			遺物	備考	柱穴属性	
				直径	深さ	埋土			根固	礎板石
SP125	B	5816	上	62	12	Bd				
SP126	B	5816	上	33	19	A2,Ad				
SP127	B	5816	上	32	13	A2				
SP128	B	5816	上	27	12	A2				
SP129	B	5816	上	51	25	A2b				
SP130	B	5816	上	20	8	A				
SP132	B	5816	上	41	15	A				
SP133	B	5816	上	23	32	A				
SP134	B	5816	上	90	24	A2b				
SP135	B	5816	上	46	10	Ab				
SP140	B	5616	上	29	32	A2b				
SP141	B	5616	上	17	11	A2b				
SP142	B	5616	上	29	48	A2b,B3				
SP143	B	5616	上	26	34	A2b				
SP144	B	5616	上	25	19	A2bd				
SP145	B	5616	上	90	13	Ab				
SP148	B	5616	上	54	27	A2				
SP149	B	5616	上	77	21	Fd				
SP150	B	5616	上	45	19	A2d				
SP151	B	5416	上	56	13	A2bd				
SP152	B	5416	上	37	21	Ab,D				
SP153	B	5616	上	30	22	Ab,D				
SP154	B	5416	上	44	13	Bb				
SP155	B	5416	上	24	11	B3b				
SP156	B	5416	上	40	20	B3				
SP157	B	5416	上	83	26	A2b				
SP158	B	5416	上	22	13	B				
SP159	B	5616	上	86	10	Bd				
SP161	B	5816	上	21	11	A2b				
SP162	B	5816	上	25	5	A				
SP165	B	5818	上	35	27	A				
SP166	B	5818	上	28	12	Ad				
SP167	B	5816	上	39	32	A				
SP169	B	5816	上	32	23	Ab				
SP170	B	5816	上	44	39	A,Ab				
SP171	B	5816	上	55	49	A				
SP172	B	5616	上	49	17	Ab,A,B3				
SP173	B	5616	上	19	9	Ab				
SP174	B	5616	上	34	23	Ab				
SP175	B	5616	上	29	35	Ab				
SP176	B	5616	上	24	14	Ab,B				
SP177	B	5616	上	65	45	Ab				
SP178	B	5616	上	31	21	A,Ab				
SP179	B	5616	上	29	20	Ab,A				
SP180	B	5616	上	23	34	A,Ab				
SP181	B	5616	上	26	36	A				
SP182	B	5616	上	34	25	Ab				
SP183	B	5616	上	53	56	Ab,A2	弥生土器?			
SP184	B	5616	上	52	15	A,B				
SP185	B	5616	上	38	30	Aab				
SP186	B	5616	上	34	23	A2b				
SP187	B	5616	上	48	43	Ab				
SP188	B	5616	上	19	14	Ab				
SP189	B	5616	上	54	12	A				
SP190	B	5616	上	36	20	A2d				
SP191	B	5616	上	35	20	A				
SP192	B	5616	上	26	11	Ab				
SP193	B	5616	上	37	30	A2b				

表 14 遺構一覧 4

番号	調査区 グリッド		検出面	法量		埋土	遺物	備考	柱穴属性	
				直径	深さ				根固	礎板石
SP194	B	5616	上	39	22	Abd				
SP195	B	5616	上	86	25	Bd				
SP196	B	5616	上	38	21	A2b,B				
SP197	B	5616	上	46	26	Ad				
SP201	B	5616	上	31	31	Ab				
SP203	B	5616	上	47	24	Ab,A				
SP204	B	5616	上	34	23	Ab				
SP205	B	5616	上	55	27	Ab	瓦質土器			
SP206	B	5616	上	49	20	A2				
SP207	B	5616	上	64	14	Abd				
SP209	B	5616	上	46	12	Ab				
SP210	B	5616	上	26	15	Ab,B				
SP211	B	5616	上	27	50	C				
SP212	B	5616	上	32	33	A,A2b				
SP213	B	5616	上	36	48	Ab,A,B	土師器片			
SP214	B	5616	上	49	56	A				
SP215	B	5616	上	35	28	Ab,B				
SP216	B	5616	上	34	52	A				
SP217	B	5616	上	26	17	Aab				
SP219	B	5816	上	29	19	A2				
SP220	B	5616	上	44	57	C				
SP221	B	5818	上	31	14	A				
SP222	B	5816	上	59	47	Ab				
SP224	B	5816	上	33	9	Ab				
SP225	B	5816	上	12	14	Ab				
SP226	B	5616	上	34	21	A2b				
SP227	B	5616	上	17	23	A2b				
SP228	B	5616	上	20	24	A2				
SP229	B	5616	上	22	30	A2				
SP230	B	5616	上	19	36	A2d				
SP232	B	5616	上	70	14	A2b,A2	土師器片			
SP233	B	5616	上	47	15	A2				
SP234	B	5616	上	31	6	A2b				
SP235	B	5616	上	42	20	Ad,A2d				
SP236	B	5616	上	22	20	A2b				
SP237	B	5416	上	42	16	A2d				
SP239	B	5414	上	48	52	A				
SP240	B	5416,5616	上	80	29	A2d				
SP241	B	5616	上	72	29	A2d				
SP244	B	5614	上	55	71	A,A2d				
SP245	B	5614	上	45	10	A2b				
SP246	B	5616	上	53	23	A2				
SP247	B	5616	上	42	15	A				
SP249	B	5616	上	45	18	Ad	近世陶磁器			
SP250	B	5616	上	37	11	A2b		地山ブロックの包含部分的		
SP251	B	5616	上	29	31	A2b				
SP252	B	5616	上	65	20	B				
SP254	B	5614	上	41	10	A				
SP255	B	5614,5616	上	125	10	Ad	縄文土器片、近世陶器			
SP256	B	5614	上	59	26	A				
SP257	B	5614	上	42	20	A				
SP258	B	5614	上	58	30	C				
SP260	B	5616	上	36	23	A2b				
SP262	B	5616	上	61	45	A2b	土師器片			
SP266	B	5616	上	34	11	A				
SP267	B	5616	上	28	26	A				
SP269	B	5614	上	58	24	C2				
SP271	B	5614	上	72	12	A2				

表 15 遺構一覧 5

番号	調査区 グリッド		検出面	法量		埋土	遺物	備考	柱穴属性	
				直径	深さ				根固	礎板石
SP272	B	5614	上	53	42	A2b	近世陶磁器			
SP273	B	5614	上	58	43	A2d				
SP274	B	5614	上	45	15	A2				
SP275	B	5614	上	52	28	A2d				
SP276	B	5614	上	58	30	A2d				
SP278	B	5816	上	41	19	A2				
SP279	B	5616	上	54	10	A2				
SP280	B	5614	上	46	50	—				
SP281	B	5616	上	58	44	Cd				
SP283	B	5614	上	29	52	A2				
SP284	B	5614	上	41	35	C2				
SP285	B	5416	上	34	12	A2				
SP286	B	5416	上	57	31	A2				
SP287	B	5616	上	47	19	A2				
SP288	B	5616	上	29	27	A2				
SP289	B	5616	上	30	30	A2				
SP291	B	5616	上	50	48	A				
SP292	B	5616	上	52	18	A2d				
SP293	B	5816	上	34	26	A2				
SP294	B	5616	上	22	10	A2				
SP295	A	4812	上	32	22	—		試掘時検出ビット		
SP296	A	4812	上	35	34	—		試掘時検出ビット		
SB01-P1	B	5616	上	85	17	B3d		調査中SP160	○	○
SB01-P2	B	5616	上	68	23	A2d		調査中SP242		
SB01-P3	B	5616	上	71	30	A2d		調査中SP243		
SB01-P4	B	5616	上	89	26	A2b		調査中SP265		
SB01-P5	B	5616	上	73	28	A2b		調査中SP261		
SB01-P6	B	5616	上	74	12	A2b,d		調査中SP259	○	○
SB01-P7	B	5616	上	92	37	Ad	青磁片	調査中SP202		
SB01-P8	B	5616	上	96	54	Ad		調査中SK05、壁面に検多	○?	
SB01-P9	B	5616	上	80	35	A2d,D2,A		調査中SP290		
SA1-P1	B	5616	上	78	20	A2d			○?	
SA1-P2	B	5616	上	74	20	C2d				
SA1-P3	B	5616,5816	上	76	42	Cd			○?	
SA1-P4	B	5816	上	84	30	Cd				
SA1-P5	B	5816	上	90	48	Cd				
SA01-P6	B	5816	上	68	38	A,Ab		調査中SP218		
SA01-P7	B	5816	上	69	33	A2b,D		調査中SP112		
SA01-P8	B	5816,5818	上	34	27	Ab		調査中SP168		
SA01-P9	B	5818	上	50	40	A2,Aa		調査中SP108		
SA1-P10	B	5818		58	36	A				
SA1-P11	B	5816	上	74	30	Cd			○?	
SA1-P12	B	5816	上	88	34	Ad			○?	
SA1-P13	B	5616	上	88	24	A2,A2d	弥生土器片			
SA1-P14	B	5616	上	88	34	A2b,A2				
SL01	A	4810	上	44	10		武埴系礎底部			
SD01	B	5616,5816,5818	上	幅510	100 ~10		貿易磁器、須恵器、近世陶磁器、黒曜石	長さ 約20m		
SD02	B	5816,5818	上	幅100	20~ 40		縄文土器、弥生土器、須恵器、近世陶磁器	長さ 約12m		
SD03	B	5414,5416,5614	上	幅100	24	C		長さ 約7m		
SD04	B	5416	上	幅130	18	A2d		長さ 約4m		
SK01	A	4810	上	86	40	Cd,Cb				
SK02	A	4810	上	74	14	Ab				
SK03	A	4810	上	104	20	C2d				
SK04	B	5416	上	225	55		近世陶磁器、瓦、石器(縄文)			
SK07	B	5614	上	214	84					
SX01	B	5614,5616	上	248	58	Aa,d,A2d	近世~近代陶磁器			

表 16 遺物一覧1(土器・陶磁器)

ID	出土位置		種別 器種	部位 残存率	法量(cm)			調整ほか特徴	色調 上段: 外面 下段: 内面		備考
	遺構等	層位			器高	口径	底径				
001	A区4812	暗褐色土	須恵器 蓋 古墳終末期	口縁部	1.8	-	-	ナデ	灰色5Y5/1 にぶい黄褐色10YR5/4		
002	A区4812	攪乱中	白磁 碗IV類	口縁部	-	-	-		浅黄色5Y7/3 灰白色5Y7/2		
003	A区4812	黒褐色土	白磁 碗IV類	口縁部	-	-	-		灰白色7.5Y7/1 灰白7.5Y7/2		
004	A区5012	黒褐色土 上層	白磁 碗IV類	底部1/4	2.0	-	(7.2)	外】高台周辺露胎	灰白色5Y7/2 灰黄色2.5Y7/2		
005	A区5012	黒褐色土 上層	白磁 碗	底部	-	-	(6.6)	外】高台付近まで施釉 内】櫛目文	灰色5Y7/2 灰色5Y7/2	碗IV類か	
006	A区5012	黒褐色土	白磁 碗IV-a類	底部	3.1	-	(9.2)	外】体部外面露胎、ヘラケズリ 内】見込に沈線	灰白色10Y8/1 灰白色7.5Y7/2		
007	A区5012	黒褐色土	須恵器 坏身 8世紀	底部	2.8	-	(8.2)	外】高台部分ナデ	褐色10YR6/1 黄灰色2.5Y6/1	高台付	
008	A区5012	黒褐色土	縄文土器 深鉢	胴部	-	-	-	外】条痕 内】ナデ	にぶい褐色7.5YR5/4 褐色7.5YR4/4		
009	A区	黒褐色土 上面	白磁 碗	体部	-	-	-	外】ヘラケズリ 内】櫛目文	灰オリブ色5Y6/2 灰オリブ色5Y6/2		
010	A区	黒褐色土 上面	瓦器 碗 古代~中世	口縁部	-	-	-	外・内】ナデ	黄灰色2.5Y5/1 灰白色2.5Y8/2		
011	A区	黒褐色土 上面	青磁 碗	口縁部	-	-	-	内】篋描文	灰オリブ色5Y5/3 灰オリブ色5Y5/3	龍泉窯系	
012	A区	黒褐色土 上面	瓦質土器 鉢	口縁部	-	-	-	外】タテハケ 内】ヨコハケ	黄灰色2.5Y4/1 暗灰黄色2.5Y4/2		
013	A区	壁面	白磁 碗	口縁部	-	-	-	内】櫛目文	灰オリブ色5Y6/2		
014	A区	表土	白磁 碗IV類	口縁部	-	-	-		灰白色5Y7/1		
015	A区4810	黒褐色土	須恵器 甕?	胴部	-	-	-	外】平行タタキ 内】当具痕		写真図版のみ	
016	A区4810	黒褐色土	須恵器 甕?	胴部	-	-	-	外】平行タタキ 内】当具痕		写真図版のみ	
017	A区4810	黒褐色土 上層	縄文土器 浅鉢	口縁部	-	-	-	外】ミガキ 内】ナデ	にぶい黄褐色10YR6/4 暗灰黄色2.5Y4/2		
018	A区4810	黒褐色土 上層	土師器 埴 古墳時代前期	口縁部	-	-	-	外】ヨコナデ、タテハケ後ナデ 内】ヨコ ナデ、ヨコハケ後ナデ	褐色7.5YR6/6 褐色7.5YR6/6		
019	A区4810	黒褐色土 上層	土師器 皿 中世	口縁~底 部1/4	1.0	(11.0)	(9.0)	外】回転ナデ、糸切 内】回転ナデ	にぶい黄褐色10YR7/4 にぶい黄褐色10YR7/4		
020	B区5818	黒褐色土	須恵器 甕または甕	胴部	-	-	-	外】格子目タタキ 内】当具痕ナデケン、 ハケ?	明赤褐色2.5YR5/6 明黄褐色10YR6/6		
021	B区5818	黒褐色土	須恵器 甕	胴部	-	-	-	外】格子目タタキ 内】当具痕	褐色7.5YR6/6 にぶい褐色7.5YR6/4		
022	B区5818	黒褐色土	須恵器	口縁部	6.2	-	-	外】格子目タタキ、ナデ 内】ナデ		写真図版のみ	
024	B区5816 SD02		須恵器 瓶	底部	1.4	-	(12.0)	外】底部回転ヘラケズリ、高台ナデ 内】 ナデ	灰色5Y6/1 にぶい黄褐色10YR6/4		
025	B区5616	造成土下	須恵器 蓋 8世紀	天井~口 縁部	1.2	(15.0)	-	外・内】ナデ	灰色N4/0 灰色N4/0		
026	B区5816	黒褐色土	須恵器 平瓶?	頸部	6.8	-	-	外・内】ナデ		写真図版のみ	
027	B区 SB01-P7		青磁 皿? 中世	底部	1.3	-	-	内】櫛目文	緑灰色7.5GY5/1 オリブ灰色5GY5/1	龍泉窯系	
028	B区5416 SK04		近世陶磁 染付皿	底部	1.7	-	4.6	外】高台端部袖掻き取り 内】見込蛇の 目軸刺ぎ	灰白色5Y8/1 灰白色10YR8/1		
029	B区 SX01		近世陶磁 染付角皿 19世紀	口縁部~ 体部	-	-	-	口縁波状、型打成形か 内】日本地図文	灰白色2.5GY8/1 灰白色2.5GY8/1		
030	B区 SX01		近世陶磁 染付端反碗	口縁部~ 底部1/2	6.5	(11.6)	4.6	外】草花文 内】口縁部二重線、見込 線内に花文?	灰白色2.5GY8/1 灰白色2.5GY8/1		
031	B区 SX01		近世陶磁 染付徳利	頸部~肩 部	-	-	-	外】篋文 内】回転ケズリ、回転ナデ	灰白色5Y7/1 灰白色5Y8/1	笹文徳利	
033	B区SX01		近世陶磁 染付皿	底部	-	-	5.0	外】高台端部袖掻き取り 内】見込山水 文	灰白色10Y8/1 灰白色5Y8/1		
034	B区5416 SK04		近世陶磁 陶器甕 17~18世紀	口縁~胴 部	20.0	(25.0)	-	外】鉄絵緑彩 内】ナデ後施釉	淡黄色2.5Y8/3 灰オリブ色5Y4/2	武雄系 鉄絵緑彩甕	
035	B区5616	造成土下	近世陶磁 染付碗	完形	4.2	8.5	3.1	外】仙芝文、高台端部袖掻き取り	灰白色7.5Y8/1 灰白色7.5Y7/1		
037	B区5416 SK04		近世陶磁 染付皿	底部	-	-	5.0	外】高台端部袖掻き取り 内】見込山水 文	灰白色5Y8/1 灰白色7.5Y8/1	型打成形の可能性	
038	B区5616 SK04		近世陶磁 陶器鉢 18世紀	体~底部	9.8	-	12.0	外】ナデ、施釉後高台部袖掻き取り、高 台端部面取り 内】ナデ、ハケ目装飾	黒褐色7.5YR2/2 灰白色7.5YR8/1		
040	B区5416 SK04		近世陶磁 陶器瓶	口縁~肩 部	12.3	5.0	-	外】施釉後白土 内】回転ケズリ、ナデ	灰褐色5YR4/2、オリブ 黒色5Y3/1 暗褐色7.5YR3/3	102と同一個体か 唐津系	
041	B区5816 SD02		縄文土器深鉢 中期~後期	底部	3.0	-	(12.4)	外】ヨコナデ 内】ナデ、ユビオサエ	赤褐色5YR4/6 褐色7.5YR 4/3		
044	B区5616SD01		白磁 碗IV類	口縁部	-	-	-		灰白色5Y7/2		
046	B区5616 SD01		近世陶磁 染付皿 18~19世紀	底部	2.6	-	5.4	外】回転ケズリ、高台端部袖掻き取り 内】見込蛇の目軸刺ぎ・コンニャク印判 五花卉文、目跡	灰白色5Y7/1 灰白色5Y7/1		
047	B区5816 SD01		土師質土器皿 近世	口縁~底 部1/4	2.0	(8.0)	(5.0)	外】回転ナデ、糸切 内】ナデ、黒褐色 (黒色)を呈する	褐色5YR6/6 黒褐色2.5Y3/1	灯火皿	
048	B区5816 SD01		近世陶磁 陶器鉢	体部~底 部	-	-	-	外】ヘラケズリ後施釉、口縁端部袖掻き 取り面取り 内】象嵌装飾	暗赤褐色5YR3/4 にぶい黄褐色10YR7/2		

表 17 遺物一覧2(土器・陶磁器)

ID	出土位置		種別 器種	部位 残存率	法量(cm)			調整ほか特徴	色調 上段:外面 下段:内面	備考
	遺構等	層位			器高	口径	底径			
049	BIX5816 SD01		須恵器 坏身 古代	底部	-	-	(10.0)	外・内】ナデ	黄灰色2.5Y5/1 灰色5Y5/1	
050	BIX5616 SD01		近世陶磁 染付碗 17~18世紀?	底部	2.2	-	4.1	外】裏銘「大明年製」	灰白色10Y8/1 灰白色10Y8/1	
052	BIX5416 SK04		近世陶磁 陶胎染付碗	口縁~底 部1/2	6.7	(10.2)	4.4	外】連続唐草文	灰白色7.5Y7/1 灰白色10Y7/1	
054	BIX5416 SK04		焼し瓦 棧瓦	瓦当(丸瓦 部)	8.0	-	-	外】三巴文、ナデ 内】ナデ キラコ	灰色7.5Y5/1	
055	BIX SK04		焼し瓦 軒平	瓦当	5.5	-	-	外】唐草文、ナデ 内】面取り調整、ナデ キラコ	灰色7.5Y5/1	棧瓦の可能性
056	BIX SK04		近世陶磁 陶器皿 19世紀?	完形	2.7	9.7	4.3	外】ケズリ、高台内系切、高台施釉しな い 内】見込蛇の目釉剥ぎ	明褐色5YR7/2 明褐色7.5YR7/2	
057	BIX5416 SK04		近世陶磁 染付蓋 19世紀?	天井~口 縁部1/2	3.0	(10.0)	-	外】線描草花文、つまみ端部釉掻き取り 内】口縁部雷文	灰白N8/0よりやや青い 灰白N8/0よりやや青い	
058	BIX SK04		近世陶磁 染付皿	底部	2.9	-	13.2	外】唐草文、ハリササエ跡 内】草花文	明緑灰色7.5GY8/1 明緑灰色7.5GY8/1	
059	BIX SK04		近世陶磁 染付蓋	天井~口 縁部一部 欠	3.4	9.3	-	外】口縁部釉掻き取り 内】見込溝 福	灰色10Y8/1 灰色10Y8/1	
061	BIX5616	攪乱	青磁 碗	口縁~体 部	-	-	-	内】細い線による花文	オリーブ灰色2.5GY6/1	龍泉窯系
065	BIX5416 SK04		瓦質土器 鉢 近世	口縁部	-	-	-	外・内】ナデ	暗灰黄色2.5Y5/2 にぶい黄色2.5Y6/3	キラコ含む
069	BIX5816 南トレンチ		白磁 碗類	底部	-	-	(6.8)	外】体部下半露胎 内】見込現状に釉 剥ぎ	灰白色7.5Y8/1 浅黄色5Y7/3	
071	BIX5816	攪乱	貿易陶器 甕	頸部~胴 部	-	-	-	外】格子目タタキ、施釉 内】当具痕、施 釉?つやがある	暗オリーブ色5Y4/3 黄灰色2.5Y6/1	
072	AIK	黒褐色土 上面	土師質土器 挿鉢 中世	口縁部	-	-	-	外】ヨコハケ 内】ヨコハケ、ナナメハケ、 掃り目	浅黄色2.5YR7/3 にぶい黄褐色10YR7/4	
080	BIXSP255		近世陶磁器?	体部	-	-	-	内】象嵌装飾		写真図版のみ
082	BIXSP205		瓦質土器	体部	-	-	-			写真図版のみ
085	BIXSK04		瓦質土器	体部	-	-	-	内】ケズリ キラコ含む		写真図版のみ
087	BIX5416 SK04		近世陶磁 染付筒丸碗 19世紀	口縁~底 部1/2	5.1	(6.6)	3.2	外】高台端部釉掻き取り、丸文	灰白色10Y8/1 灰白色10Y8/1	
090	BIX5416 SK04		近世陶磁 染付碗	口縁部~ 底部	3.2	(7.7)	(3.1)	外】高台端部釉掻き取り、「笹」? 「町」など4文字	灰色N8/0 灰色N8/0	
096	BIX5816	攪乱	近世陶磁器 鉢	底部	-	-	-	内】象嵌装飾		写真図版のみ
101	BIX5416 SK04		近世陶磁 染付徳利	口縁~胴 部	13.2	4.2	-	外】笹文 内】ナデ、ケズリ、口縁付近施 釉	灰白色10Y8/1 にぶい黄褐色10YR7/3	笹文徳利
102	BIX5416 SK04		近世陶磁 陶器瓶	胴~底部	11.0	-	7.8	外】施釉後白土 内】回転ケズリ	黄灰色2.5Y4/1 灰赤色2.5YR4/2	40と同一個体か 唐津系
107	BIXSK04		近世陶磁	口縁~胴	-	-	-	内】草花文		写真図版のみ
114	BIX5616 SX01	石組基礎	近世陶磁 染付皿	一部欠	2.5	9.2	4.1	内】草花文、見込蛇の目釉剥ぎ	灰白色2.5GY8/1 灰白色2.5GY8/1	
118	BIX5416 SK04		近世陶磁 染付皿		4.0	-	-	外】底部ハリササエ跡 内】海浜風景文	明緑灰色10GY8/1 明緑灰色10GY8/1	口縁部波状
119	BIX SX01		近世陶磁 染付碗 19世紀	口縁~底 部1/4	6.3	(10.6)	(4.4)	外】草草文 内】口縁格子文、見込に線 描きの文様	灰白色10Y8/1よりやや 青	
122	BIX5416 SK04		近世陶磁 陶器挿鉢 18世紀後半?	口縁~底 部	13.6	(34.6)	11.6	外】ケズリ 内】口縁部ナデ、掃り目、見 込に砂目	暗赤褐5YR3/2 暗赤褐5YR3/2	
124	AIK4810 SL01	焼土下面 2層	近世陶磁 陶器甕 17世紀	底部	6.8	-	(22.1)	外】鉄釉、格子目タタキ 内】ケズリ?	極暗褐色5YR2/3 極暗褐色5YR2/3	武雄系

表 18 遺物一覧3(石器)

ID	出土位置		器種	石材	法量(cm・g)				備考
	遺構等	層位			長さ	幅	厚み	重量	
401	BIX5416	SK04	打製石斧	安山岩	12.0	10.7	1.5	250.0	
406	BIX5816	SD02	石鍋	滑石	10.1	14.0	3.0	425.0	底部、写真図版のみ
408	BIX5816	SD01	石鍋	滑石	5.4	8.2	2.7	156.0	鏝付
409	BIX5816	SD01	石鍋	滑石	8.0	9.0	3.6	250.0	鏝付、穿孔、写真図版のみ
410	BIX5616	カクラン	石鍋	滑石	9.9	8.7	3.9	360.0	徹耳
411	BIX5614	造成土下	石織	黒曜石	3.4	1.5	0.4	1.2	

V. 自然科学分析（火山灰分析）

株式会社 火山灰考古学研究所

1. はじめに

九州地方北西部に位置する大村市域には、阿蘇、始良、鬼界など九州地方中～南部に分布するカルデラ火山などから噴出したテフラ（tephra、火山^{さいせつぶつ}砕屑物、いわゆる火山灰）が分布している。そのうち、後期更新世以降のテフラの大部分については、これまでの研究により、過去の良好な時空指標（指標テフラ）として、考古学研究を含む各種の編年研究に利用できるようになっている（町田・新井、1992, 2003, 2011 など）。

大村市竹松遺跡の発掘調査でも、層位や年代が不明な土層が認められたことから、発掘調査担当者により採取された7試料を対象に、テフラ分析（火山ガラス比分析・火山ガラスの屈折率測定）を行って、土層の層位や形成年代に関する資料を得ることになった。

2. 火山ガラス比分析

(1) 分析試料と分析方法

分析測定の対象は、試料1～7の7試料である。そのうち、試料3～7は7層、そして試料1～2は5層から採取されたものである。火山ガラス比分析の手順は次のとおりである。

- 1) 10g を電子天秤で秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器をもちいて80℃で乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や色調などを観察（テフラ検出分析）。
- 5) 分析篩を用いて、2～3φ（1/4～1/8mm）および3～4φ（1/8～1/16mm）の粒子を篩別。
- 6) 偏光顕微鏡下で2～3φ（1/4～1/8mm）の500粒子を観察し、火山ガラスの形態（一部色調）別含有率、軽鉱物と重鉱物の含有率をそれぞれ求める（火山ガラス比分析）。

火山ガラス比分析における検鏡対象粒子数は、テフラ検出分析で火山ガラスの含有率が低いことが判明したことから、火山に比較的近い地域の2倍とした。また、火山ガラスの形態分類は、テフラ・カタログ（町田・新井、2011）や早田（1999）に基本的に従い、バブル型、塊状の中間型、軽石型に区分した。軽石型については、さらにスポンジ状と繊維束状に分けた。なお、色調はバブル型ガラスを対象に記載を行い、無色透明、淡褐色、褐色に区分した。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。比較的粗粒の軽石やスコリアは検出されなかったものの、いずれの試料においても、火山ガラスや遊離結晶などを認めることができた。ただ、火山ガラスの含有率は高くない。遊離結晶には、酸化したものも比較的多い。また、微晶を多く含む発泡の良い灰～白色の岩片については、その他に分類した。

7層から採取された試料7から試料3にかけて含まれる火山ガラスは微量で、多くの試料で無色透明のバブル型ガラスが認められる。このうち、試料3には、ほかに淡褐色や褐色のバブル型ガラスも含まれている。試料5や試料3には、灰～白色のスポンジ状軽石型ガラスが認められる。不透明鉱物以外の重鉱物としては、斜方輝石、単斜輝石、角閃石が多いが、試料6から試料5にかけては、角閃石が比較的多い傾向にある。

5層から採取された試料2や試料1には、7層と比較するとより多くの火山ガラスが含まれている。とくに、最上位の試料1では比較的多い。この試料に含まれている火山ガラスは、淡褐色、褐色、無色透明のバブル型や繊維束状軽石型である。これらの試料に含まれる不透明鉱物以外の重鉱物は、斜方輝石、単斜輝石、角閃石などで、とくに前二者が多いらしい。

次に、火山ガラス比分析の結果をダイヤグラムにして図1に、その内訳を表2に示す。火山ガラスの含有率は、5層から採取された試料1でもっとも高い(4.0%)。この試料に含まれる火山ガラスは、無色透明バブル型(1.4%)、繊維束状軽石型(1.0%)、淡褐色バブル型(0.8%)、褐色バブル型およびスポンジ状軽石型(各0.4%)である。淡褐色や褐色など有色のバブル型ガラスは、試料3より下位の7層の試料では認められない。これらの多くの試料には無色透明のバブル型ガラスが少量含まれているが、試料5や試料4からこのタイプの火山ガラスは検出されなかった。試料5では、とくにテフラ粒子以外の岩片などその他の粒子の含有率が高い(72.6%)。

3. 火山ガラスの屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

日本列島とその周辺における火山灰編年学的研究では、指標テフラとの同定の際に、テフラ粒子の屈折率測定が同定精度の向上のために実施されている。そこで、火山ガラス比分析の対象となった7試料に含まれる火山ガラスの屈折率測定を行った。屈折率測定は、温度変化型屈折率測定法(壇原, 1993)に従った。測定対象の火山ガラスは、3~4 ϕ (1/8~1/16mm)粒子中の火山ガラスである。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表3に示す。この表には、九州地方北部とその周辺に分布する後期更新世以降の代表的な指標テフラに含まれる火山ガラスの屈折率特性も掲載した。

7層から採取された試料7に含まれる火山ガラス(6粒子)の屈折率(n)は、1.496-1.499である。この値はbimodal組成で、n:1.496とn:1.499の値からなる。試料6に含まれる火山ガラス(6粒子)の屈折率(n)は、1.496-1.499である。この値もbimodal組成で、n:1.496(1粒子)とn:1.499(5粒子)の値からなる。試料6に含まれる火山ガラス(6粒子)の屈折率(n)は、1.498-1.506である。この値もbimodal組成で、n:1.498-1.499(3粒子)とn:1.505-1.506(3粒子)の値からなる。試料5に含まれる火山ガラス(6粒子)の屈折率(n)は、測定可能なものが検出されず測定ができなかった。

試料4に含まれる火山ガラス(2粒子)の屈折率(n)は、1.497である。また、試料3に含まれる火山ガラス(16粒子)の屈折率(n)は、1.497-1.506である。この値はtrimodal組成で、n:1.497-1.500(7粒子)、n:1.503(1粒子)、n:1.505-1.506の値からなる。

5層から採取された試料のうち、試料2に含まれる火山ガラスの屈折率(n)は、1.501-1.510である。さらに、試料1に含まれる火山ガラス(30粒子)の屈折率(n)は、1.498-1.513である。この値はbimodal組成で、 n :1.498-1.501(13粒子)と n :1.506-1.513(17粒子)からなる。

4. 考察

テフラ検出分析や火山ガラス比分析により、もっとも火山ガラスの含有率が高いことが判明した試料1に含まれる火山ガラスのうち、屈折率(n)が1.506-1.513のものは有色のバブル型ガラスや繊維束状軽石型ガラスに対応する可能性が高く、その特徴から約7,300年前に南九州の鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah, 町田・新井, 1978, 1992, 2003, 2011)に由来すると考えられる。したがって、試料1付近にK-Ahの降灰層準があった可能性が考えられる。なお、このK-Ahは試料2にも含まれていると考えられ、5層はK-Ah降灰後に最終的に形成された土層と推定される。

岩相から、試料1に含まれる屈折率(n)が1.498-1.501の値をもつ可能性が高い無色透明のバブル型ガラスや繊維束状軽石型ガラスは、7層から採取された試料3~7にも含まれている。この火山ガラスは、その特徴から、約2.8~3万年前に南九州の始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 2003, 2011)に由来すると考えられる。その降灰層準は不明であるが、7層はAT降灰後に最終的に形成されている可能性が高い。

以上のテフラ粒子のほか、試料7(7層)や試料4(7層)などに含まれる低屈折率の火山ガラス(n :1.496~1.497)は、その屈折率特性から、通常約9.5万年前の鬼界葛原テフラ(K-Tz, 町田ほか, 1983, Nagaoka, 1988, 町田・新井, 2011)に由来する可能性が指摘されるが、約5万年以上前の三瓶雲南テフラ(SUn, 林・三浦, 1986, 三浦・林, 1991, 町田・新井, 2011)が西方にも降灰した可能性があることから(火山灰考古学研究所, 未公表試料)、今後の調査分析に注意しておく必要がある。また、試料6(7層)、試料3(7層)、試料2(5層)などに含まれている、 n :1.505~1.506程度の火山ガラスは、同試料に褐色角閃石が含まれていることを考えると、約8.5~9万年前に阿蘇火山から噴出した阿蘇4テフラ(Aso-4, 町田ほか, 1985, 町田・新井, 2011など)に由来する可能性が高い。

今回検出されたテフラ粒子の中には、ほかに雲仙火山や、本遺跡の上流域に広がる多良岳火山群の噴出物に由来するものが含まれている可能性も十分にある。今後、現地において詳細な土層観察を行うとともに、周辺の保存状態の良い地点でテフラ分析を実施して、本遺跡とその周辺に堆積しているテフラに関する情報の収集が実施されると良い。

5. まとめ

大村市竹松遺跡において採取された分析用試料を対象として、テフラ分析(火山ガラス比分析・火山ガラスの屈折率測定)を実施した。その結果、日本列島を代表する広域テフラの始良Tn火山灰(AT, 約2.8~3万年前)や鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah, 約7,300年前)などを検出できた。

文献

- 新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフクロロジーの基礎的研究. 第四紀研究, 11, p. 254-269.
- 新井房夫 (1993) 温度一定型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀研究試料分析法 2」, p. 136-149.
- 壇原 徹 (1993) 温度変化型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法 2—研究対象別分析法」, p. 149-158.
- 林 正久・三浦 清 (1986) 三瓶雲南軽石層の鉱物特性と分布の広域性. 島根大山陰地域研究 (自然環境), 2, p. 17-26.
- Nagaoka, S. (1988) The late Quaternary tephra layers from the caldera volcanoes in and around Kagoshima Bay, southern Kyushu, Japan. Geogr. Rept. Tokyo Metropol. Univ., 23, p. 49-122.
- 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰—始良 Tn 火山灰の発見とその意義. 科学, 46, p. 339-347.
- 町田 洋・新井房夫 (1978) 南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ—アカホヤ火山灰. 第四紀研究, 17, p. 143-163.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 「火山灰アトラス」. 東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫 (2003) 「新編火山灰アトラス」. 東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫 (2011) 「新編火山灰アトラス (第2刷)」. 東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫・長岡信治 (1983) 広域テフラによる南関東と南九州の後期更新世海成段丘の対比. 日本第四紀学会講演要旨集, no. 13, p. 45-46.
- 町田 洋・新井房夫・百瀬 貢 (1985) 阿蘇 4 火山灰—分布の広域性と後期更新世示標層としての意義—. 火山, 30, p. 49-70.
- 三浦 清・林 正久 (1991) 中国・四国地方の第四紀テフラ研究—広域テフラを中心として—. 第四紀研究, 30, p. 339-351.
- 早田 勉 (1999) テフクロロジー—火山灰で過去の時間と空間をさぐる方法—. 長友恒人編「考古学のための年代測定学入門」, 古今書院, p. 113-132.

表1 テフラ検出分析結果

土層	軽石			火山ガラス			重鉱物
	量	色調	最大径	量	形態	色調	
5層	1	**	bw>pm(fb)	淡褐, 褐, 無色透明	opx, cpx, am		
7層	2	*	bw	淡褐, 褐, 無色透明	opx, cpx, am, (ol)		
	3	(*)	bw, pm(sp)	淡褐, 褐, 無色透明, 灰~白	opx, cpx, (am)		
	4	(*)	bw	無色透明	opx, cpx, am		
	5	(*)	pm(sp)	灰~白	opx, am, cpx		
	6	(*)	bw	無色透明	opx, am, cpx		
	7	(*)	bw	無色透明	opx, cpx, (am, ol)		

***:とくに多い, **:多い, *:少ない, (*):とくに少ない, 最大径の単位:mm.

bw:バブル型, md:中間型, pm:軽石型, sc:スコリア型, opx:斜方輝石, cpx:斜方輝石, am:角閃石, 重鉱物の():量が少ないことを示す.

表2 火山ガラス比分析結果

土層	試料	火山ガラス						軽鉱物			重鉱物	その他	合計
		bw(cl)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)	軽鉱物	重鉱物	その他			
5層	1	7	4	2	0	2	5	107	113	260	500		
	2	2	1	0	1	2	0	108	115	271	500		
7層	3	3	0	0	1	3	1	94	114	284	500		
	4	0	0	0	0	1	0	95	99	305	500		
	5	0	0	0	0	2	0	60	76	362	500		
	6	2	0	0	1	0	0	89	117	291	500		
	7	1	0	0	1	1	0	73	97	327	500		

bw:バブル型, md:中間型, pm:軽石型, sc:スコリア型, cl:無色透明, pb:淡褐色, br:褐色, sp:スポンジ状, fb:繊維束状, 数字は粒子数.

表3 屈折率測定結果

地点・試料・テフラ	火山ガラス		文献
	屈折率(n)	測定点数	
竹松遺跡・試料1(5層)	1.498-1.513	30	本報告
	(1.498-1.501)	(13)	
	(1.506-1.513)	(17)	
竹松遺跡・試料2(5層)	1.501-1.510	31	本報告
竹松遺跡・試料3(7層)	1.497-1.506	16	本報告
	(1.497-1.500)	(7)	
	(1.502)	(1)	
	(1.505-1.506)	(8)	
竹松遺跡・試料4(7層)	1.497	2	本報告
竹松遺跡・試料5(7層)	1)		本報告
竹松遺跡・試料6(7層)	1.498-1.506	6	
	(1.498-1.499)	(3)	
	(1.505-1.506)	(3)	
竹松遺跡・試料7(7層)	1.496-1.499	6	本報告
	(1.496)	(1)	
	(1.499)	(5)	

九州北部周辺の広域指標テフラ(後期更新世以降)

鬼界アカホヤ(K-Ah, 約7,300年前)	1.505-1.513(1.510-1.512)	2)
始良Tn(AT, 約2.8~3万年前)	1.498-1.500	2)
九重第1(Kj-P1, 約5万年前)	1.503-1.506	2)
三瓶雲南(SUn, 約5万年前以前)	1.496-1.498	2)
阿蘇4(Aso-4, 約8.5~9万年前)	1.506-1.510(1.508)	2)
鬼界葛原(K-Tz, 約9.5万年前)	1.497-1.499	2)
阿多(Ata, 約10.5万年前)	1.507-1.511(1.510)	2)
阿蘇3(Aso-3, 約13~13.3万年前)	1.514-1.519	2)

屈折率測定法: 温度変化型屈折率法(壇原, 1993)による。

1): 測定可能粒子なし。2): 町田・新井(2011)。

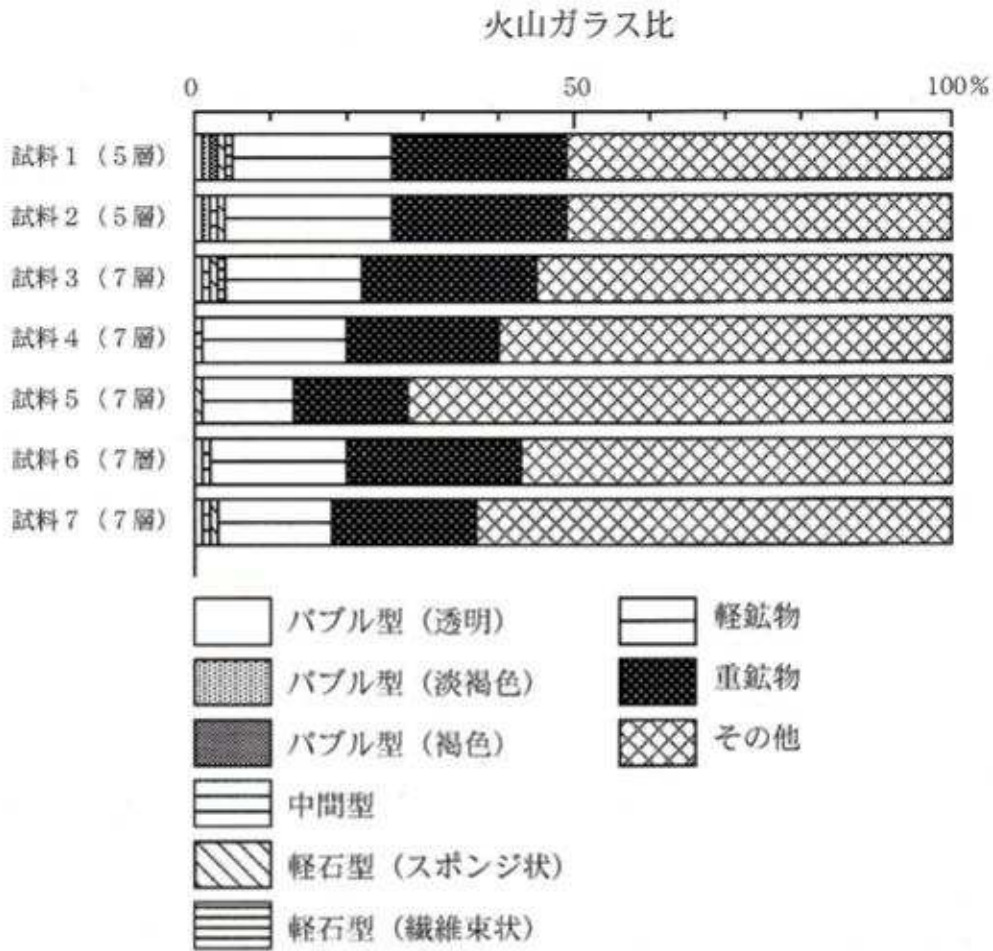
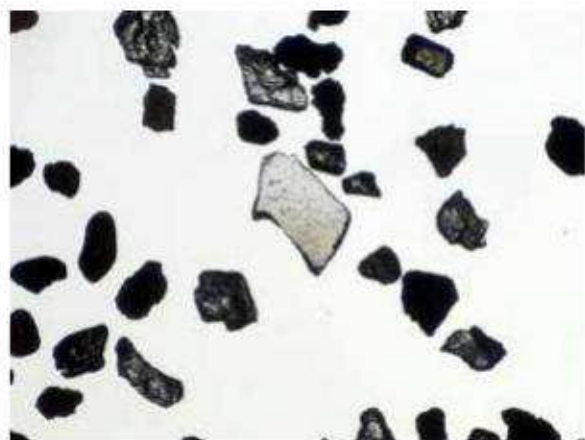


図1 竹松遺跡の火山ガラス比ダイヤグラム



0.2mm

写真1 試料1（5層）・透過光下
中央：淡褐色バブル型ガラス。



0.2mm

写真2 試料1（5層）・透過光下
中央：褐色バブル型ガラス。



0.2mm

写真3 試料6（7層）・透過光下
中央：無色透明バブル型ガラス。

VI. 総括

1. 縄文時代～中世

今回の調査においては縄文時代から中世の明確な遺構や包含層は確認されなかったが、近世陶磁器などに混ざって遺物が出土している。縄文時代の遺物については近世の遺構である SK04 から打製石斧や石皿が、SD02 から阿高系土器が出土しており、近隣に縄文時代の遺構もしくは包含層があった可能性が考えられる。調査地周辺には縄文時代晩期の埋甕や晩期の土器を中心に坂の下式土器などが出土した立小路遺跡があり、当調査区周辺にも活動が及んでいたことがうかがえる。

弥生時代から古墳時代については、立小路遺跡や隣接する川端遺跡で弥生時代から古墳時代の遺物が出土しており、立小路遺跡では竪穴建物跡も確認されていることから、周辺に弥生時代の集落が存在することは間違いない。一方で当調査区では当該期の遺物は少なく、また出土した遺物も小片のものが多く、時期不明ではあるがA区・B区ともに下層で旧河道が確認されている。B区基本土層5層と7層を試料として実施した火山灰分析の結果では、5層からは鬼界アカホヤ火山灰が検出されており、B区で検出した旧河道はこの5層を切っていることから、アカホヤ降灰後の流路であることがわかる。A区の旧河道は基本土層断面や周辺地形の観察から近年までその痕跡を残していたものと考えられるが、同様にB区についても河道埋没後も谷状地形となっていた可能性がある。こういった地形の影響により弥生時代から古墳時代には調査区付近の利用が低調であったことが想定される。

古代から中世についても同様に遺物は少なく小片である。貿易陶磁器も出土しているが、磨滅が見られるものもあり、流れ込みと考えられる。郡川の氾濫により供給された可能性もあろう。

2. 近世～近代

(1) 炉跡

時期の明確な遺構は近世の炉跡と近世から近代と考えられる廃棄土坑である。A区で確認された炉跡はピットを一度埋め戻して甕の破片を設置しており、比較的手の込んだつくりになっている。炉跡を取り囲むように検出された礫は被熱していないことから焼土と礫の間に構造物があったことを想定すべきと思われるがその痕跡は確認できず、また関連すると思われる遺物が出土していないことからその性格の解明には至れなかった。出土した甕は17世紀頃のものと思われるが、B区で確認された廃棄土坑も、時期が確認できる遺物で古いものは17世紀に遡る可能性があるものが見られ、その頃には調査区周辺が居住域として利用されていたことを示すものと言えよう。炉跡についても住居に伴う火処とも考えられるが、冶金も含めた生産活動に伴うものである可能性を残しておきたい。

(2) 門跡

今回の調査で最も大きな成果といえるのが門と考えられる構造物を伴うピット列(SA01)である。SA01を構成するピット自体からは遺物は出土していないものの、先述したように関連すると考えられるSD02からは近世陶磁器を含む遺物が出土しており、近世の遺構である蓋然性が高い。また、SD02だけでなく、SD01はSA01と並行しており、SD01についてもSA01との関連性がうかがえる。SD01は調査区東壁で深さ1mほどになっているが、それが他遺構の重複であった場合、全体的に深さ10～20cm程度の溝状遺構となる。SD01もSD02同様にSA01と並行しており、SA01の構造物(門部分)

の一部がSD01に張り出す形となっている。これらのことからSD01が道である可能性も考えられよう。

引用・参考文献

- 九州近世陶磁学会編 2000『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会
- 小松義博編 2018『立小路遺跡』長崎県文化財調査報告書第216集，長崎県教育委員会
- 長崎県窯業試験場編 1982『波佐見古陶磁文様集』肥前波佐見焼振興会
- 中野雄二編 1996『波佐見青磁展・くらわんか展』世界・森の博覧会波佐見町運営委員会
- 中野雄二編 2013『くらわんか藤田コレクション—寄贈記念図録—』波佐見町教育委員会
- 藤原友子編 2018『古武雄—ふるさと大地の記憶』佐賀県立九州陶磁文化館
- 舟山良一・石川健編『牛頸窯跡群—総括報告書Ⅰ—』大野城市文化財調査報告書第77集，大野城市教育委員会
- 古門雅高編 2017『竹松遺跡Ⅱ』新幹線文化財調査事務所文化財調査報告書第5集，長崎県教育委員会
- 宮崎貴夫編 1995『万才町遺跡』長崎県文化財調査報告書第123集，長崎県教育委員会
- 宮木貴史編 2018『川端遺跡』長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第26集，長崎県教育委員会 山本信夫 2000『大宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—』太宰府市教育委員会



写真 47 A区全景写真（左が北）



写真 48 B区全景写真（左が北）



写真 49 A区西壁土層断面北側（北東から）



写真 50 A区西壁土層断面南側（南東から）



写真 51 B区東壁土層断面（南西から）



写真 52 SL01 検出状況 (南から)



写真 53 SL01 焼土下壘検出状況 (北西から)



写真 54 SD01・SD02 検出状況 (東から)



写真 55 SD02 土層断面（東から）



写真 56 SD01 土層断面（北東から）



写真 57 B区全景写真 SB01 部分拡大（上が北西）



写真 58 SK04 完掘状況 (北東から)



写真 59 SK07 検出状況 (北東から)



写真 60 SX01 土層断面 (西から)



写真 61 出土土器（縄文時代）



写真 62 出土土器〔土師器・須恵器・瓦質土器〕（古墳時代～中世）



写真 63 出土陶磁器・石鍋（古墳時代～中世）



写真 64 出土陶磁器・瓦質土器（近世～近代）



054



055

写真 65 出土瓦 (近世～近代)



写真 66 出土土器・陶磁器・石鍋 (その他の遺構)



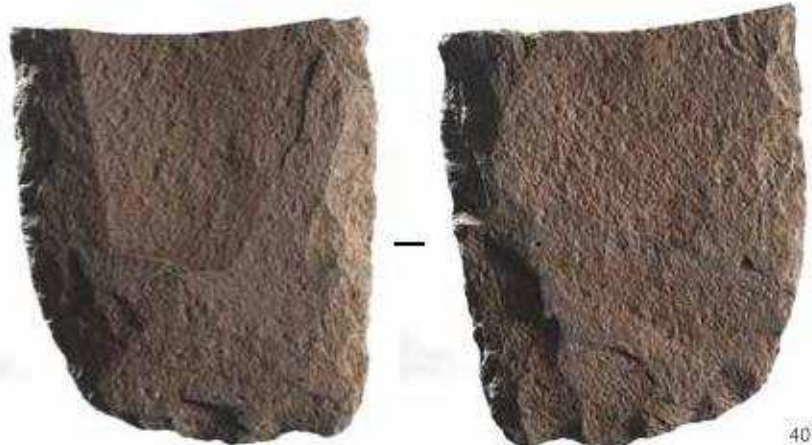
027



写真 67 SB01 出土陶磁器



411



401

写真 68 出土石器

報告書抄録

ふりがな	たけまついせき
書名	竹松遺跡
副書名	都市計画道路池田沖田線街路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	VI
シリーズ名	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号名	第29集
編著者名	松元一浩 山梨千晶
編集機関	長崎県埋蔵文化財センター
所在地	〒811-5322 長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触 515 番地1 電話 0920 (45) 4080
発行年月日	西暦 2019 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たけまついせき 竹松遺跡	ながさきけん 長崎県大村市 竹松町	42205	086	32° 57' 12"	129° 56' 53"	本調査 2016.10.24 ～ 2017.2.10	1,237 m ² 1,386 m ²	道路建設
				32° 56' 56"	129° 57' 04"	2017.7.3～ 2017.10.24		

収録遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
竹松遺跡	遺物包含地	縄文時代 弥生時代 古墳時代 中世 近世	掘立柱建物跡 集石遺構・集石墓 土坑・ピット 溝状遺構 掘立柱建物跡 溝状遺構 ピット列（門跡）	縄文晩期土器 石器 弥生土器 土師器・須恵器 土師質土器 瓦質土器 国産陶器 貿易陶磁器 古銭 陶磁器 瓦	石鏃・彫器・石斧・ 石錘・二次加工剥 片 台付甕 坏・皿・捏鉢 火鉢・風炉 常滑・備前 白磁・青磁・青花 皇宋銭・洪武通宝 肥前系

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第29集

竹松遺跡

2019(平成31)年3月31日

発行 長崎県教育委員会
長崎市尾上町3番1号

印刷 株式会社 インテックス